

第3期
十和田市地域福祉計画策定
のためのアンケート調査

—調査結果報告書—

令和8年3月

十和田市 健康福祉部 生活福祉課

<目 次>

I 調査概要	1
II 調査結果のまとめ	2
1 市民	2
1. 基本属性.....	2
2. 地域生活について.....	2
3. 地域活動・ボランティア活動について.....	4
4. 福祉サービスについて.....	4
5. 災害時の対応について.....	4
6. 再犯防止について.....	5
7. 十和田市社会福祉協議会、民生委員・児童委員について.....	5
2 団体	5
1. 基本属性.....	5
2. 団体の活動等.....	5
III 調査結果の分析（市民）	7
1 基本属性	7
1-1 性別.....	7
1-2 年齢.....	8
1-3 職業.....	9
1-4 世帯構成.....	10
1-5 居住年数.....	11
1-6 居住地区.....	13
1-7 居住形態.....	13
1-8 同居家族.....	14
2 地域生活について	15
2-1 暮らしやすいまちだと思うか.....	15
2-2 生きがい・やりがいの有無.....	17
2-3 生きがい・やりがい.....	18
2-4 生きがい・やりがいをもって暮らすために必要なこと.....	19
2-5 近所の人との交流や付き合いの状況.....	20
2-6 近所の人との関わりをどのようにしたいか.....	22
2-7 地域の中での問題点.....	23
2-8 地域に支えられた（助けられた）と感じたことはあるか.....	24
2-9 近所に見守り等支援が必要な人や気にかかる人がいるか.....	26
2-10 近所で虐待や暴力を身近に見聞きした場合の対応.....	28

2-11	通報（通告）しない理由	29
2-12	医療的ケア児の認知度	30
2-13	共生社会の認知度	31
2-14	ヤングケアラーの認知度	32
2-15	ケアラー・ヤングケアラーとしての経験の有無	33
2-16	日常生活での不安	34
2-17	日常生活での不安や悩みの相談先	35
2-18	近所の人困っているときにできること・していること	36
2-19	困っているときに近所の人にしてもらいたいこと	37
2-20	近所同士で自主的な協力関係は必要だと思うか	38
2-21	住民同士の助け合いを広げるために市が力を入れるべきこと	39
2-22	福祉サービスに関する情報の入手先	41
3	地域活動・ボランティア活動について	43
3-1	地域活動への参加状況	43
3-2	参加している地域活動	45
3-3	地域活動に参加していない理由	46
3-4	ボランティア活動の参加経験	47
3-5	参加したことのあるボランティア活動	48
3-6	地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なこと	49
4	福祉サービスについて	50
4-1	十和田市の福祉サービスや福祉施設についてどの程度知っているか	50
4-2	日常生活における支援を必要としている人が十分な福祉サービスを受けられていると思うか	52
4-3	十和田市の福祉サービスを充実させるために最も必要なこと	53
4-4	成年後見制度の認知度	54
4-5	生活困窮の問題や支援制度についての考え	54
4-6	十和田市の福祉政策をより充実させるために重要な取り組み	55
5	災害時の対応について	56
5-1	災害時の避難場所の認知度	56
5-2	災害発生時に困ると思うこと	58
5-3	避難行動要支援者の認知度	59
5-4	個別避難計画の認知度	59
6	再犯防止について	60
6-1	非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うか	60
6-2	非行や犯罪をした人の立ち直りに必要だと思う支援	61
7	十和田市社会福祉協議会、民生委員・児童委員について	62
7-1	十和田市社会福祉協議会の認知度	62
7-2	地域の民生委員・児童委員の認知度	64
7-3	民生委員・児童委員に期待すること	66

7-4	安心して暮らせる地域づくりのための課題や困りごと	67
IV	調査結果の分析（団体）	69
1	団体の概要について	69
1-1	構成人数	69
1-2	平均年齢	69
1-3	活動年数	70
1-4	主な活動区域	70
1-5	活動の頻度	71
2	団体の活動等について	72
2-1	取り組んでいる地域活動の分野	72
2-2	活動のPRや会員募集の方法	73
2-3	活動を行ううえでの問題点・課題	74
2-4	サービスの質の向上のための取り組み	75
2-5	地域のだれもが安心して生活するために取り組むべき課題	76
2-6	活動を通して見聞きしたことや対応したことがある事例	77
2-7	他のグループや団体、公共機関などとの交流や協力の状況	78
2-8	交流・連携・協力の内容	79
2-9	住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりのために必要な取り組み	81
2-10	活動していくうえで市に望むこと	82
2-11	地域における住民の福祉活動推進について行政に期待すること	83
3	地域福祉の推進に関する意見など	84
3-1	地域福祉の推進に関する意見など	84
V	資料編	86
1	使用した調査票（市民）	86
2	使用した調査票（団体）	102

I 調査概要

1 調査の目的

社会福祉法第 107 条に基づき、地域におけるフォーマル・インフォーマルサービス等の利用状況や地域福祉活動への参加状況等について、地域住民や地域活動に携わる方々へのアンケート調査を実施し現状を把握するとともに、地域の基本特性も踏まえた地域福祉計画策定の基礎資料とする。

2 調査期間

令和 7 年 9 月 4 日（木）～令和 7 年 9 月 19 日（金）

※10月1日（水）までの回収票も有効とした

3 調査対象

市民 1,000 件・団体 200 件

4 調査方法

郵送配布・郵送回答

5 回答状況

発送数（件）		有効回収数（件）	有効回収率（％）
市民	1,000	371	37.1
団体	200	126	63.0

6 調査結果の見方

- n（number of cases）は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表している。
- 回答割合は百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても 100.0%にならない場合がある。
また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると 100.0%を超える場合がある。
- 回答が皆無（0 件）であった選択肢の回答割合は、図表中では「-」と表記している。
- 調査数（n）が少数のものは、回答割合の信頼性が低いため、コメントを省略している場合がある。
- 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合がある。

II 調査結果のまとめ

1 市民

1. 基本属性

- ・性別については、「男性」が47.4%、「女性」が49.9%となっており、女性の割合が男性よりやや高くなっている。
- ・年齢については、「60代」が2割台半ばと最も高く、次いで、「70代以上」が2割台となっている。
- ・職業については、「会社員・公務員・団体職員等」が約5割と最も高くなっており、前回調査と比較すると約9ポイント上昇している。
- ・世帯構成については、「親子2世代世帯」が4割台と最も高く、次いで、「単身世帯」が約3割となっている。全体の約6割を「親子2世代世帯」(40.2%)、「夫婦のみの世帯」(16.4%)が占めており、「親子孫3世代世帯」は約6%にとどまっている。なお、前回調査と比較すると、「単身世帯」は約16ポイント上昇している。
- ・居住年数については、「20年以上」が7割台後半と最も高くなっている。
- ・居住地区については、「三本木中学校区」が1割台後半と最も高くなっている。
- ・居住形態については、「持ち家」が7割台半ばと最も高くなっている。
- ・同居家族については、「いずれもない」が4割以上を占めているものの、「65歳以上の方」も3割台となっている。前回調査と比較すると、「65歳以上の方」が約12ポイント下降している。なお、「いずれもない」は約12ポイント上昇している。

2. 地域生活について

- ・暮らしやすいまちだと思うかについては、「暮らしやすいと思う」と「まあまあ暮らしやすいと思う」を合わせた《暮らしやすいと思う》が約7割となっている。
- ・生きがい・やりがいの有無については、「ある」が約4割となっており、その内容については、「家族に関すること」が4割台と最も高く、次いで、「趣味(文化・スポーツ)活動」、「就労」が3割台となっている。20代~30代では「ある」が6割以上と高くなっており、その内容については「家族に関すること」が6割台となっている。
- ・生きがい・やりがいをもって暮らすために必要なことについては、「心身の健康」が最も高く、次いで、「経済的余裕」が続いており、いずれも7割台後半となっている。
- ・近所の人との交流や付き合いの状況については、「会うとあいさつをする程度の人がいる」が3割台と最も高くなっている。「会うとあいさつをする程度の人がいる」、「ほとんど近所の付き合いはない」は概ね年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、若年層ほど住民同士の間関係が希薄化している状況がうかがえる。
- ・近所の人との関わりをどのようにしたいかについては、「隣近所の人との関わりは大切にしたい」が約5割と、最も高くなっている。

- ・地域の中での問題点については、「高齢化が進行していること」が6割台後半と最も高く、次いで、「移動手段がないこと」が3割台半ばとなっている。高齢者に対し、免許返納に伴う移動支援等の拡充をする必要があると考えられる。
- ・地域に支えられた（助けられた）と感じたことがあるかについては、「ある」が約5割となっている。
- ・近所に見守り等支援が必要な人や気にかかる人がいるかについては、「高齢者のみの世帯」が約4割と最も高く、次いで、「認知症の人」が約1割となっている。
- ・近所で虐待や暴力を身近に見聞きした場合の対応については、「通報（通告）する」が約7割、「通報（通告）しない」が2割台半ばとなっている。なお、通報しない理由については、「虐待や暴力ではないかもしれないから（虐待や暴力の証拠がないから）」、「誤って通報（通告）した場合、相手に悪影響を及ぼす恐れがあるから」が最も高く、いずれも6割台となっている。
- ・医療的ケア児の認知度および共生社会の認知度については、いずれも「知らなかった」が4割台と最も高くなっており、情報提供や啓発活動が必要な状況がうかがえる。
- ・ヤングケアラーの認知度については、「内容まで知っていた」が5割台と最も高くなっており、概ね年代が下がるにつれて認知度が高くなる傾向がある。なお、ケアラー・ヤングケアラーとしての経験の有無については、「ない」が8割台と最も高くなっており、
- ・日常生活での不安については、「自分や家族の老後のこと」が最も高く、次いで、「自分や家族の健康のこと」、「収入など経済的なこと」が続いており、いずれも5割台となっている。
- ・日常生活での不安や悩みの相談先については、「同居の家族」、「友人・知人」が4割台、「同居していない家族」が3割台半ばと、近親者や身近な人が上位を占めている。なお、前回調査と比較すると、「同居の家族」は約19ポイント下降している。
- ・近所の人困っているときにできること・していることについては、「話し相手」が最も高く、次いで、「安否確認の声かけ」と続いているが、いずれも1割台後半にとどまっている。なお、「特にない」が5割台半ばを占めている。前回調査と比較すると、「特にない」を除くすべての選択肢が下降しており、住民間の共助意識向上に向けた取り組みの拡充が必要な状況がうかがえる。
- ・困っているときに近所の人にしてもらいたいことについては、「緊急時の通報や看病」が約2割と最も高く、次いで、「安否確認の声かけ」が1割台半ばとなっている。なお、「特にない」が約5割を占めている。
- ・近所同士で自主的な協力関係は必要だと思うかについては、「思う」が7割台となっている。また、概ね年代が上がるにつれて「思う」が高くなる傾向にある。
- ・住民同士の助け合いを広げるために市が力を入れるべきことについては、「わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供」が最も高く、次いで、「誰でも気軽に集える「居場所」の確保」が続いており、いずれも3割台となっている。
- ・福祉サービスに関する情報の入手先については、「市役所」が4割台半ばと最も高く、次いで、「友人、知人」、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が2割台となっている。

II 調査結果のまとめ

3. 地域活動・ボランティア活動について

- ・地域活動への参加状況については、「参加していない」が5割台となっている。
- ・参加している地域活動については、「町内会活動」が約8割と最も高く、次いで、「清掃・美化活動」が約6割となっている。なお、前回調査と比較すると、「町内会活動」は約14ポイント上昇している。
- ・地域活動に参加していない理由については、「仕事が忙しく、参加する時間が取れないから」が約5割と最も高く、次いで、「活動の内容や参加方法がわからないから」、「参加したい活動がないから」が2割前後となっている。
- ・ボランティア活動の参加経験については、「参加したことがある」が約3割となっている。
- ・参加したことがあるボランティア活動については、「自然・環境保護に関する活動」が約4割と最も高く、次いで、「地域交流・まちづくりに関する活動」が3割台となっている。
- ・地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことについては、「困っている人や、助け合いの場・組織についての情報を得やすくすること」が3割台と最も高く、次いで、「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行うこと」が約3割となっている。

4. 福祉サービスについて

- ・十和田市の福祉サービスや福祉施設についてどの程度知っているかについては、「ほとんど知らない」が約6割と最も高くなっており、情報提供や広報活動の一層の拡充が必要だと考えられる。
- ・日常生活における支援を必要としている人が十分な福祉サービスを受けられていると思うかについては、「十分な福祉サービスを受けているとは思えない」が2割台と最も高くなっている。なお、「十分な福祉サービスを受けていると思う」は約3%にとどまっており、サービスが必要な人に行き届くような体制整備を推進していく必要があると考えられる。
- ・十和田市の福祉サービスを充実させるために最も必要なことについては、「福祉サービスに関する情報提供窓口を増やす」が3割台と、最も高くなっている。
- ・成年後見制度の認知度については、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が3割台半ばと、最も高くなっている。
- ・生活困窮の問題や支援制度についての考えについては、「自分の身近に問題に直面している人はいないが、必要な制度だと思う」が約6割と、最も高くなっている。
- ・十和田市の福祉政策をより充実させるために重要な取り組みについては、「交通の利便性の確保をすすめる」が4割台と最も高く、次いで、「安心して子どもを生み育てられる子育て環境を充実させる」、「手当てなど金銭的な援助を充実させる」が3割台となっている。

5. 災害時の対応について

- ・災害時の避難場所の認知度については、「知らない」が3割台となっている。「知らない」は前回調査より約8ポイント下降しているものの、避難場所をはじめとした防災知識の一層の普及や啓発が重要だと考えられる。

- ・災害発生時に困ると思うことについては、「物資の入手方法などがわからない」が約5割と最も高く、次いで、「災害の情報がわからない」が3割台後半となっている。なお、前回調査と比較すると、「災害の情報がわからない」が約15ポイント、「避難場所がわからない」が約9ポイント下降しており、防災に関する情報の認知度が高くなっている状況がうかがえる。
- ・避難行動要支援者の認知度については、「知らない」が5割台と最も高くなっている。また、個別避難計画の認知度についても、「知らない」が6割台と最も高くなっており、情報提供体制の充実が必要だと考えられる。

6. 再犯防止について

- ・非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うかについては、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない》が5割台半ばを占めている。なお、非行や犯罪をした人の立ち直りに必要だと思う支援については、「就労支援」が最も高く、次いで、「自立に向けたカウンセリング」が続いており、いずれも約5割となっている。

7. 十和田市社会福祉協議会、民生委員・児童委員について

- ・十和田市社会福祉協議会の認知度については、「名前は知っているが活動は知らない」が5割台半ばと最も高く、「名前も活動も知らない」も1割台半ばとなっている。前回調査と比較すると、「名前も活動も知らない」が約10ポイント下降しており、認知度の上昇がみられるものの、引き続き活動内容も含めた啓発の一層の拡充が必要な状況がうかがえる。
- ・地域の民生委員・児童委員の認知度については、「地域の民生委員・児童委員さんも活動内容も知らない」が約4割と最も高くなっているものの、前回調査と比較すると、約14ポイント下降している。
- ・民生委員・児童委員に期待することについては、「高齢者世帯の孤立防止に関する見守り」が5割台と最も高く、次いで、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」、「福祉に関する情報提供」が約4割となっている。

2 団体

1. 基本属性

- ・構成人数については、「11～20人」が3割台半ばと最も高くなっている。
- ・平均年齢については、「50歳～60歳代」が4割台半ばと最も高く、次いで、「70歳以上」が約4割となっている。50歳以上の割合は全体の8割以上を占めており、前回調査と比較すると、約10ポイント上昇している。
- ・活動年数については、「10年以上」が7割台半ばと最も高くなっている。
- ・主な活動区域については、「市内全域」、「市内と隣接市町村など」が約3割と最も高くなっている。
- ・活動の頻度については、「月3～4回」が2割台後半と最も高くなっている。

2. 団体の活動等

- ・取り組んでいる地域活動の分野については、「芸術・文化振興、趣味活動」が4割台後半と

II 調査結果のまとめ

最も高く、次いで、「教育・生涯学習、スポーツ」が約4割となっている。なお、前回調査と比較すると、「芸術・文化振興、趣味活動」が約12ポイント上昇している。

- ・活動のPRや会員募集の方法については、「市の広報紙」が5割台半ばと最も高く、次いで、「会員一人ひとりの紹介」が約4割となっている。また、前回調査と比較すると、「市の広報誌」が約16ポイント上昇している。
- ・活動を行ううえでの問題点・課題については、「スタッフの高齢化が進んでいる」が5割台と最も高く、次いで、「後継者がいない・育たない」が3割台、「スタッフが不足している」が2割台半ばとなっており、人材不足や高齢化に課題がある状況がうかがえる。
- ・サービスの質の向上のための取り組みについては、「利用者への情報提供の充実」が2割台後半と最も高く、次いで、「個人情報保護・管理の徹底」が約2割となっている。なお、「特にない」が約4割を占めている。
- ・地域のだれもが安心して生活するために取り組むべき課題については、「隣近所とのコミュニケーション」、「地域活動への参加」が最も高く、いずれも約6割となっている。
- ・活動を通して見聞きしたことや対応したことがある事例については、「地域とのつながりがない、地域とのトラブルがある」が最も高く、次いで、「医療的ケア児の家族の負担が大きい」、「必要と思われる支援や関わりを拒否し、適切な支援が受けられていない」が続いており、いずれも約1割となっている。なお、「特にない」が6割以上を占めている。
- ・他のグループや団体、公共機関などとの交流や協力の状況については、「いくつかの団体とは、活動上の協力を行ったり、情報交換を行うなどの交流を行っている」が約4割と最も高くなっているものの、前回調査と比較すると約12ポイント下降している。
- ・住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりのために必要な取り組みについては、「他の団体や関係機関との交流の機会をもつ」が5割台と最も高く、次いで、「町内会など、地域団体と連携して、活動の場を広げる」、「団体が持っている活動のノウハウを地域の住民や他の団体に提供する」が2割台となっている。なお、前回調査と比較すると、「町内会など、地域団体と連携して、活動の場を広げる」は約21ポイント下降している。
- ・活動していくうえで市に望むことについては、「活動場所の提供」が最も高く、次いで、「会員募集の支援」が続いており、いずれも約3割となっている。
- ・地域における住民の福祉活動推進について行政に期待することについては、「困った時に、いつでも・誰でも相談できる柔軟な相談窓口の設置」が最も高く、次いで、「地域の人達が気軽に集まって交流することができる場所の拡充」が続いており、いずれも4割台となっている。

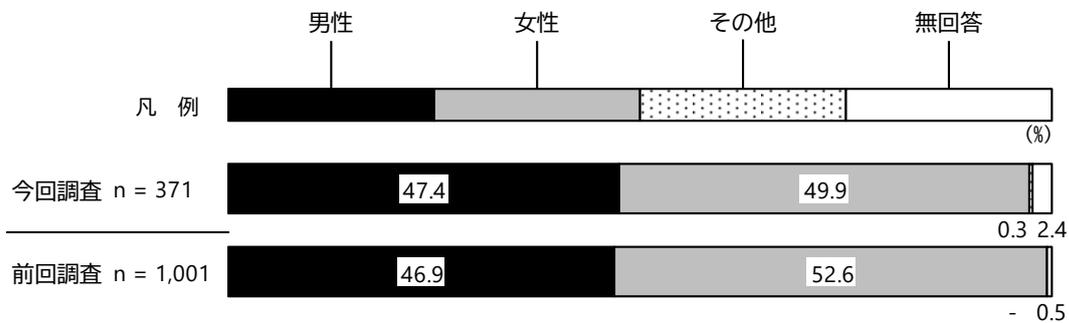
Ⅲ 調査結果の分析（市民）

1 基本属性

1-1 性別

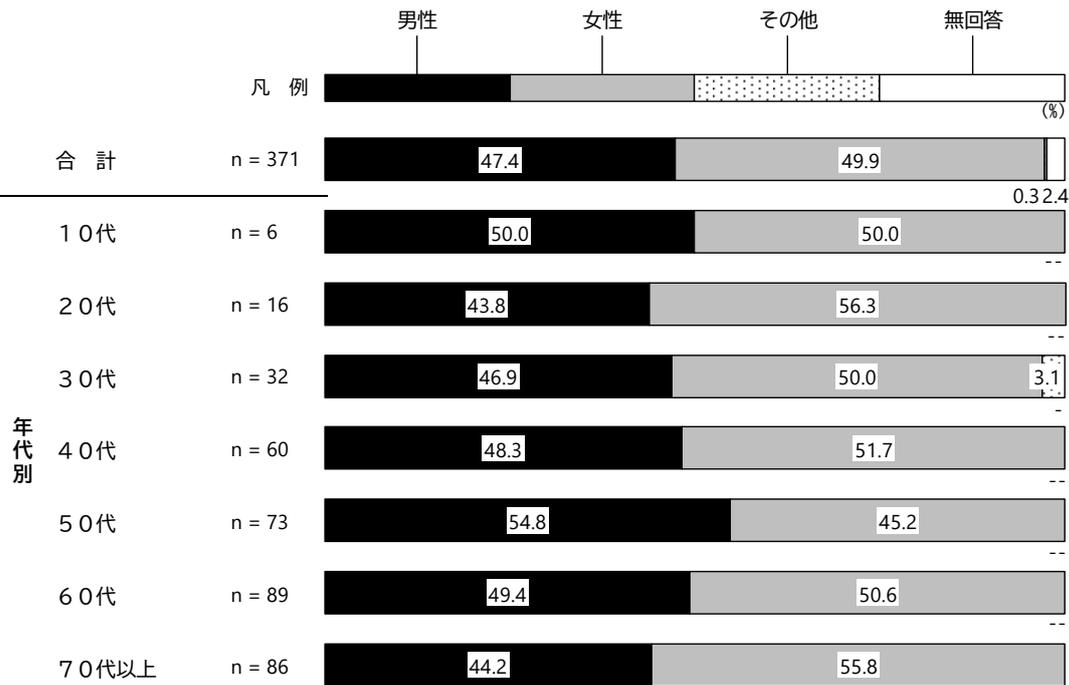
- ▶ 性別については、「男性」が47.4%、「女性」が49.9%となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。
- ▶ 年代別に見ると、いずれの年代も「男性」、「女性」ともに4～5割台となっている。

問1 あなたの性別を教えてください。（○印は1つ）



※「その他」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取

【年代別／性別】

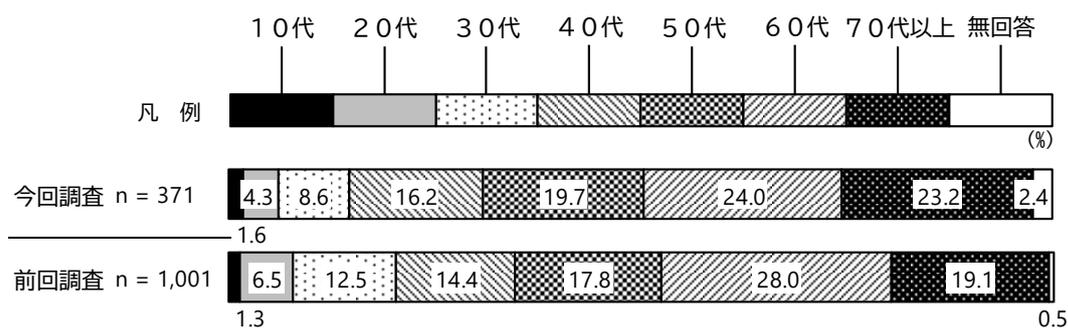


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

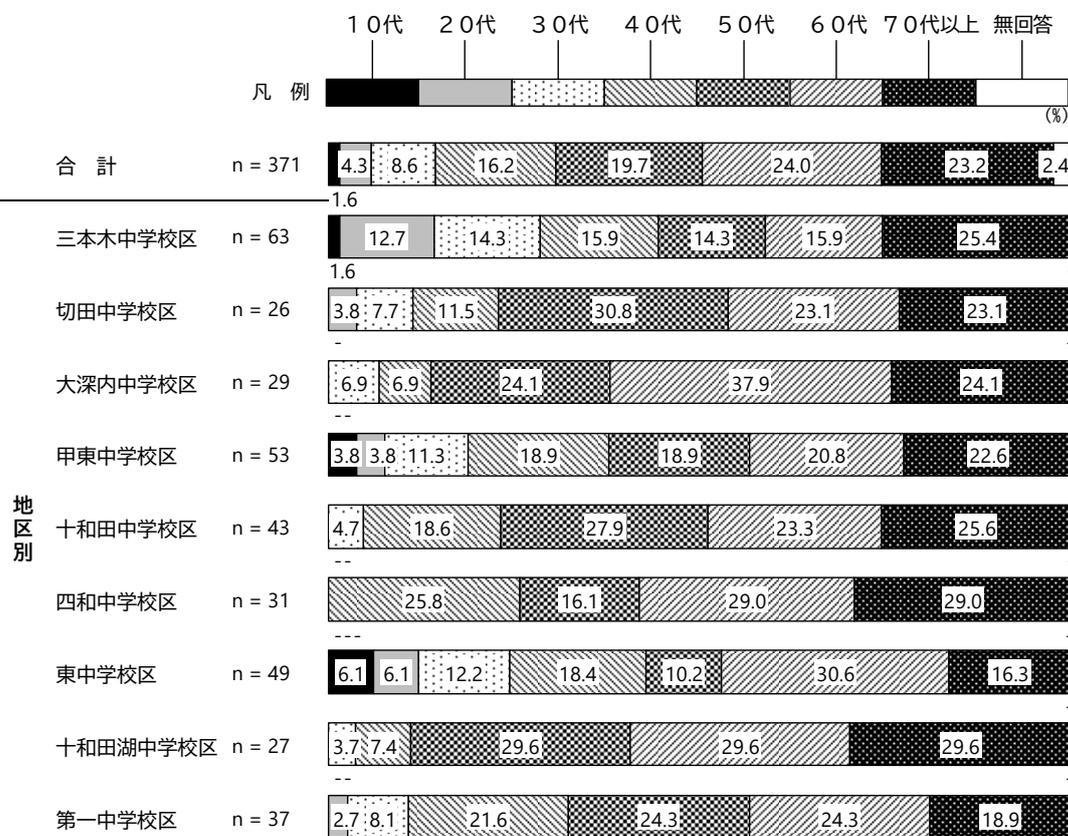
1-2 年齢

- ▶ 年齢については、「60代」が24.0%と最も高く、次いで、「70代以上」（23.2%）、「50代」（19.7%）、「40代」（16.2%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。
- ▶ 地区別に見ると、『大堀内中学校区』、『四和中学校区』、『十和田湖中学校区』では60代以上が半数以上を占めている。

問2 あなたの年齢は何歳ですか。（○印は1つ）



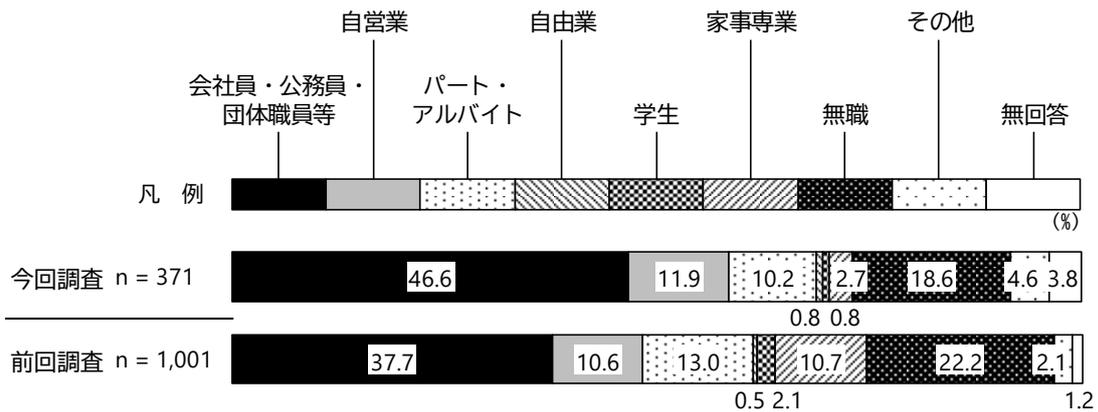
【地区別／年齢】



1-3 職業

- ▶ 職業については、「会社員・公務員・団体職員等」が46.6%と最も高く、次いで、「無職」(18.6%)、「自営業」(11.9%)、「パート・アルバイト」(10.2%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「会社員・公務員・団体職員等」が8.9ポイント上昇しており、やや変動がみられる。

問3 あなたのご職業を教えてください。(○印は1つ)



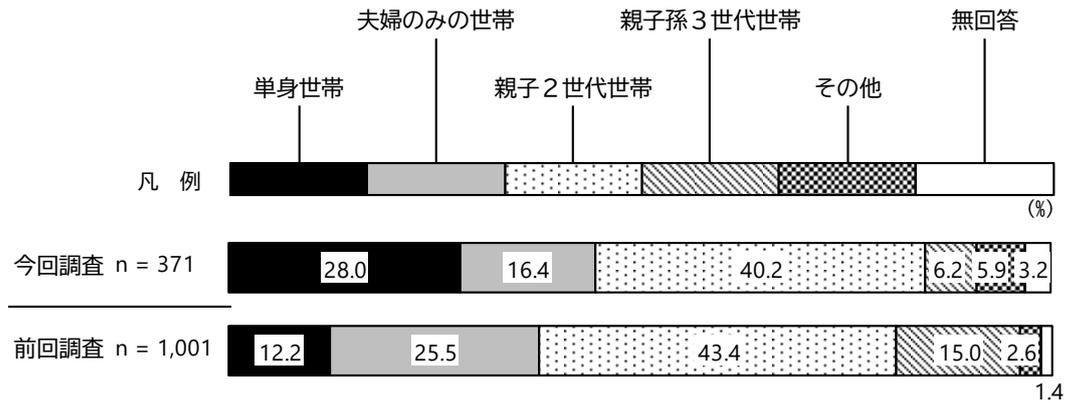
※「会社員・公務員・団体職員等」については前回調査の「会社員・公務員・団体等」の回答と比較した

Ⅲ 調査結果の分析（市民）

1-4 世帯構成

- ▶ 世帯構成については、「親子2世代世帯」が40.2%と最も高く、次いで、「単身世帯」(28.0%)、「夫婦のみの世帯」(16.4%)、「親子孫3世代世帯」(6.2%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「単身世帯」が15.8ポイント上昇している。

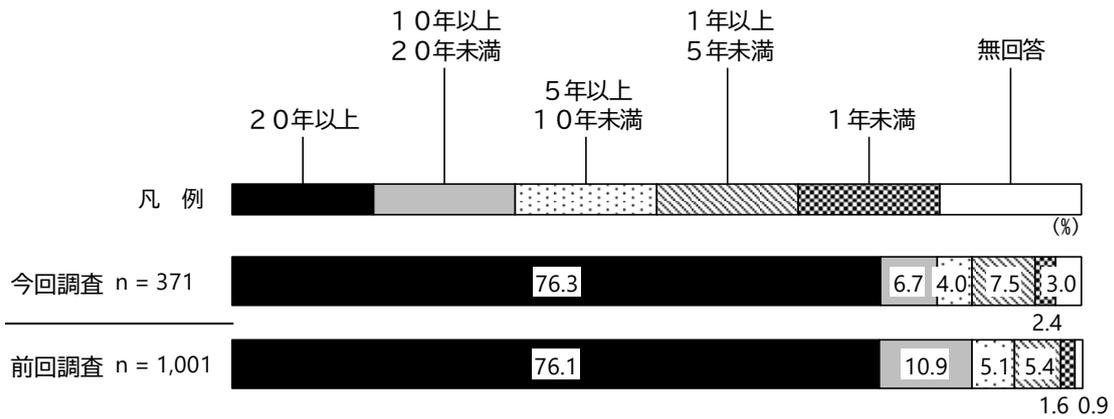
問4 あなたの世帯構成を教えてください。(○印は1つ)



1-5 居住年数

- ▶ 居住年数については、「20年以上」が76.3%と最も高く、次いで、「1年以上5年未満」(7.5%)、「10年以上20年未満」(6.7%)、「5年以上10年未満」(4.0%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

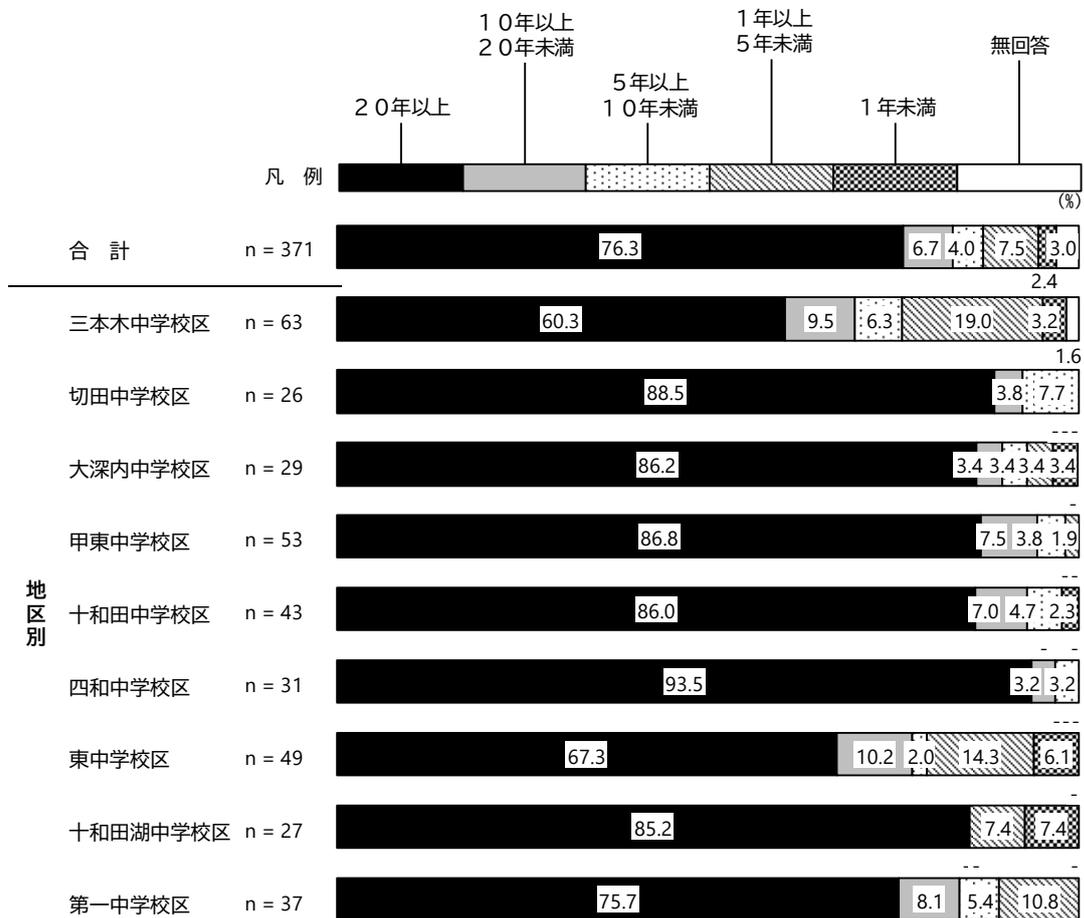
問5 あなたは、十和田市に住み始めて何年になりますか。（○印は1つ）



Ⅲ 調査結果の分析（市民）

【地区別／居住年数】

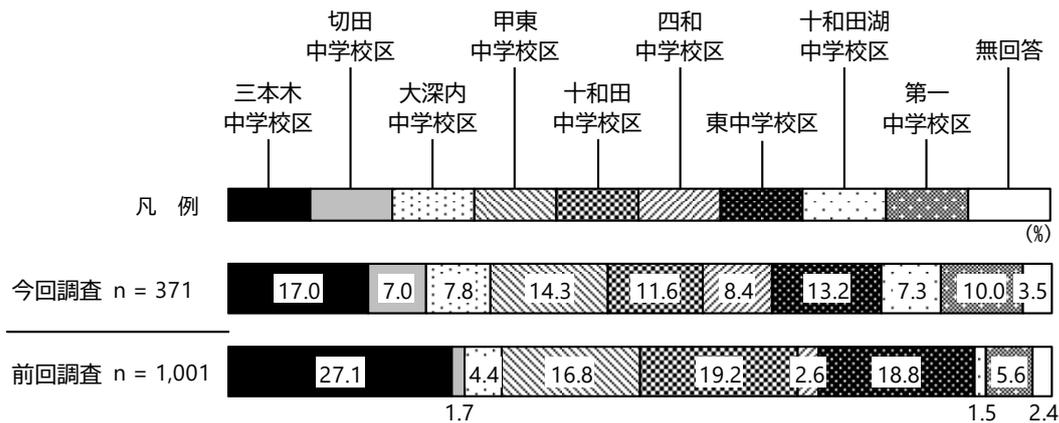
- ▶ 地区別に見ると、『三本木中学校区』、『東中学校区』では「20年以上」が6割台と、他の地区に比べてやや低くなっている。



1-6 居住地区

- ▶ 居住地区については、「三本木中学校区」が 17.0%と最も高く、次いで、「甲東中学校区」(14.3%)、「東中学校区」(13.2%)、「十和田中学校区」(11.6%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「三本木中学校区」が 10.1ポイント下降している。

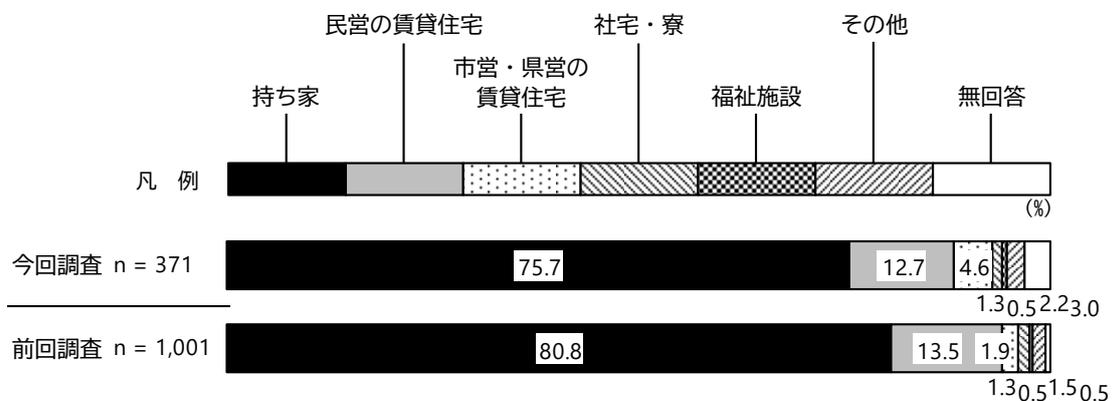
問6 あなたのお住まいの地区はどこですか。中学校区でお答えください。（○印は1つ）



1-7 居住形態

- ▶ 居住形態については、「持ち家」が 75.7%と最も高く、次いで、「民営の賃貸住宅」(12.7%)、「市営・県営の賃貸住宅」(4.6%)、「社宅・寮」(1.3%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

問7 あなたのお住まいの種類を教えてください。（○印は1つ）

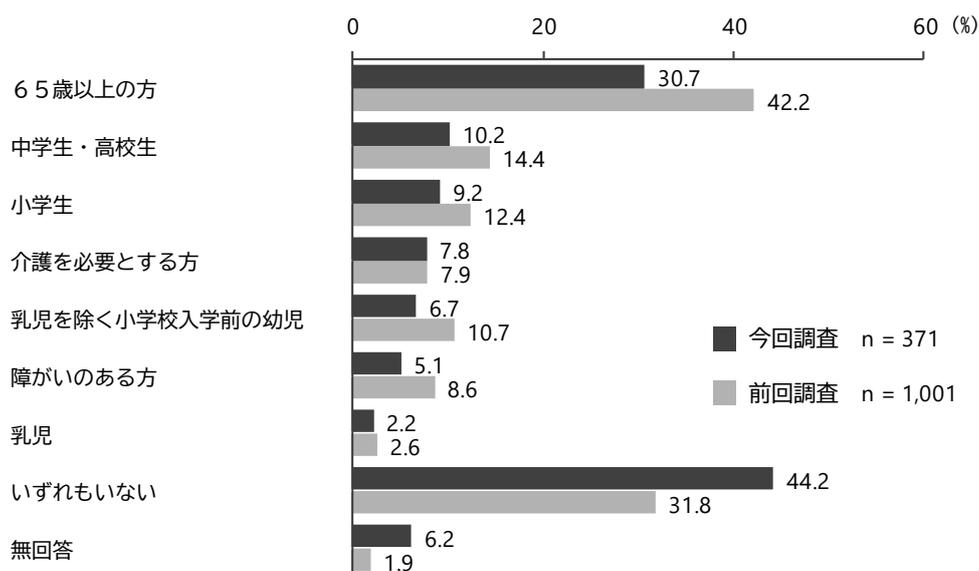


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

1-8 同居家族

- ▶ 同居家族については、「65歳以上の方」が30.7%と最も高く、次いで、「中学生・高校生」(10.2%)、「小学生」(9.2%)、「介護を必要とする方」(7.8%)となっている。なお、「いずれもない」が44.2%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「65歳以上の方」が11.5ポイント下降している。なお、「いずれもない」は12.4ポイント上昇している。

問8 現在、一緒に住んでいる方に、次のような方はいますか。(あてはまるものすべてに○)



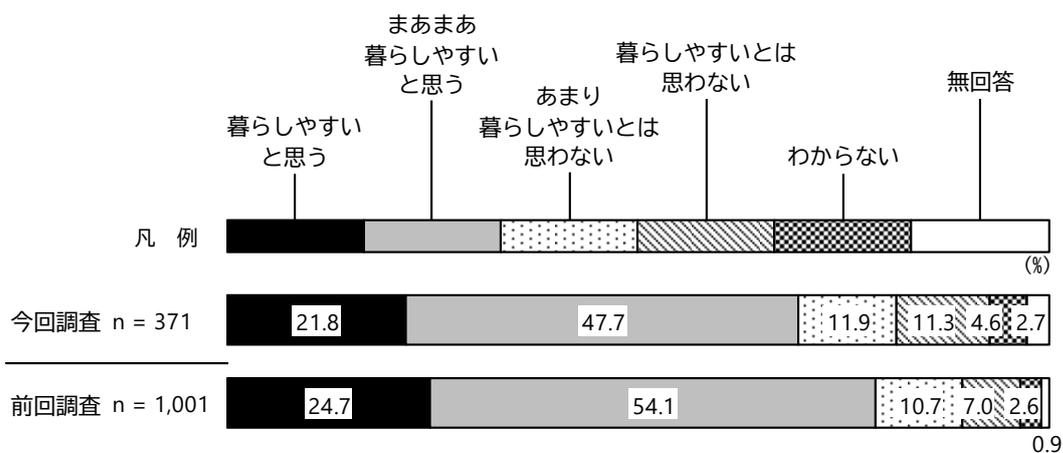
※「障がいのある方」については前回調査の「身体・知的・精神などの障がいのある方」の回答と比較した

2 地域生活について

2-1 暮らしやすいまちだと思うか

- ▶ 暮らしやすいまちだと思うかについては、「まあまあ暮らしやすいと思う」が47.7%と最も高く、次いで、「暮らしやすいと思う」（21.8%）、「あまり暮らしやすいとは思わない」（11.9%）、「暮らしやすいとは思わない」（11.3%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

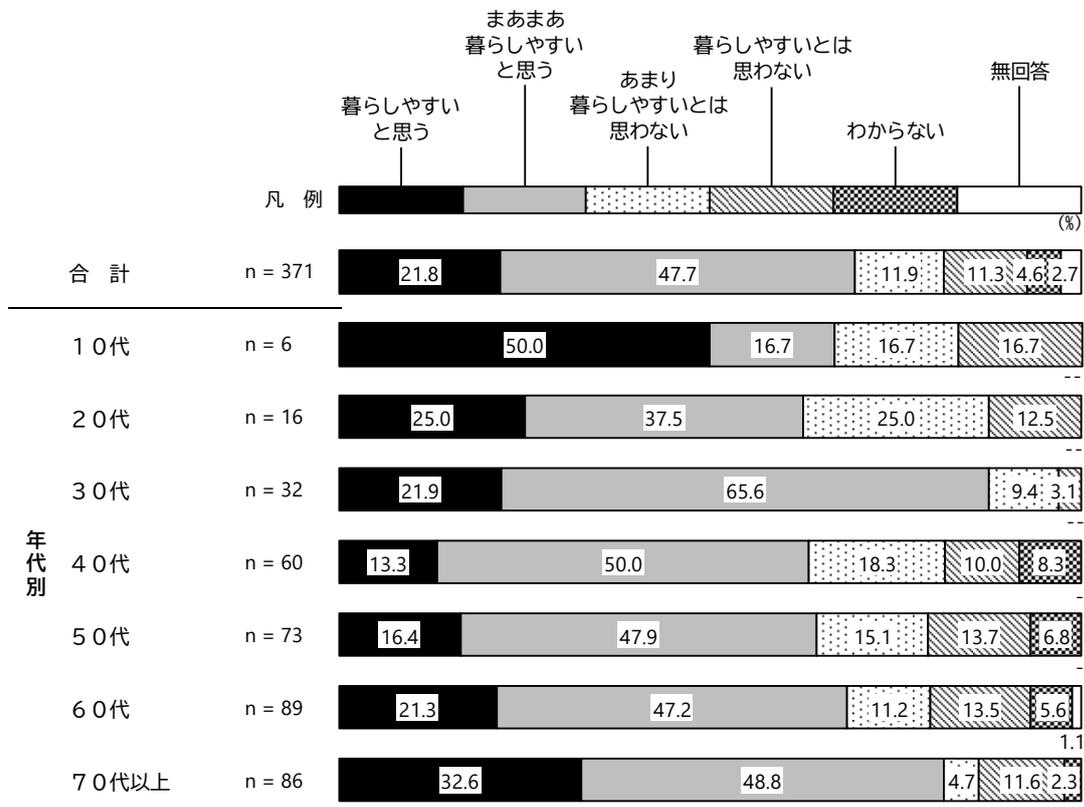
問9 十和田市は暮らしやすいまちだと思いますか。（○印は1つ）



Ⅲ 調査結果の分析（市民）

【年代別／暮らしやすいまちだと思うか】

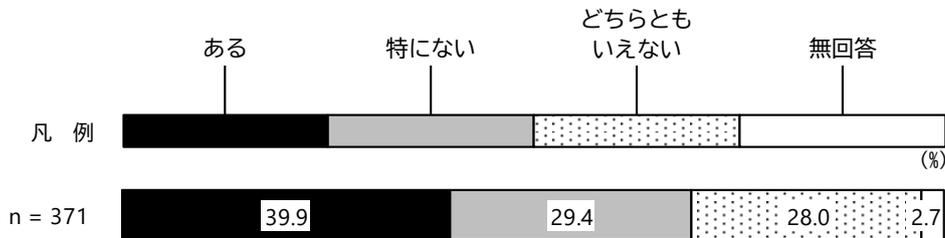
- ▶ 年代別に見ると、「暮らしやすいと思う」と「まあまあ暮らしやすいと思う」を合わせた《暮らしやすいと思う》については、『30代』、『70代以上』で8割以上と、他の年代に比べて高くなっている。



2-2 生きがい・やりがいの有無

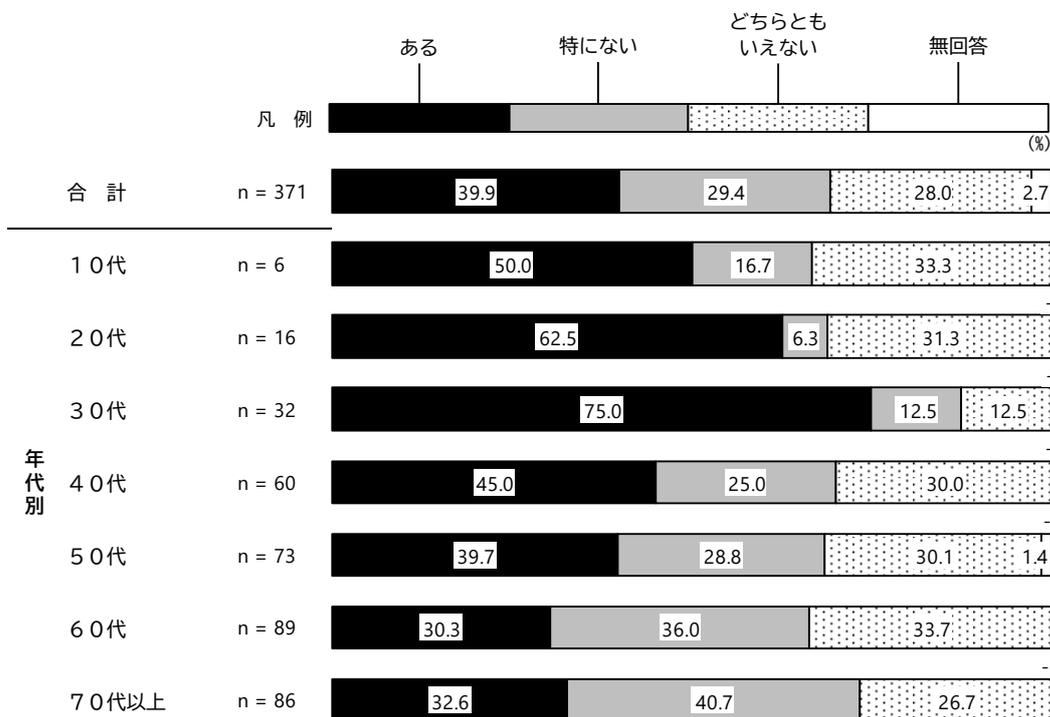
▶ 生きがい・やりがいの有無については、「ある」が39.9%と最も高く、次いで、「特にな
い」(29.4%)、「どちらとも
いえない」(28.0%)となっている。

問10 あなたは現在、生きがい・やりがいがありますか。(○印は1つ)



【年代別／生きがい・やりがいの有無】

▶ 年代別に見ると、20代～30代では「ある」が6割以上と、他の年代に比べて高くな
っている。

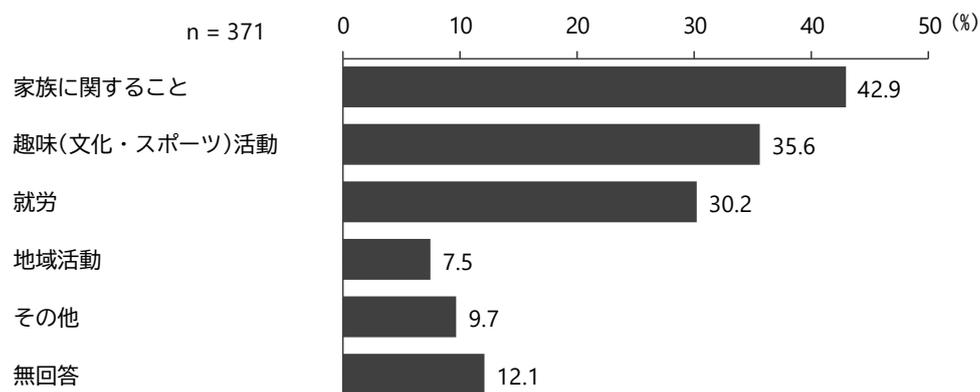


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-3 生きがい・やりがい

- ▶ 生きがい・やりがいについては、「家族に関すること」が42.9%と最も高く、次いで、「趣味(文化・スポーツ)活動」(35.6%)、「就労」(30.2%)、「地域活動」(7.5%)となっている。

問11 あなたの生きがい・やりがいはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)



【年代別／生きがい・やりがい】

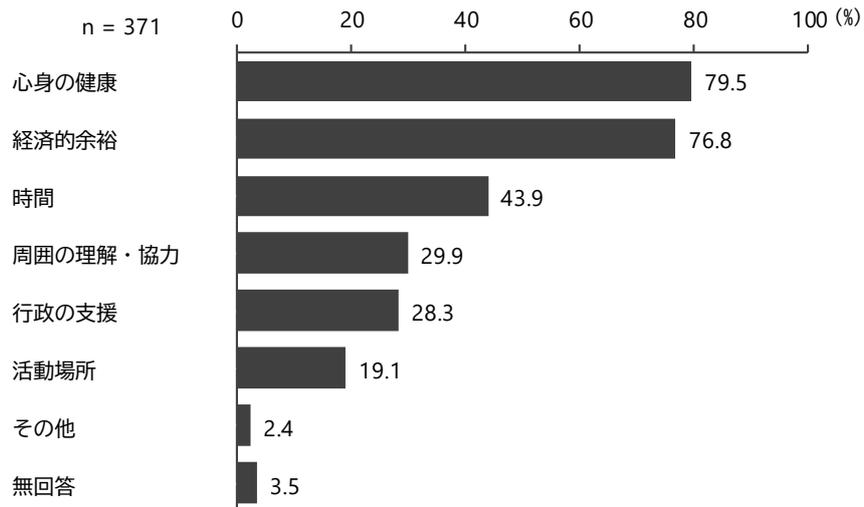
- ▶ 年代別に見ると、20代～30代では「家族に関すること」が62.5%と、他の年代に比べて高くなっている。

		n	家族に関すること	趣味(文化・スポーツ)活動	就労	地域活動	その他	無回答
合計		371	42.9	35.6	30.2	7.5	9.7	12.1
年代別	10代	6	33.3	66.7	33.3	-	-	16.7
	20代	16	62.5	56.3	43.8	-	-	-
	30代	32	62.5	37.5	25.0	6.3	6.3	-
	40代	60	51.7	46.7	48.3	8.3	6.7	5.0
	50代	73	50.7	32.9	24.7	4.1	9.6	8.2
	60代	89	38.2	39.3	38.2	7.9	9.0	11.2
	70代以上	86	29.1	23.3	16.3	12.8	17.4	18.6

2-4 生きがい・やりがいをもって暮らすために必要なこと

- ▶ 生きがい・やりがいをもって暮らすために必要なことについては、「心身の健康」が79.5%と最も高く、次いで、「経済的余裕」(76.8%)、「時間」(43.9%)、「周囲の理解・協力」(29.9%)となっている。

問 12 生きがい・やりがいをもって暮らすためには何が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



【年代別／生きがい・やりがいをもって暮らすために必要なこと】

- ▶ 年代別に見ると、30代～40代では「時間」が約7～8割以上と、他の年代に比べて高くなっている。

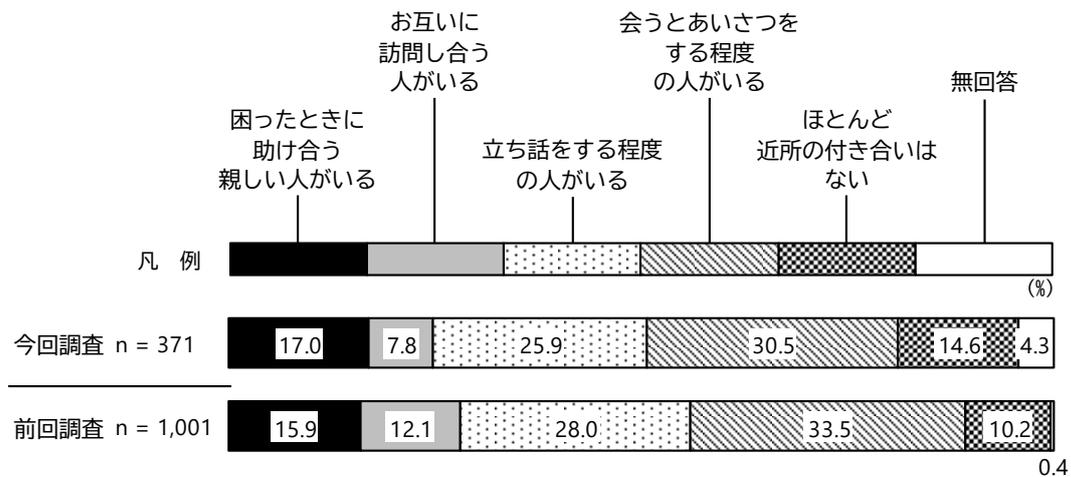
		n	心身の健康	経済的余裕	時間	周囲の理解・協力	行政の支援	活動場所	その他	無回答
合 計		371	79.5	76.8	43.9	29.9	28.3	19.1	2.4	3.5
年代別	10代	6	83.3	83.3	66.7	16.7	-	50.0	-	-
	20代	16	56.3	87.5	50.0	50.0	31.3	31.3	-	-
	30代	32	87.5	90.6	68.8	46.9	31.3	21.9	6.3	-
	40代	60	75.0	91.7	80.0	45.0	36.7	26.7	3.3	-
	50代	73	72.6	84.9	56.2	28.8	26.0	17.8	1.4	-
	60代	89	86.5	79.8	30.3	25.8	30.3	20.2	3.4	-
	70代以上	86	90.7	57.0	15.1	18.6	25.6	10.5	1.2	4.7

Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-5 近所の人との交流や付き合いの状況

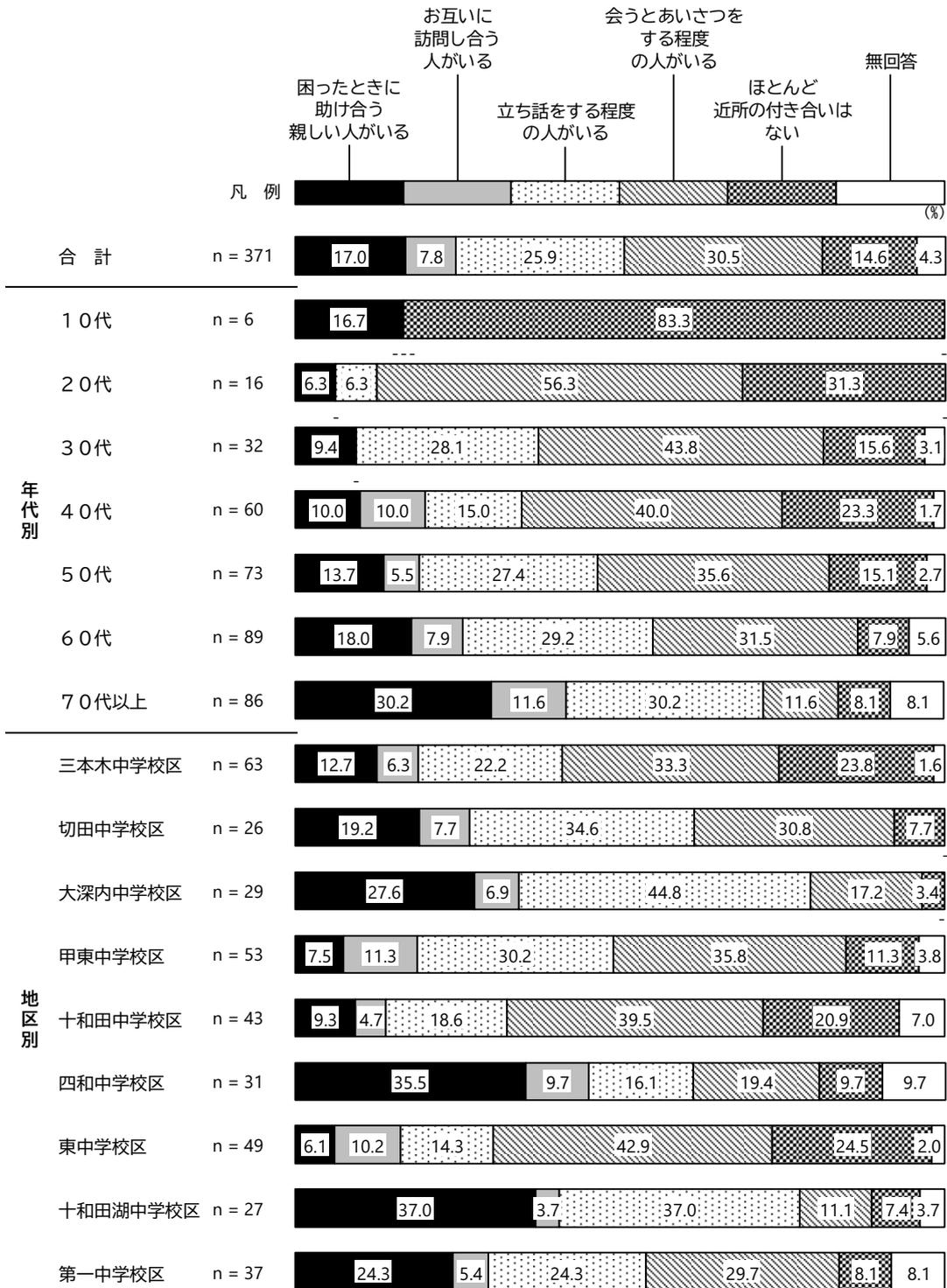
- ▶ 近所の人との交流や付き合いの状況については、「会うとあいさつをする程度の人がいる」が30.5%と最も高く、次いで、「立ち話をする程度の人がいる」(25.9%)、「困ったときに助け合う親しい人がある」(17.0%)、「ほとんど近所の付き合いはない」(14.6%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

問 13 あなたは、近所の人との交流や付き合いで、最も近いものはどれですか。（○印は1つ）



【年代別・地区別／近所の人との交流や付き合いの状況】

- ▶ 年代別に見ると、「会うとあいさつをする程度の人がいる」、「ほとんど近所の付き合いはない」については、概ね年代が下がるにつれて高くなる傾向にある。
- ▶ 地区別に見ると、『大深内中学校区』では「立ち話をする程度の人がいる」が44.8%と、他の地区に比べてやや高くなっている。

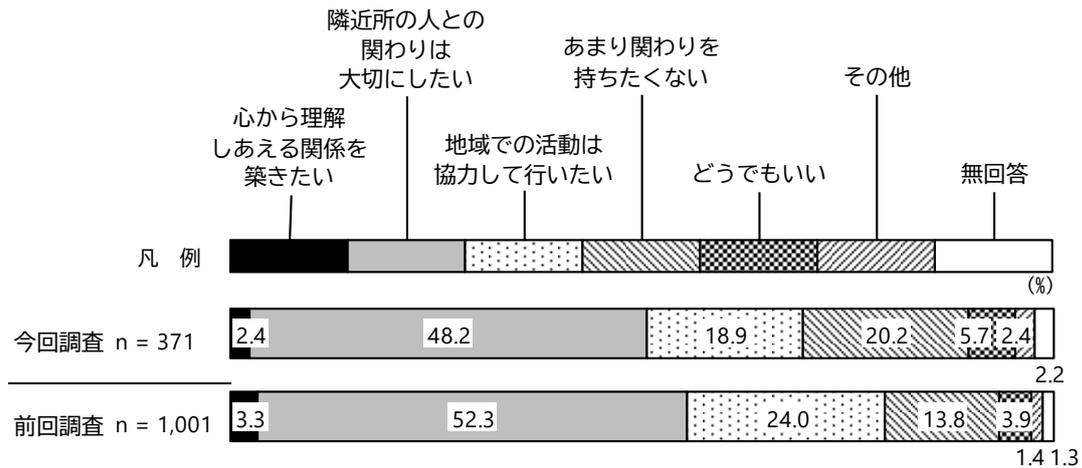


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-6 近所の人との関わりをどのようにしたいか

- ▶ 近所の人との関わりをどのようにしたいかについては、「隣近所の人との関わりは大切にしたい」が48.2%と最も高く、次いで、「あまり関わりを持ちたくない」（20.2%）、「地域での活動は協力して行いたい」（18.9%）、「心から理解しあえる関係を築きたい」（2.4%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

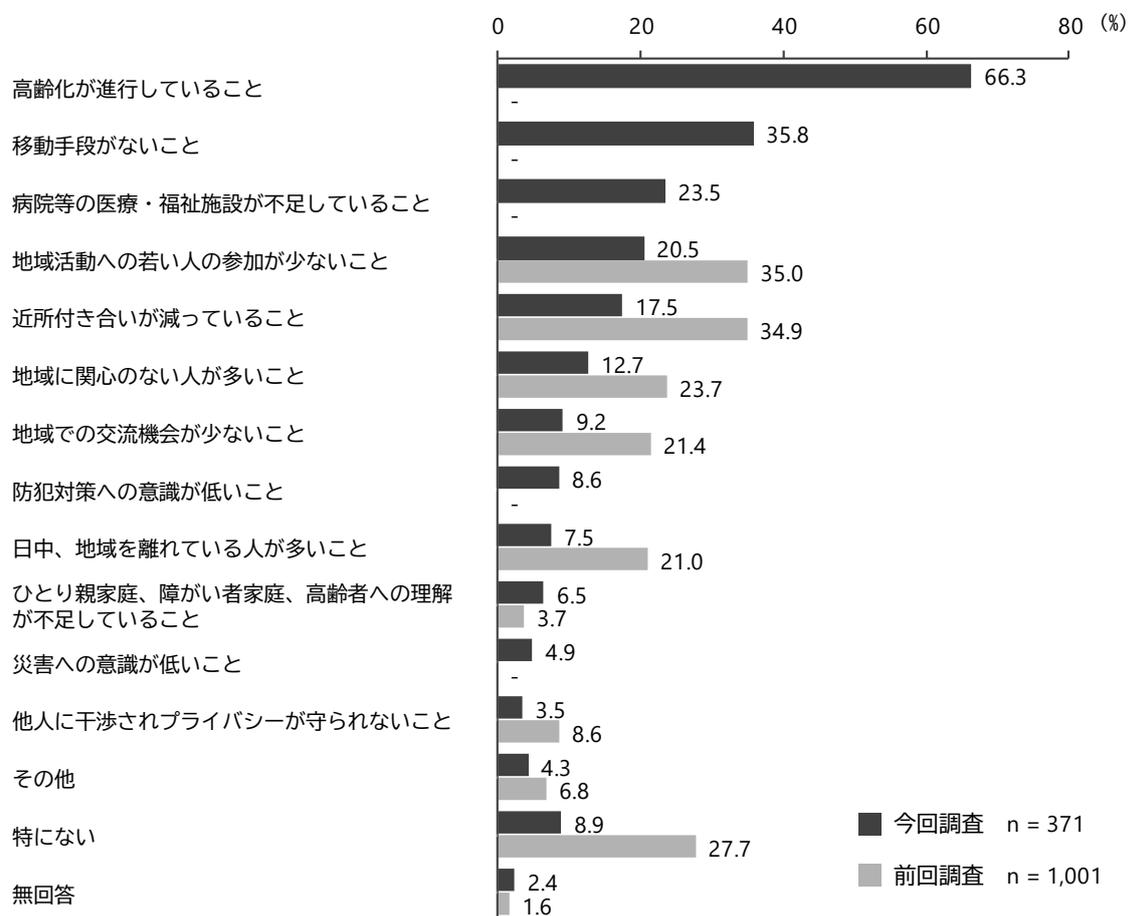
問 14 あなたは、近所の人との関わりをどのようにしたいですか。（○印は1つ）



2-7 地域の中での問題点

- ▶ 地域の中での問題点については、「高齢化が進行していること」が 66.3%と最も高く、次いで、「移動手段がないこと」(35.8%)、「病院等の医療・福祉施設が不足していること」(23.5%)、「地域活動への若い人の参加が少ないこと」(20.5%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、聴取項目が多くなったことに留意が必要だが、「近所付き合いが減っていること」が 17.4 ポイント、「地域活動への若い人の参加が少ないこと」が 14.5 ポイント、「日中、地域を離れている人が多いこと」が 13.5 ポイント、「地域での交流機会が少ないこと」が 12.2 ポイント、「地域に関心のない人が多いこと」が 11.0 ポイント下降している。

問 15 現在、あなたの住んでいる地域の中で問題と思うことは何ですか。（あてはまるもの3つまでに○）



※「高齢化が進行していること」、「移動手段（電車・バス等）がないこと」、「病院等の医療・福祉施設が不足していること」、「防犯対策への意識が低いこと」、「災害への意識が低いこと」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取

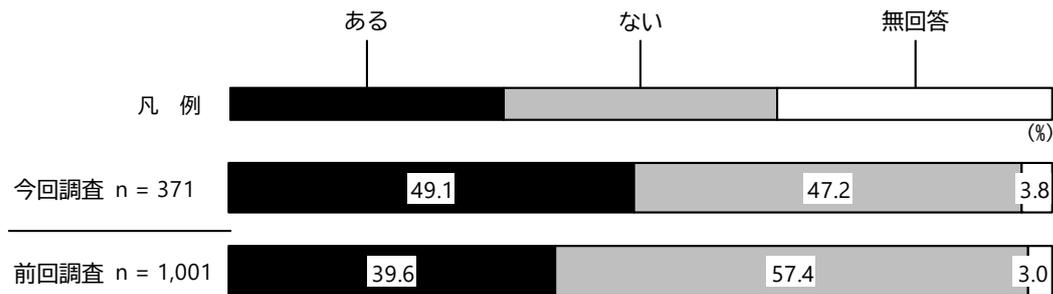
※「ひとり親家庭、障がい者家庭、高齢者への理解が不足していること」については前回調査の「ひとり親家庭、障がい者家庭への偏見があること」の回答と比較した

Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-8 地域に支えられた（助けられた）と感じたことはあるか

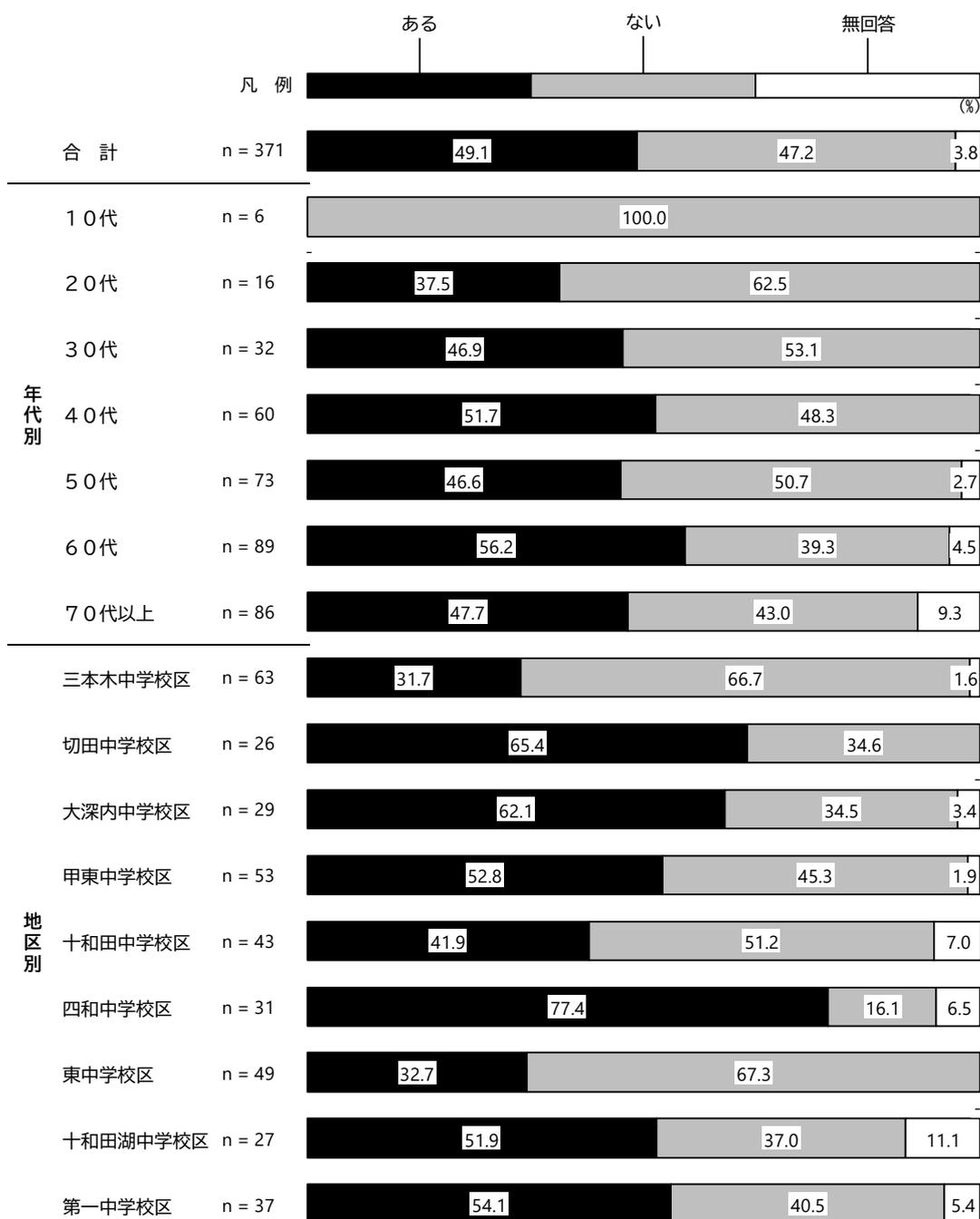
- ▶ 地域に支えられた（助けられた）と感じたことはあるかについては、「ある」が49.1%、「ない」が47.2%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「ない」が10.2ポイント下降している。

問 16 あなたは、地域に支えられた（助けられた）と感じたことはありますか。（○印は1つ）



【年代別・地区別／地域に支えられた（助けられた）と感じたことはあるか】

- ▶ 年代別に見ると、30代以上では「ある」がいずれも4割台後半以上となっている。
- ▶ 地区別に見ると、『四和中学校区』では「ある」が77.4%と、他の地区に比べて高くなっている。一方、『三本木中学校区』、『東中学校区』では約3割とやや低くなっている。

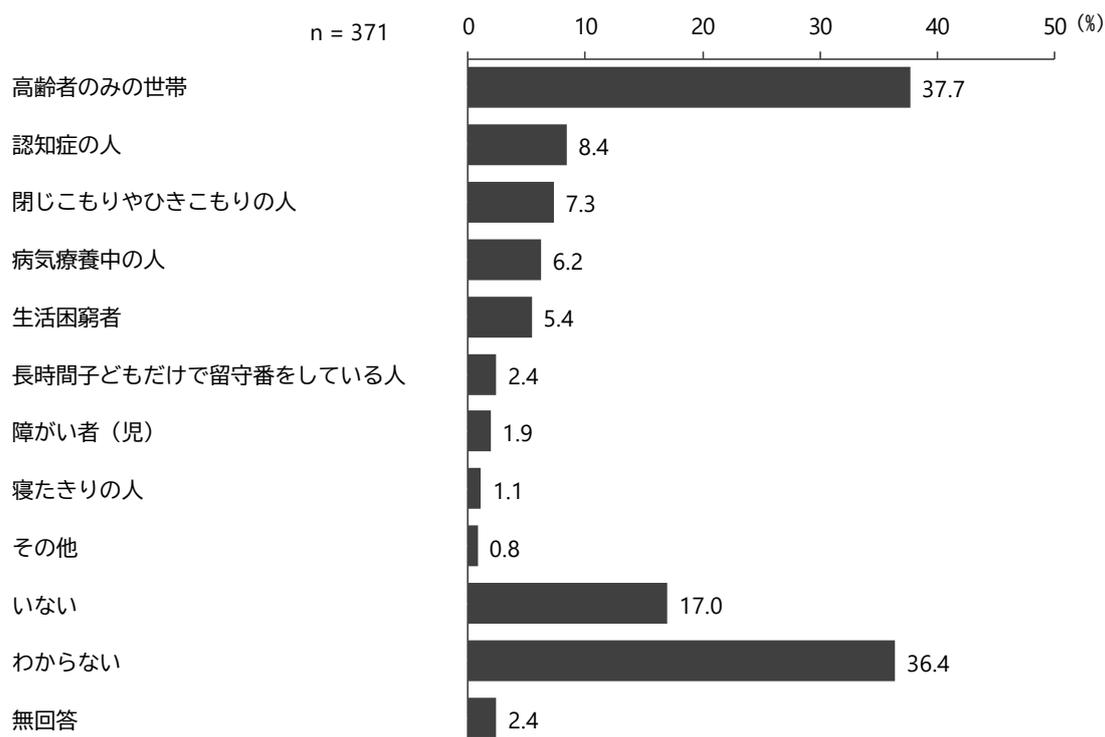


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-9 近所に見守り等支援が必要な人や気にかかる人がいるか

- ▶ 近所に見守り等支援が必要な人や気にかかる人がいるかについては、「高齢者のみの世帯」が37.7%と最も高く、次いで、「認知症の人」(8.4%)、「閉じこもりやひきこもりの人」(7.3%)、「病気療養中の人」(6.2%)となっている。なお、「わからない」が36.4%、「いない」が17.0%となっている。

問 17 あなたの近所には、次のような、見守り等支援が必要な人や、気にかかる人（何らかの課題を抱えている人）がいますか。（あてはまるものすべてに○）



【地区別／近所に見守り等支援が必要な人や気にかかる人がいるか】

- ▶ 地区別に見ると、『四和中学校区』、『十和田湖中学校区』では「高齢者のみの世帯」が約6割と、他の地区に比べて高くなっている。

		n	高齢者のみの世帯	認知症の人	閉じこもりやひきこもりの人	病気療養中の人	生活困窮者	長時間子どもだけで留守番をしている人	障がい者（児）	寝たきりの人	その他	いない (%)
合 計		371	37.7	8.4	7.3	6.2	5.4	2.4	1.9	1.1	0.8	17.0
地区別	三本木中学校区	63	28.6	4.8	4.8	3.2	4.8	1.6	4.8	-	-	20.6
	切田中学校区	26	50.0	-	-	7.7	7.7	-	7.7	-	3.8	11.5
	大深内中学校区	29	41.4	6.9	13.8	10.3	3.4	-	3.4	-	3.4	20.7
	甲東中学校区	53	34.0	7.5	9.4	5.7	5.7	7.5	-	1.9	-	9.4
	十和田中学校区	43	30.2	7.0	2.3	4.7	4.7	2.3	-	-	2.3	14.0
	四和中学校区	31	61.3	16.1	12.9	6.5	6.5	3.2	-	-	-	12.9
	東中学校区	49	26.5	6.1	2.0	4.1	2.0	-	-	2.0	-	32.7
	十和田湖中学校区	27	63.0	7.4	14.8	7.4	14.8	-	-	-	-	3.7
	第一中学校区	37	29.7	24.3	13.5	5.4	5.4	5.4	2.7	5.4	-	21.6

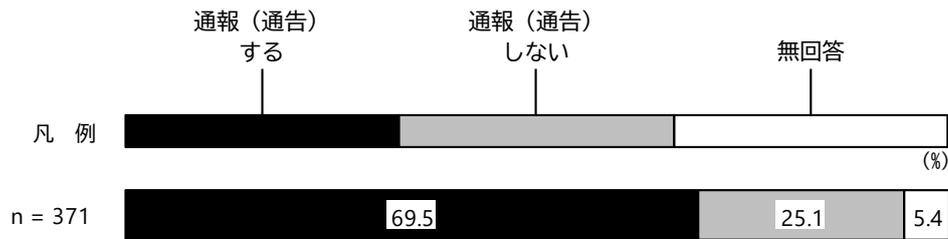
※回答数上位 10 項目の選択肢を抜粋

Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-10 近所で虐待や暴力を身近に見聞きした場合の対応

- ▶ 近所で虐待や暴力を身近に見聞きした場合の対応については、「通報（通告）する」が69.5%、「通報（通告）しない」が25.1%となっている。

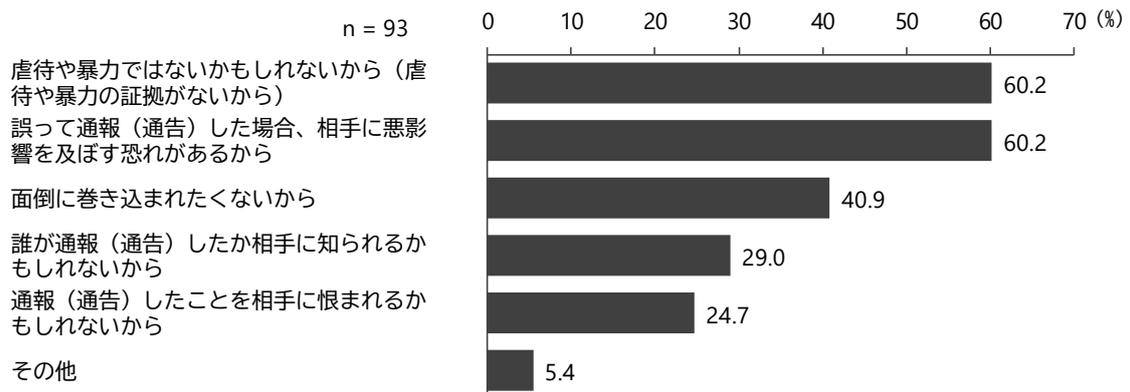
問 18 あなたの家の近所で、虐待や暴力を身近に見たり聞いたりした場合、どうしますか。
(○印は1つ)



2-11 通報（通告）しない理由

- ▶ 通報（通告）しない理由については、「虐待や暴力ではないかもしれないから（虐待や暴力の証拠がないから）」、「誤って通報（通告）した場合、相手に悪影響を及ぼす恐れがあるから」がいずれも 60.2%と最も高く、次いで、「面倒に巻き込まれたくないから」（40.9%）、「誰が通報（通告）したか相手に知られるかもしれないから」（29.0%）となっている。

問 19 【問 18 で、「通報（通告）しない」とお答えになった方にお聞きします】
 通報（通告）しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



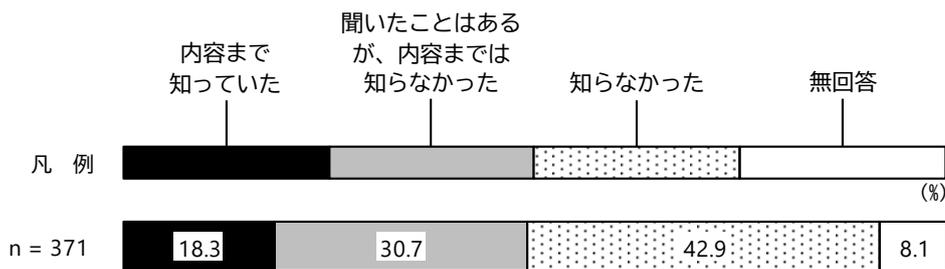
Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-12 医療的ケア児の認知度

- ▶ 医療的ケア児の認知度については、「知らなかった」が42.9%と最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」(30.7%)、「内容まで知っていた」(18.3%)となっている。

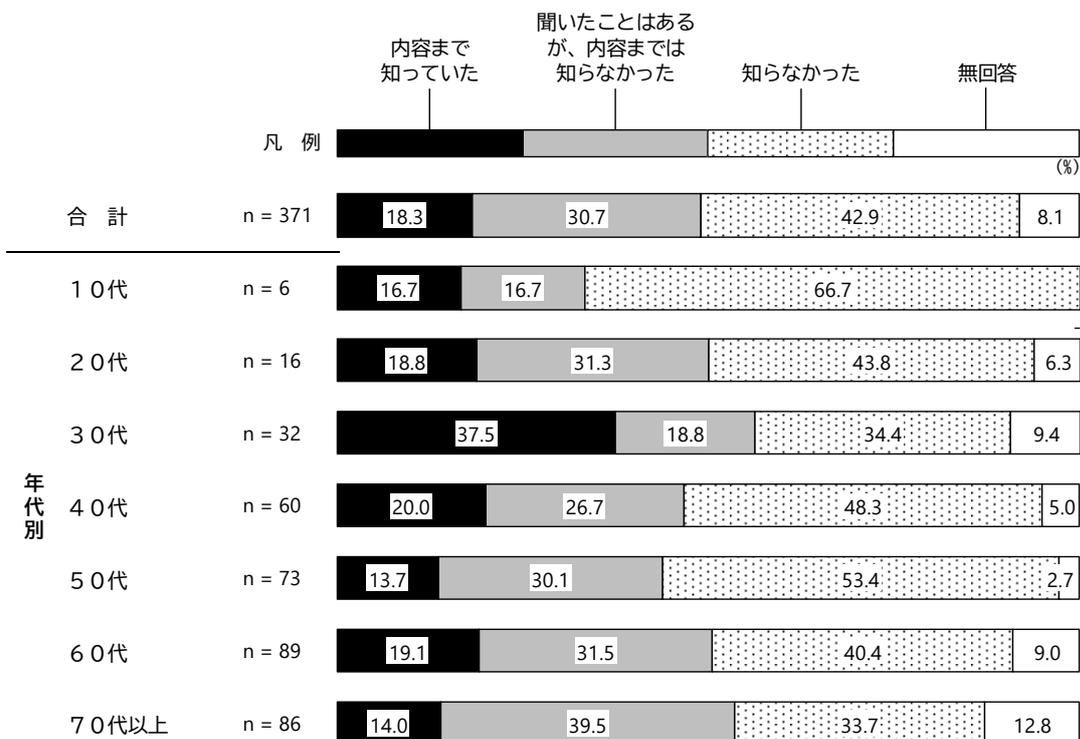
問 20 【ふたたび、全員にお聞きします】

この調査票を見る前から、医療的ケア児という言葉や存在を知っていましたか。
（○印は1つ）



【年代別／医療的ケア児の認知度】

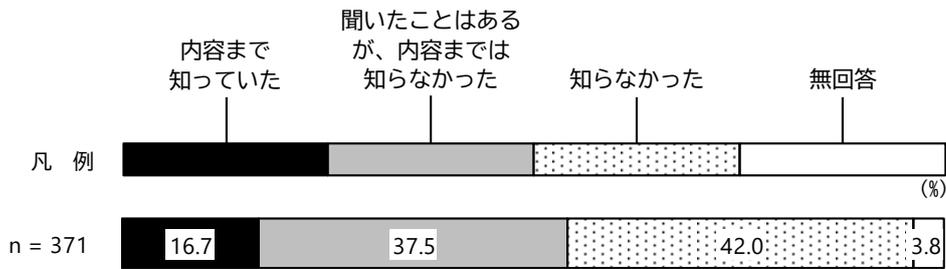
- ▶ 年代別に見ると、『30代』では「内容まで知っていた」が37.5%と、他の年代に比べて高くなっている。



2-13 共生社会の認知度

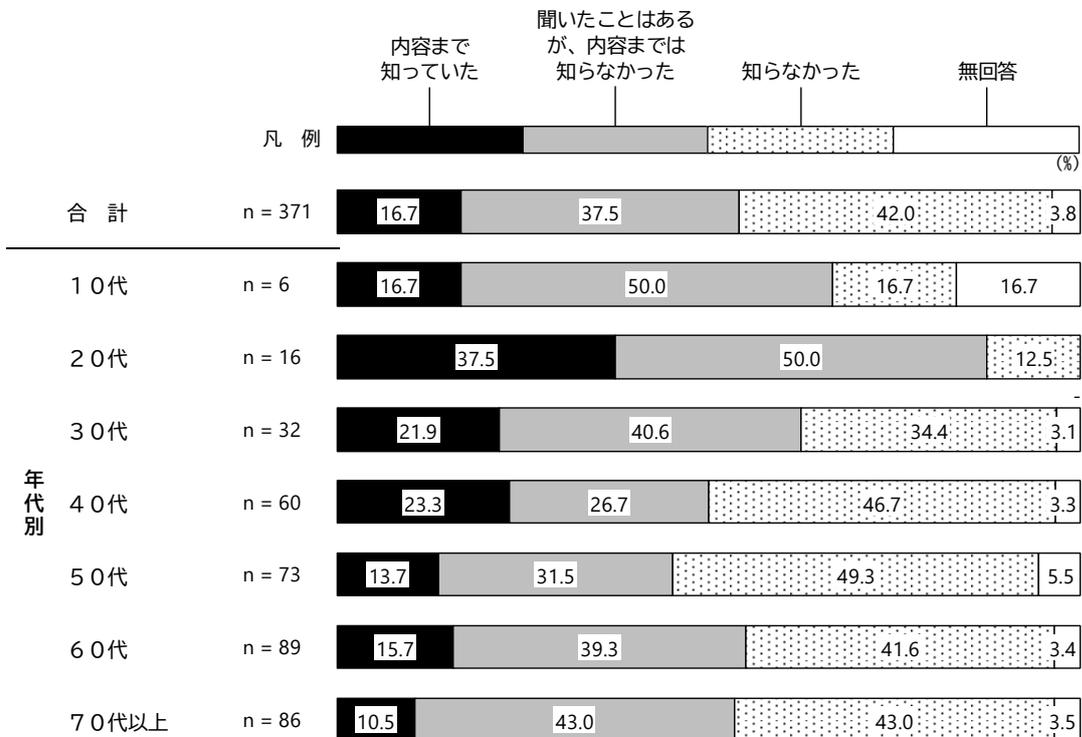
- ▶ 共生社会の認知度については、「知らなかった」が42.0%と最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」（37.5%）、「内容まで知っていた」（16.7%）となっている。

問 21 この調査票を見る前から、共生社会という言葉を知っていましたか。（○印は1つ）



【年代別／共生社会の認知度】

- ▶ 調査数が少ないことに留意が必要だが、年代別に見ると、『20代』では「内容まで知っていた」が37.5%と、他の年代に比べて高くなっている。

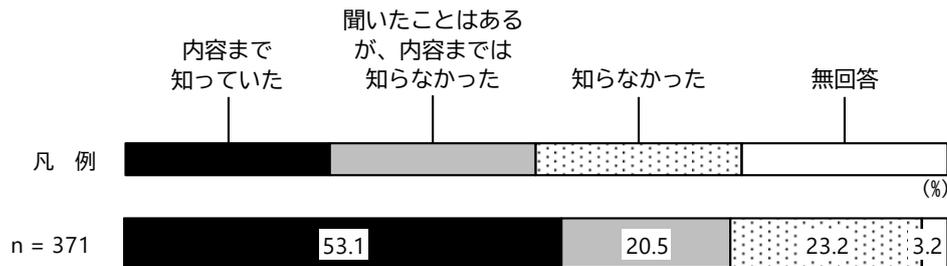


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-14 ヤングケアラーの認知度

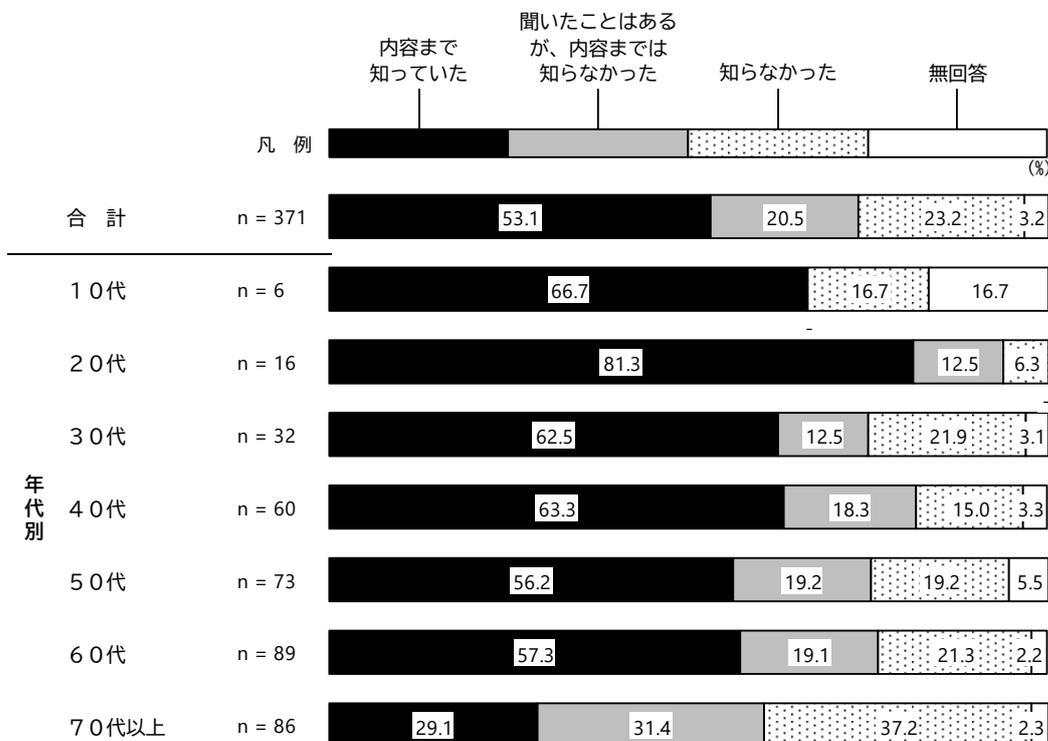
- ▶ ヤングケアラーの認知度については、「内容まで知っていた」が53.1%と最も高く、次いで、「知らなかった」（23.2%）、「聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」（20.5%）となっている。

問 22 この調査票を見る前から、ヤングケアラーという言葉を知っていましたか。（○印は1つ）



【年代別／ヤングケアラーの認知度】

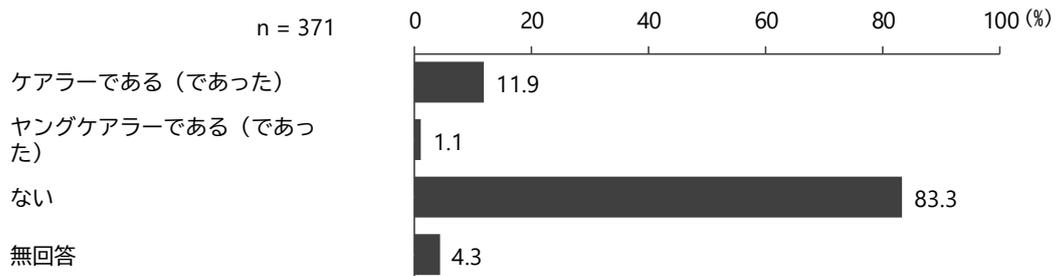
- ▶ 年代別に見ると、「内容まで知っていた」については、概ね年代が下がるにつれて高くなる傾向にある。



2-15 ケアラー・ヤングケアラーとしての経験の有無

- ▶ ケアラー・ヤングケアラーとしての経験があるかについては、「ケアラーである（であった）」が11.9%と最も高く、次いで、「ヤングケアラーである（であった）」（1.1%）となっている。なお、「ない」が83.3%となっている。

問 23 あなたご自身は、現在ケアラーまたはヤングケアラーですか。または過去にそのような経験がありますか。（あてはまるものすべてに○）

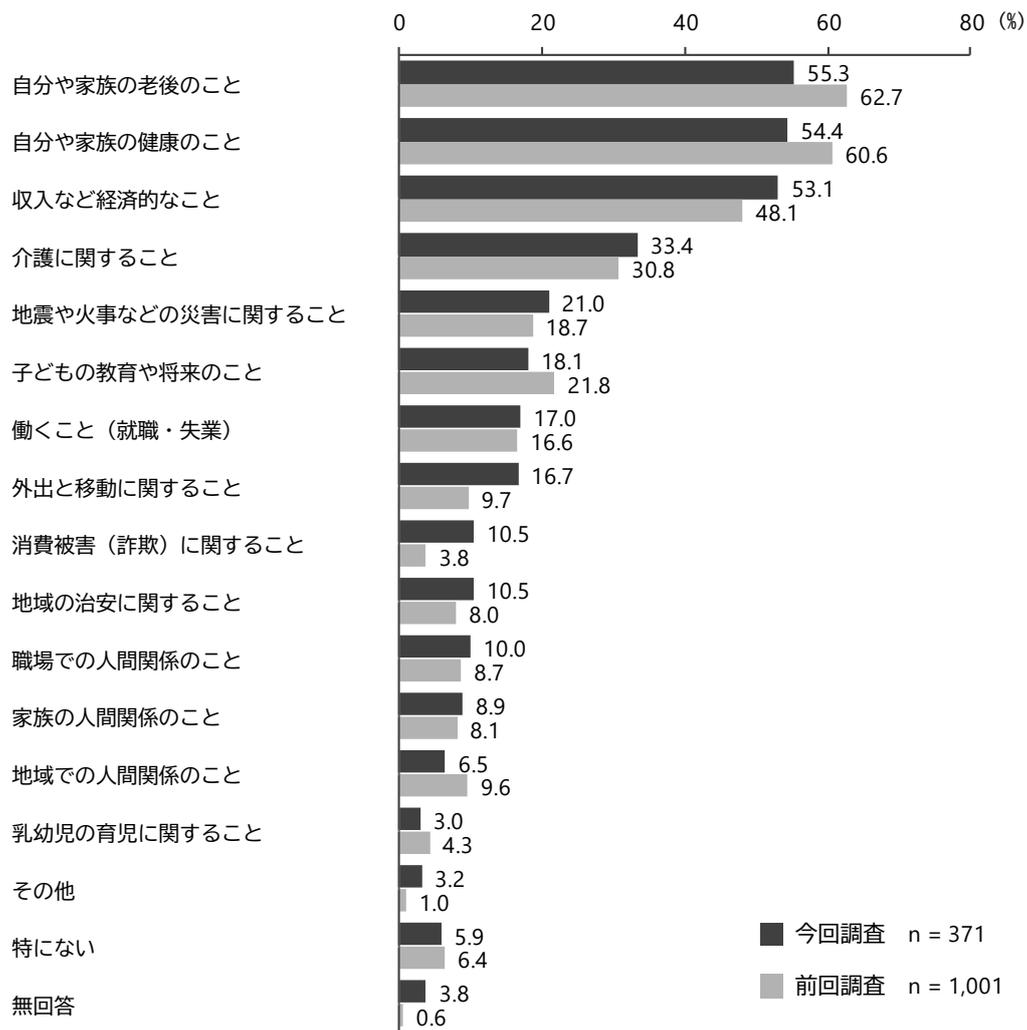


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-16 日常生活での不安

- ▶ 日常生活での不安については、「自分や家族の老後のこと」が55.3%と最も高く、次いで、「自分や家族の健康のこと」(54.4%)、「収入など経済的なこと」(53.1%)、「介護に関すること」(33.4%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「外出と移動に関すること」が7.0ポイント上昇している。一方、「自分や家族の老後のこと」が7.4ポイント下降しており、やや変動がみられる。

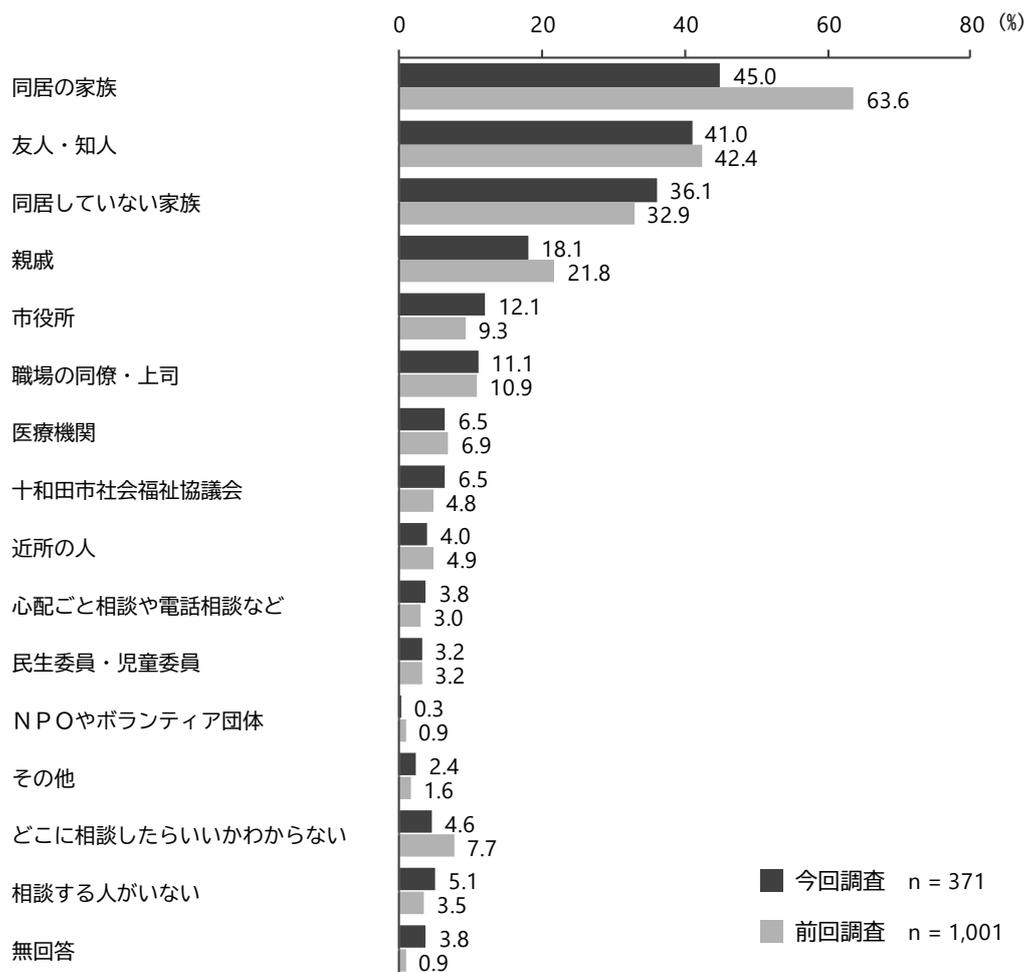
問 24 あなたが、日常生活で不安に思っていることは、どのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）



2-17 日常生活での不安や悩みの相談先

- ▶ 日常生活での不安や悩みの相談先については、「同居の家族」が45.0%と最も高く、次いで、「友人・知人」(41.0%)、「同居していない家族」(36.1%)、「親戚」(18.1%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「同居の家族」が18.6ポイント下降している。

問 25 あなたは、日常生活での不安や悩みを、誰（どこ）に相談しようと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



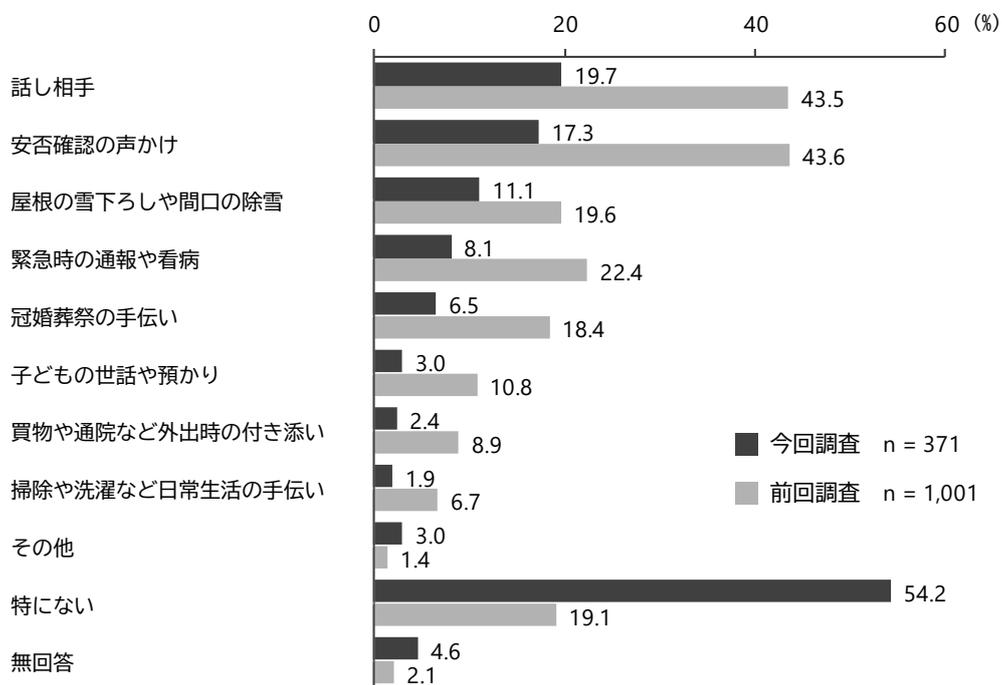
※「十和田市社会福祉協議会」については前回調査の「社会福祉協議会」の回答と比較した

Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-18 近所の人困っているときにできること・していること

- ▶ 近所の人困っているときにできること・していることについては、「話し相手」が19.7%と最も高く、次いで、「安否確認の声かけ」(17.3%)、「屋根の雪下ろしや間口の除雪」(11.1%)、「緊急時の通報や看病」(8.1%)となっている。なお、「特にない」が54.2%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「安否確認の声かけ」が26.3ポイント、「話し相手」が23.8ポイント、「緊急時の通報や看病」が14.3ポイント、「冠婚葬祭の手伝い」が11.9ポイント下降している。なお、「特にない」が35.1ポイント上昇している。

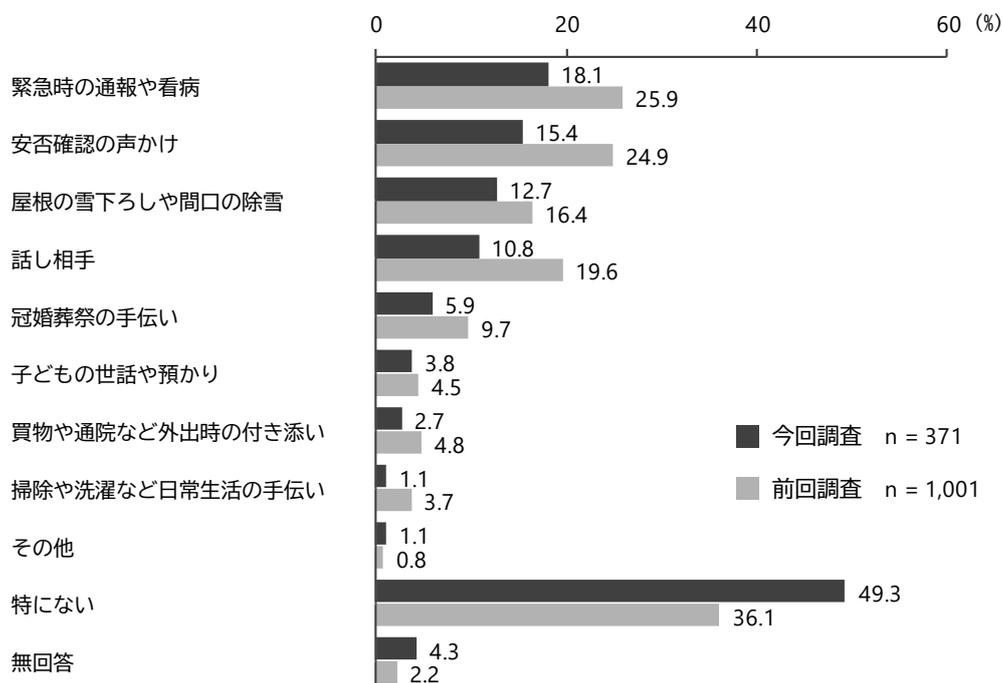
問 26 あなたが、近所の人困っているときにできることや、していることはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)



2-19 困っているときに近所の人にしてもらいたいこと

- ▶ 困っているときに近所の人にしてもらいたいことについては、「緊急時の通報や看病」が18.1%と最も高く、次いで、「安否確認の声かけ」(15.4%)、「屋根の雪下ろしや間口の除雪」(12.7%)、「話し相手」(10.8%)となっている。なお、「特にない」が49.3%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「安否確認の声かけ」が9.5ポイント、「話し相手」が8.8ポイント、「緊急時の通報や看病」が7.8ポイント下降しており、やや変動がみられる。

問 27 あなたが困っているときに、近所の人にしてもらいたいことは、どのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

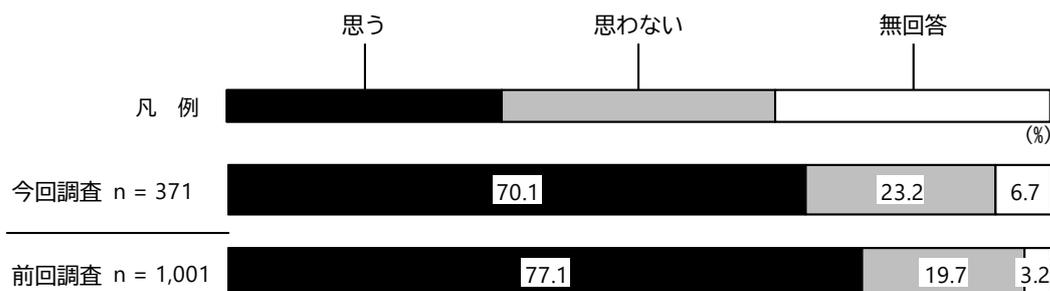


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

2-20 近所同士で自主的な協力関係は必要だと思うか

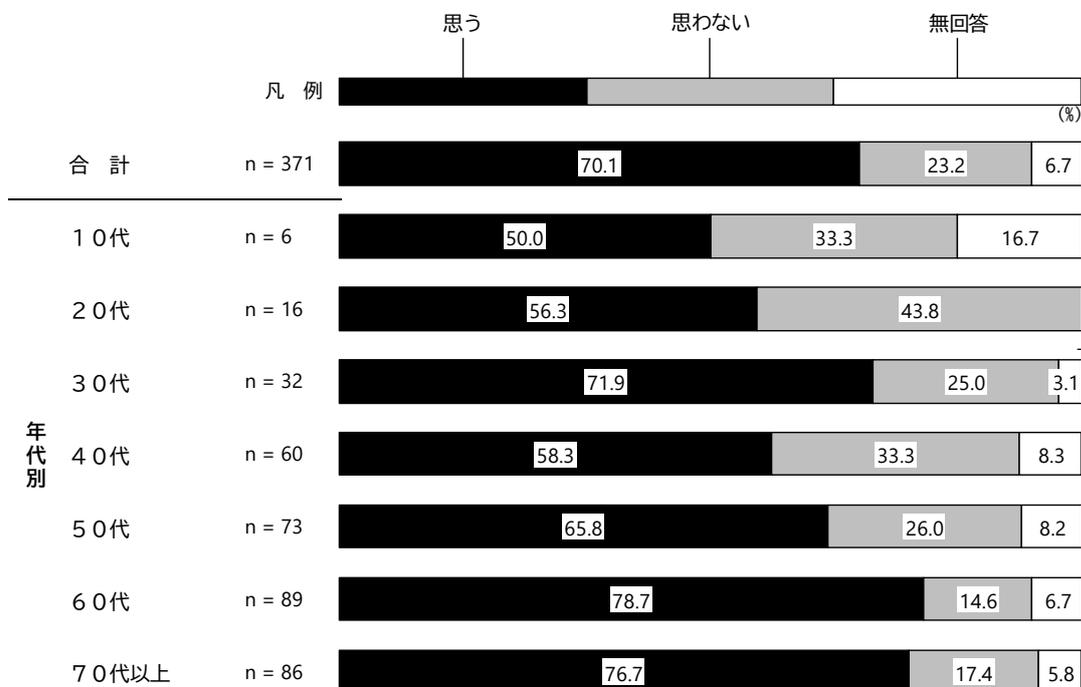
- ▶ 近所同士で自主的な協力関係は必要だと思うかについては、「思う」が70.1%、「思わない」が23.2%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「思う」が7.0ポイント下降しており、やや変動がみられる。

問 28 あなたは、近所同士で自主的な協力関係は必要だと思いますか。（○印は1つ）



【年代別／近所同士で自主的な協力関係は必要だと思うか】

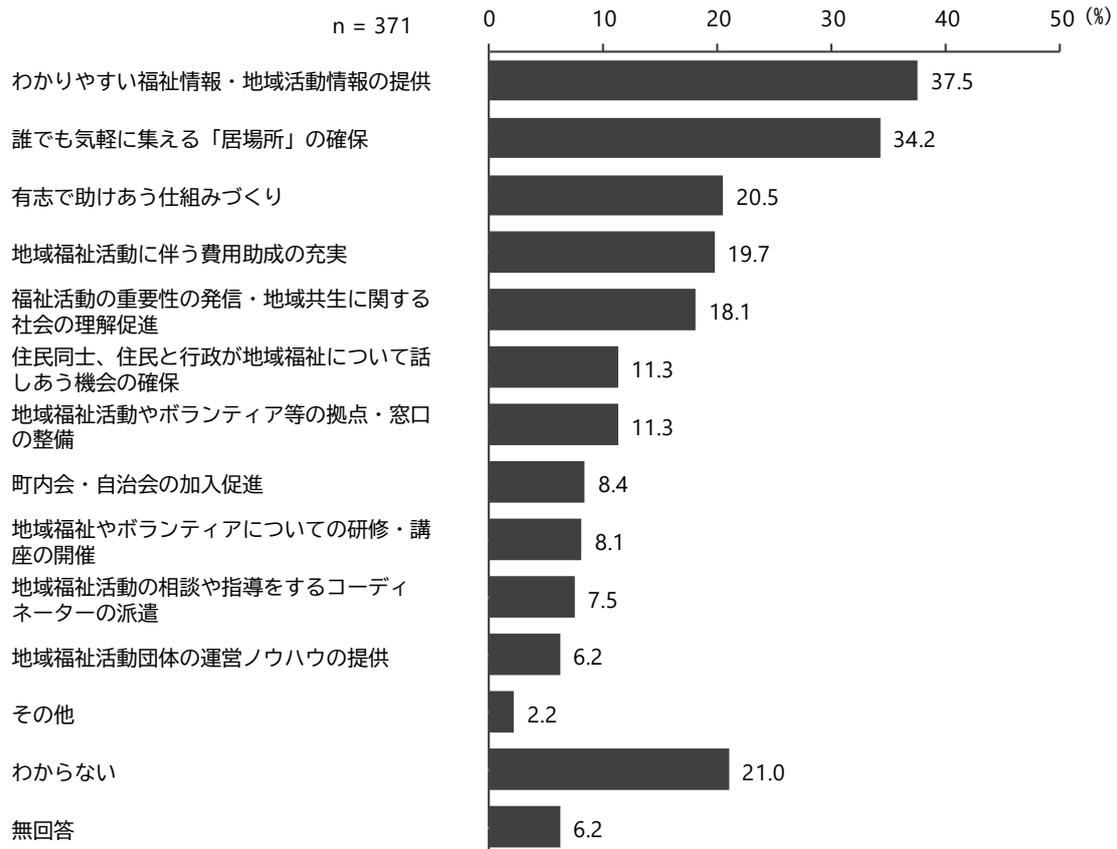
- ▶ 年代別に見ると、「思う」については、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向にある。



2-21 住民同士の助け合いを広げるために市が力を入れるべきこと

- ▶ 住民同士の助け合いを広げるために市が力を入れるべきことについては、「わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供」が37.5%と最も高く、次いで、「誰でも気軽に集える「居場所」の確保」(34.2%)、「有志で助けあう仕組みづくり」(20.5%)、「地域福祉活動に伴う費用助成の充実」(19.7%)となっている。

問 29 住民同士の助け合いを地域で広げるために、市が力を入れるべきことは何だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）



Ⅲ 調査結果の分析（市民）

【地区別／住民同士の助け合いを地域で広げるために市が力を入れるべきこと】

- ▶ 地区別に見ると、『四和中学校区』、『十和田湖中学校区』では「誰でも気軽に集える「居場所」の確保」が約5割、「地域福祉活動に伴う費用助成の充実」が約3～4割と他の地区に比べてやや高くなっている。

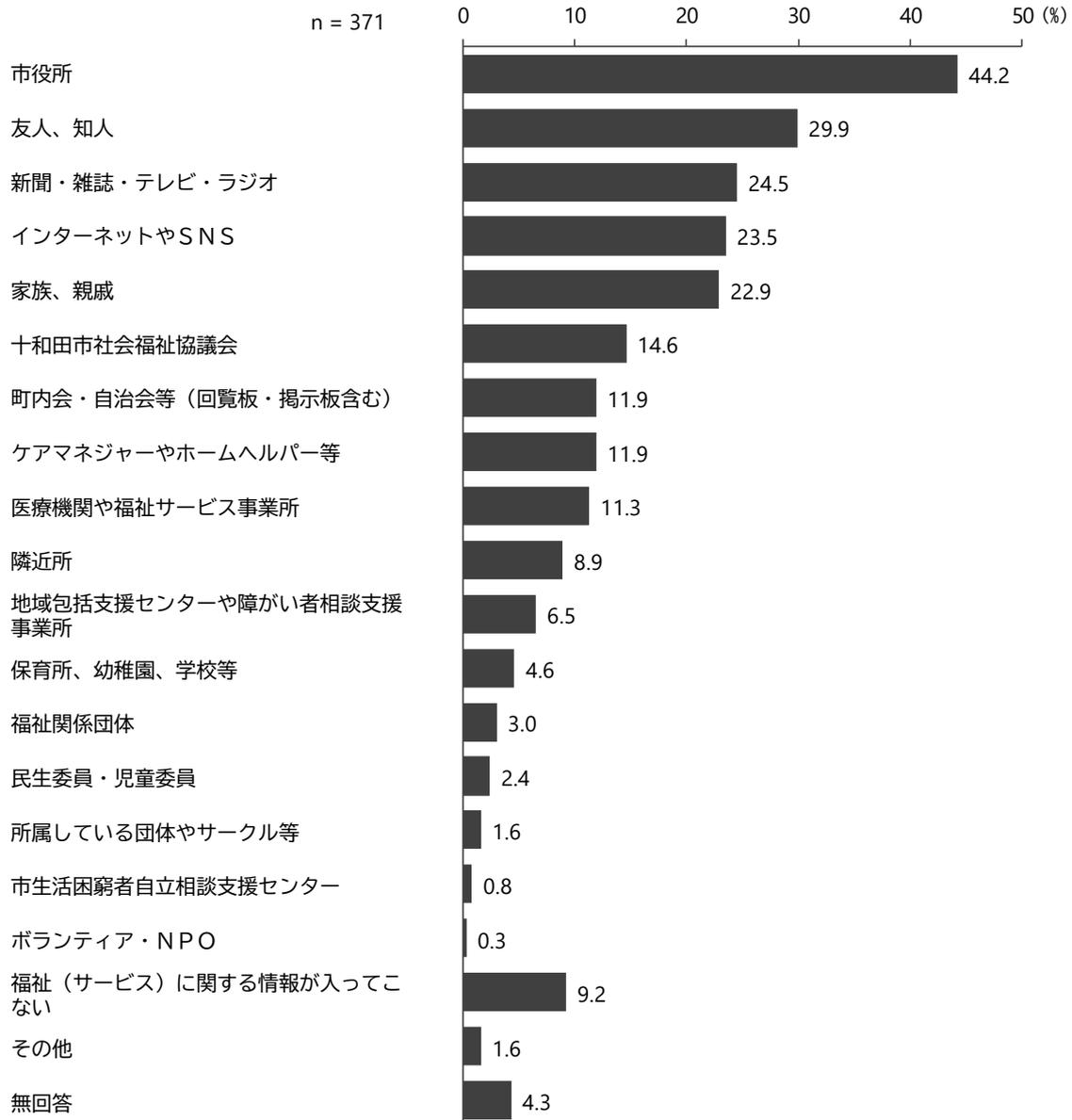
		n	域わ 活動 かり や す い 福 祉 情 報 ・ 地	所誰 」の も 気 軽 に 集 え る 「 居 場 所	り有 志 で 助 け あ う 仕 組 み づ く	成地 域 福 祉 活 動 に 伴 う 費 用 助	解地 域 共 生 活 動 に 関 す る 社 会 の 発 信 理 ・	会福 祉 活 動 の 重 要 性 の 社 会 の 信 任 ・	住民 同 士 、 住 民 と 行 政 が 機	ア地 域 福 祉 活 動 や ボ ラ ン テ ィ	町内 会 ・ 自 治 会 の 加 入 促 進	つ地 域 福 祉 や ボ ラ ン テ ィ ア 開 催 に	派を 遣 す る コ ー デ ィ ネ ー タ ー の 指 導	(%)
合 計		371	37.5	34.2	20.5	19.7	18.1	11.3	11.3	8.4	8.1	7.5		
地 区 別	三本木中学校区	63	34.9	38.1	20.6	19.0	19.0	7.9	7.9	14.3	9.5	7.9		
	切田中学校区	26	30.8	23.1	15.4	11.5	19.2	7.7	3.8	3.8	3.8	3.8		
	大深内中学校区	29	37.9	31.0	24.1	20.7	17.2	3.4	10.3	-	3.4	6.9		
	甲東中学校区	53	39.6	37.7	18.9	20.8	13.2	13.2	17.0	9.4	7.5	3.8		
	十和田中学校区	43	34.9	27.9	11.6	14.0	18.6	14.0	2.3	2.3	9.3	7.0		
	四和中学校区	31	32.3	48.4	41.9	29.0	19.4	16.1	19.4	6.5	12.9	3.2		
	東中学校区	49	44.9	26.5	18.4	18.4	20.4	12.2	12.2	10.2	6.1	8.2		
	十和田湖中学校区	27	44.4	51.9	29.6	37.0	14.8	18.5	18.5	18.5	3.7	14.8		
	第一中学校区	37	43.2	32.4	16.2	13.5	24.3	10.8	16.2	-	13.5	13.5		

※回答数上位10項目の選択肢を抜粋

2-22 福祉サービスに関する情報の入手先

- ▶ 福祉サービスに関する情報の入手先については、「市役所」が44.2%と最も高く、次いで、「友人、知人」(29.9%)、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(24.5%)、「インターネットやSNS」(23.5%)となっている。

問 30 あなたは、福祉サービスに関する情報を主にどこから入手していますか。（あてはまるもの5つまでに○）



Ⅲ 調査結果の分析（市民）

【年代別／福祉サービスに関する情報の入手先】

- ▶ 年代別に見ると、20代～30代では「インターネットやSNS」が4割以上と、他の年代に比べてやや高くなっている。

		n	市役所	友人、知人	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	インターネットやSNS	家族、親戚	十和田市社会福祉協議会	町内会・自治会等（回覧板・掲示板含む）	ケアマネジャーやホームヘルパー等	医療機関や福祉サービス事業所	隣近所
合 計		371	44.2	29.9	24.5	23.5	22.9	14.6	11.9	11.9	11.3	8.9
年 代 別	10代	6	16.7	16.7	16.7	33.3	-	-	16.7	-	-	-
	20代	16	50.0	18.8	31.3	56.3	18.8	25.0	6.3	6.3	12.5	-
	30代	32	50.0	25.0	9.4	40.6	40.6	21.9	15.6	-	9.4	3.1
	40代	60	40.0	30.0	13.3	31.7	31.7	13.3	8.3	6.7	8.3	3.3
	50代	73	46.6	26.0	26.0	32.9	28.8	6.8	8.2	13.7	20.5	5.5
	60代	89	52.8	34.8	30.3	18.0	16.9	15.7	13.5	21.3	14.6	10.1
	70代以上	86	33.7	33.7	30.2	3.5	15.1	17.4	15.1	10.5	4.7	19.8

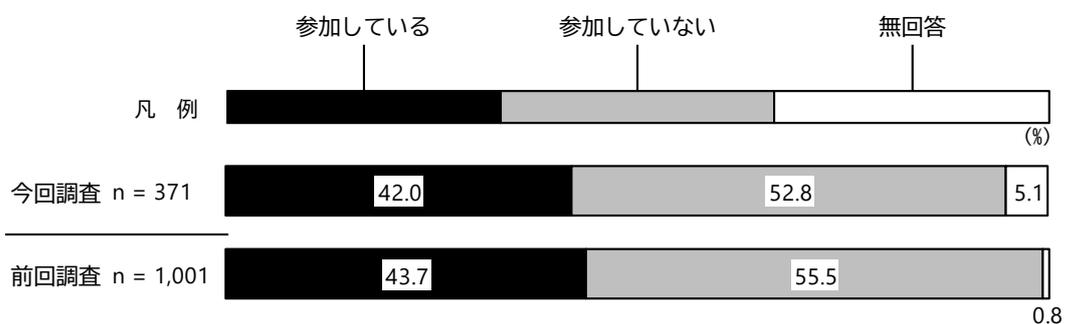
※回答数上位10項目の選択肢を抜粋

3 地域活動・ボランティア活動について

3-1 地域活動への参加状況

- ▶ 地域活動への参加状況については、「参加している」が 42.0%、「参加していない」が 52.8%となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

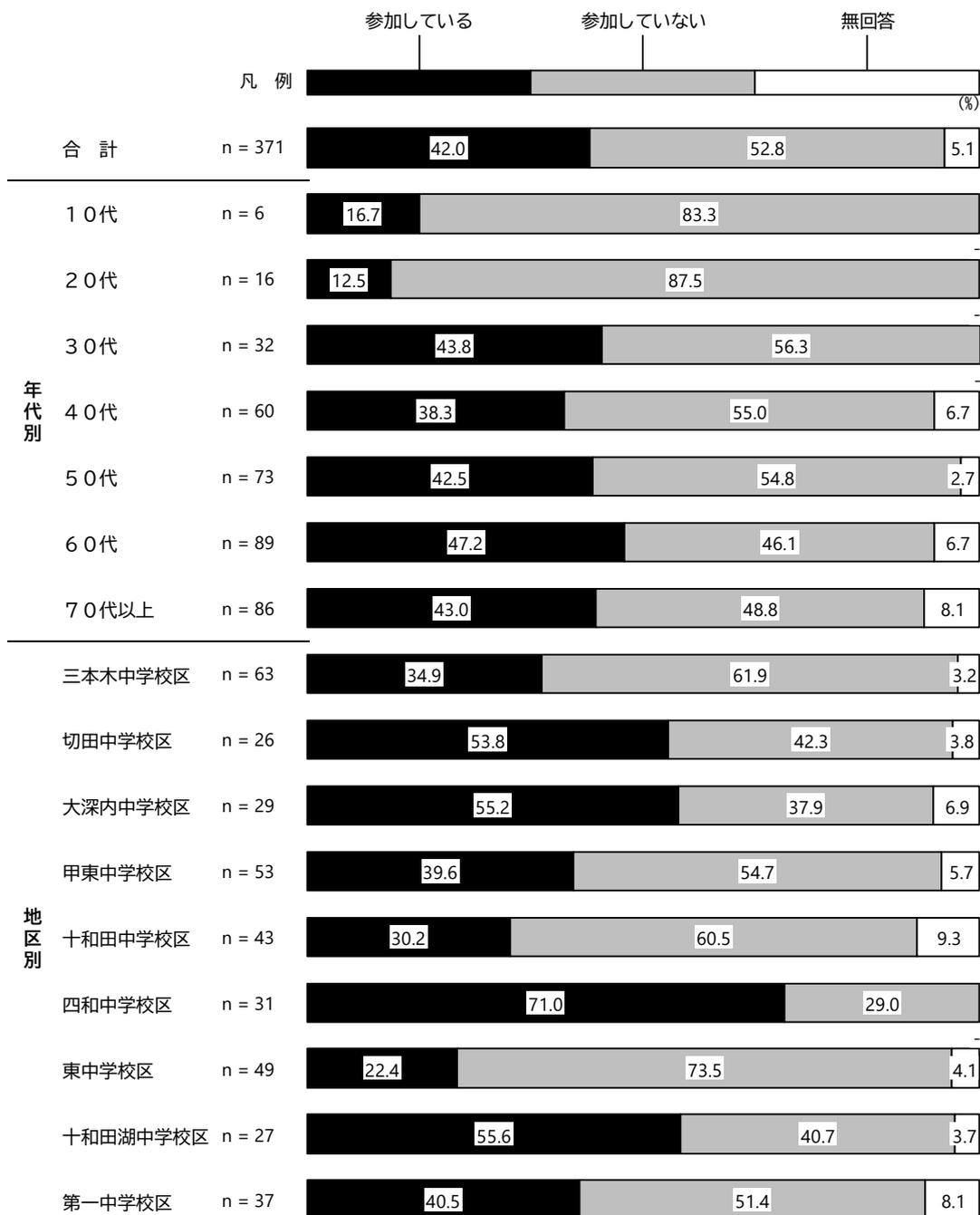
問 31 あなたは、地域での活動（町内会、子ども会など、主にあなたのお住いの地域を対象とした活動）に参加していますか。（○印は1つ）



Ⅲ 調査結果の分析（市民）

【年代別・地区別／地域活動への参加状況】

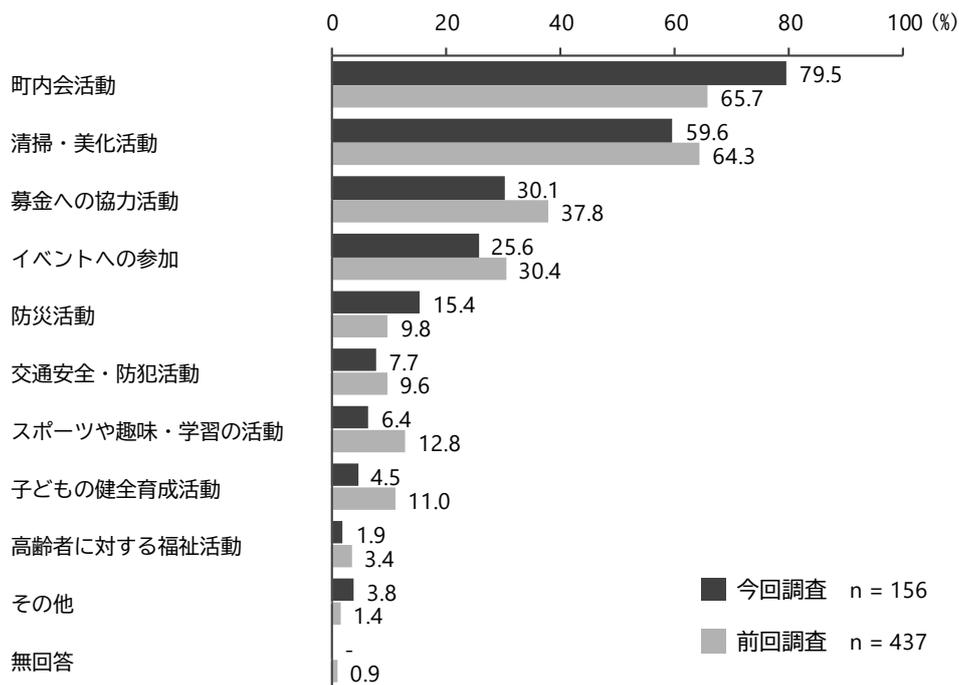
- ▶ 年代別に見ると、調査数が少ないことに留意が必要だが、10代～20代では、「参加している」が1割台と、他の年代に比べて低くなっている。
- ▶ 地区別に見ると、『四和中学校区』では「参加している」が71.0%と、他の地区に比べて高くなっている。



3-2 参加している地域活動

- ▶ 参加している地域活動については、「町内会活動」が 79.5%と最も高く、次いで、「清掃・美化活動」(59.6%)、「募金への協力活動」(30.1%)、「イベントへの参加」(25.6%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「町内会活動」が 13.8 ポイント上昇している。

問 32 【問 31 で、「参加している」とお答えになった方にお聞きします】
あなたは、どのような地域活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)



※「高齢者に対する福祉活動（施設訪問、一人暮らし高齢者への支援など）」については前回調査の「高齢者に対する福祉活動（施設訪問、一人暮らし高齢者など）」の回答と比較した

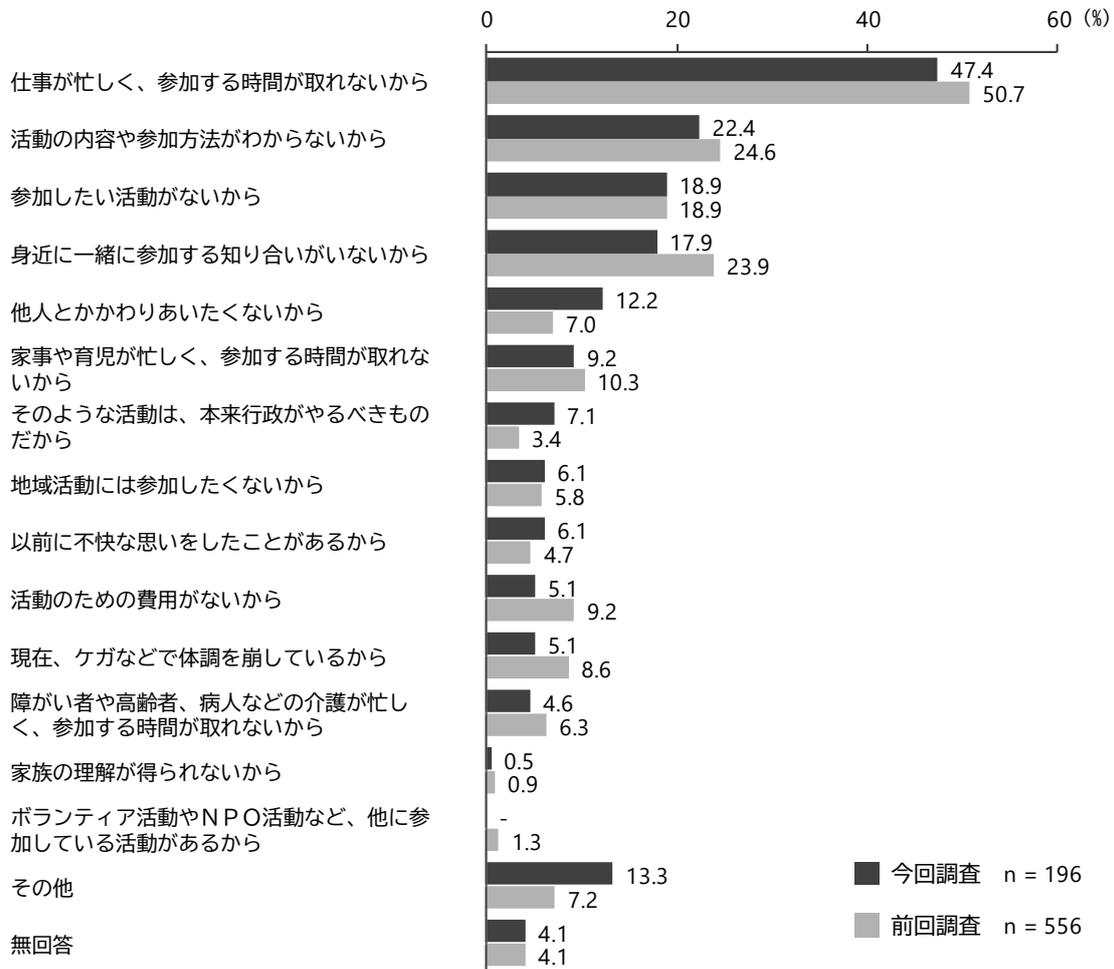
Ⅲ 調査結果の分析（市民）

3-3 地域活動に参加していない理由

- ▶ 地域活動に参加していない理由については、「仕事が忙しく、参加する時間が取れないから」が47.4%と最も高く、次いで、「活動の内容や参加方法がわからないから」（22.4%）、「参加したい活動がないから」（18.9%）、「身近に一緒に参加する知り合いがないから」（17.9%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

問33 【問31で、「参加していない」とお答えになった方にお聞きします】

あなたが、地域活動に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

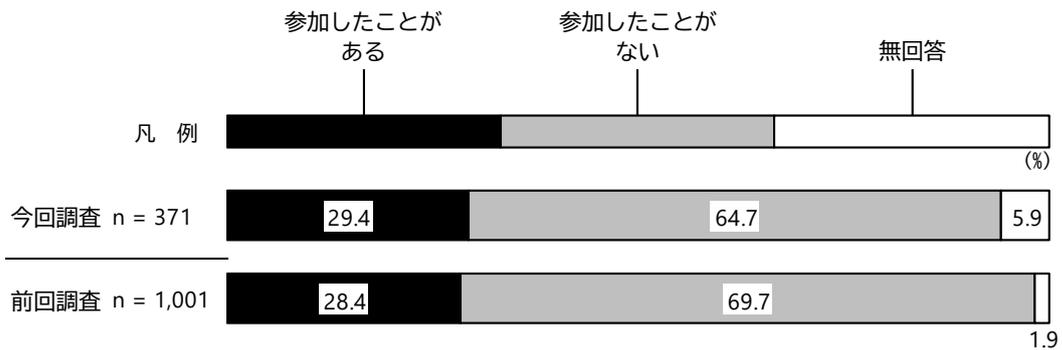


3-4 ボランティア活動の参加経験

- ▶ ボランティア活動の参加経験については、「参加したことがある」が29.4%、「参加したことがない」が64.7%となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

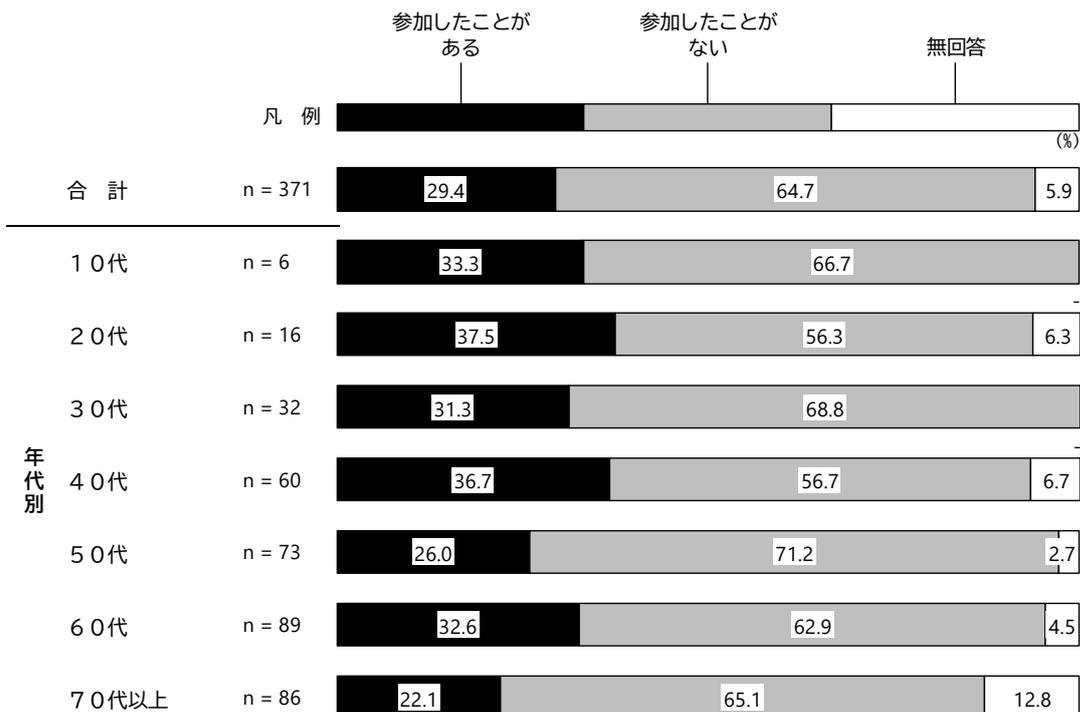
問 34 【ふたたび、全員にお聞きします】

あなたは、ボランティア活動（自発的な意志に基づいて、人や社会に貢献する活動）に参加したことがありますか。（○印は1つ）



【年代別／ボランティア活動の参加経験】

- ▶ 年代別に見ると、いずれの年代も「参加したことがある」は約2～4割となっている。

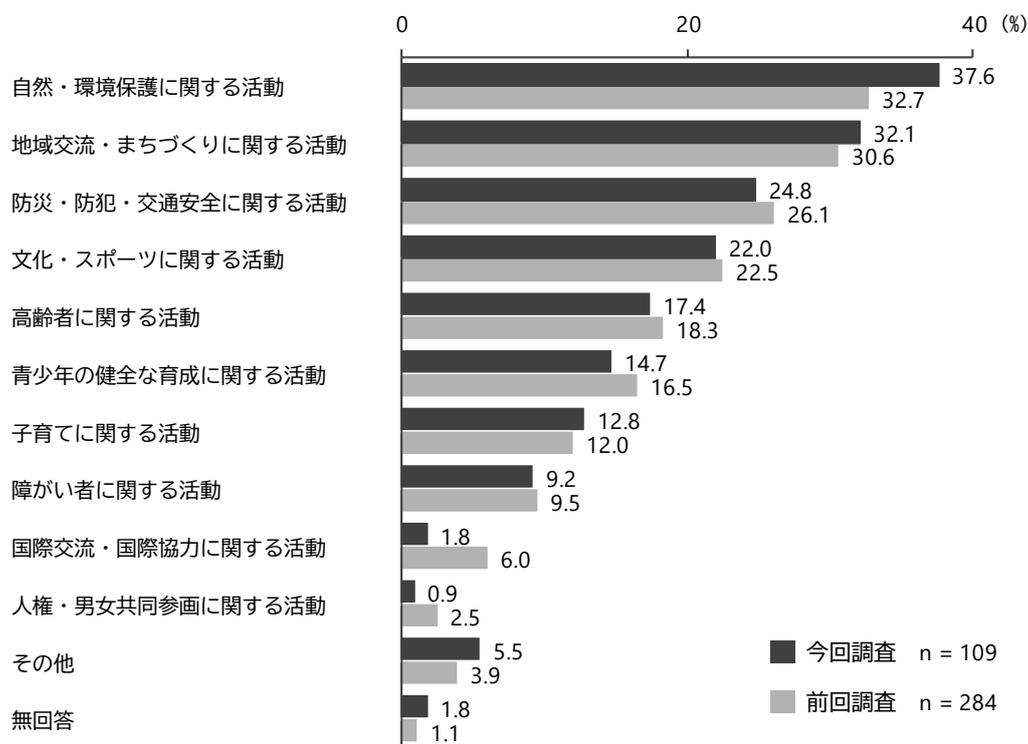


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

3-5 参加したことがあるボランティア活動

- ▶ 参加したことがあるボランティア活動については、「自然・環境保護に関する活動」が37.6%と最も高く、次いで、「地域交流・まちづくりに関する活動」（32.1%）、「防災・防犯・交通安全に関する活動」（24.8%）、「文化・スポーツに関する活動」（22.0%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

問 35 【問 34 で、「参加したことがある」とお答えになった方にお聞きします】
あなたが、参加したことがあるボランティア活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

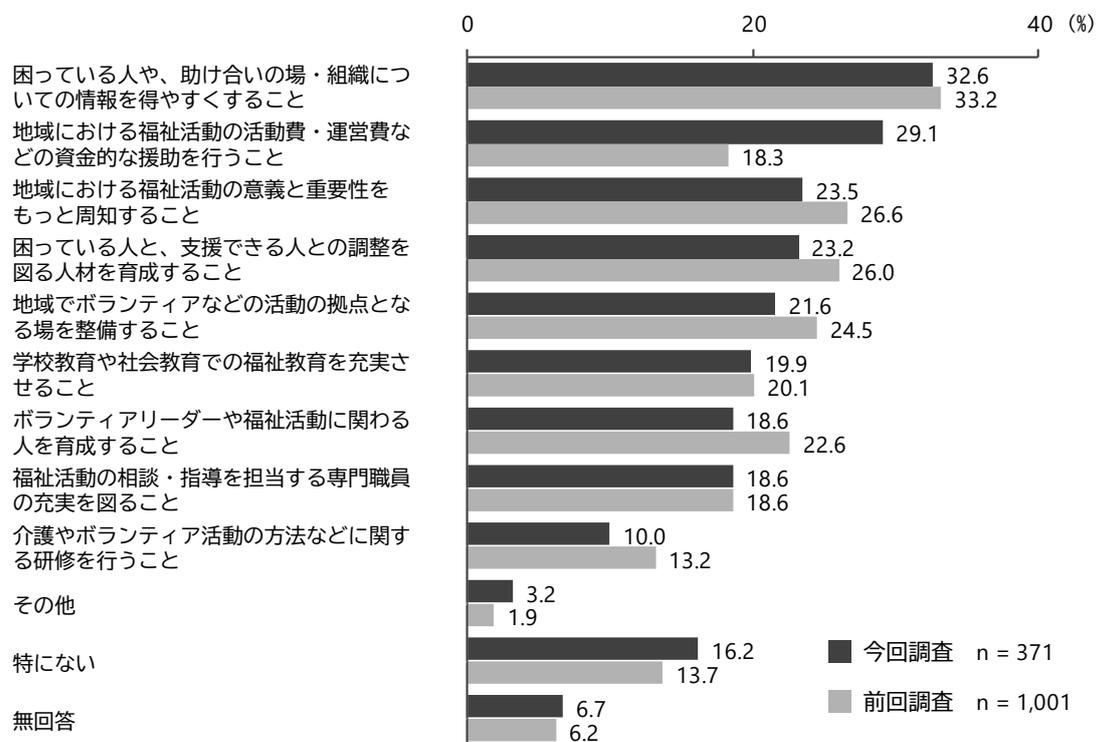


3-6 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なこと

- ▶ 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことについては、「困っている人や、助け合いの場・組織についての情報を得やすくすること」が32.6%と最も高く、次いで、「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行うこと」（29.1%）、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと周知すること」（23.5%）、「困っている人と、支援できる人との調整を図る人材を育成すること」（23.2%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行うこと」が10.8ポイント上昇している。

問 36 【ふたたび、全員にお聞きします】

地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために、どのようなことが重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



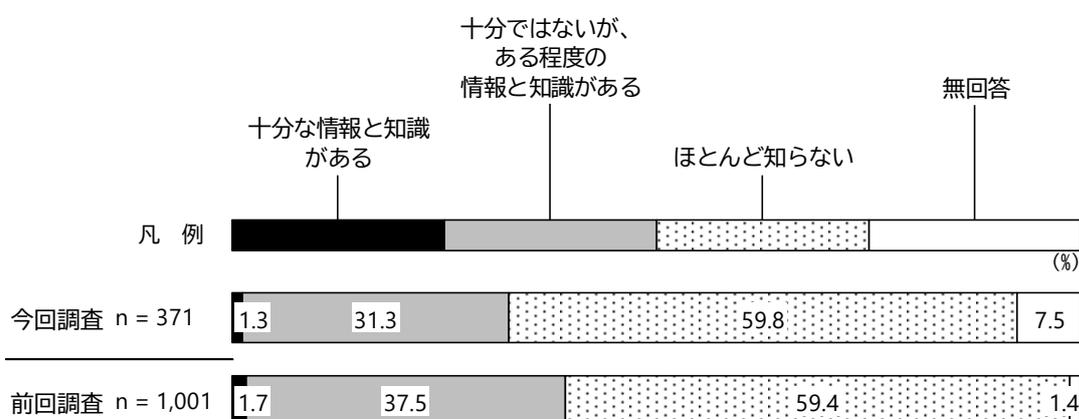
※「学校教育や社会教育での福祉教育を充実させること」については前回調査の「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」の回答と比較した

4 福祉サービスについて

4-1 十和田市の福祉サービスや福祉施設についてどの程度知っているか

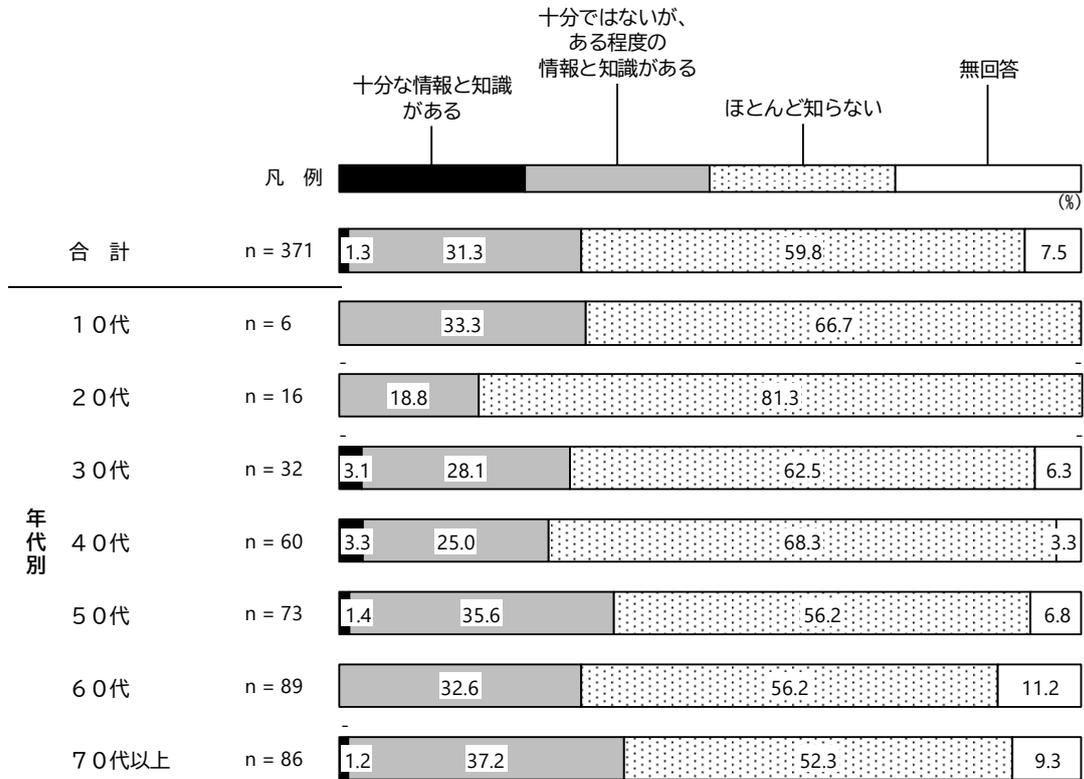
- ▶ 十和田市の福祉サービスや福祉施設についてどの程度知っているかについては、「ほとんど知らない」が59.8%と最も高く、次いで、「十分ではないが、ある程度の情報と知識がある」(31.3%)、「十分な情報と知識がある」(1.3%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

問 37 あなたは、十和田市の福祉サービスや福祉施設などについてどの程度知っていますか。（○印は1つ）



【年代別／十和田市の福祉サービスや福祉施設についてどの程度知っているか】

▶ 年代別に見ると、調査数が少ないことに留意が必要だが、『20代』では「ほとんど知らない」が81.3%と、他の年代に比べて高くなっている。

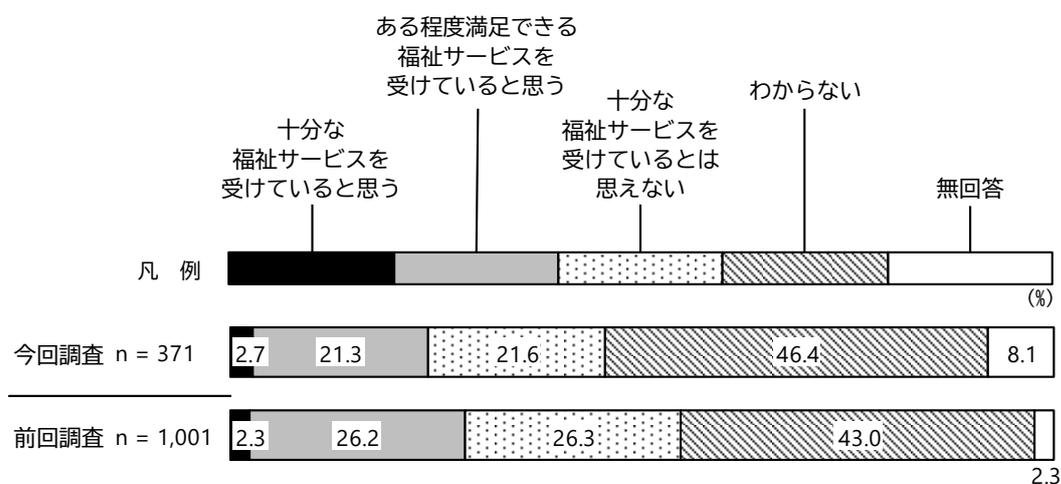


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

4-2 日常生活における支援を必要としている人が十分な福祉サービスを受けられていると思うか

- ▶ 日常生活における支援を必要としている人が十分な福祉サービスを受けられていると思うかについては、「十分な福祉サービスを受けているとは思えない」が21.6%と最も高く、次いで、「ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う」（21.3%）、「十分な福祉サービスを受けていると思う」（2.7%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較しても、全体的に大きな傾向の変化はみられない。

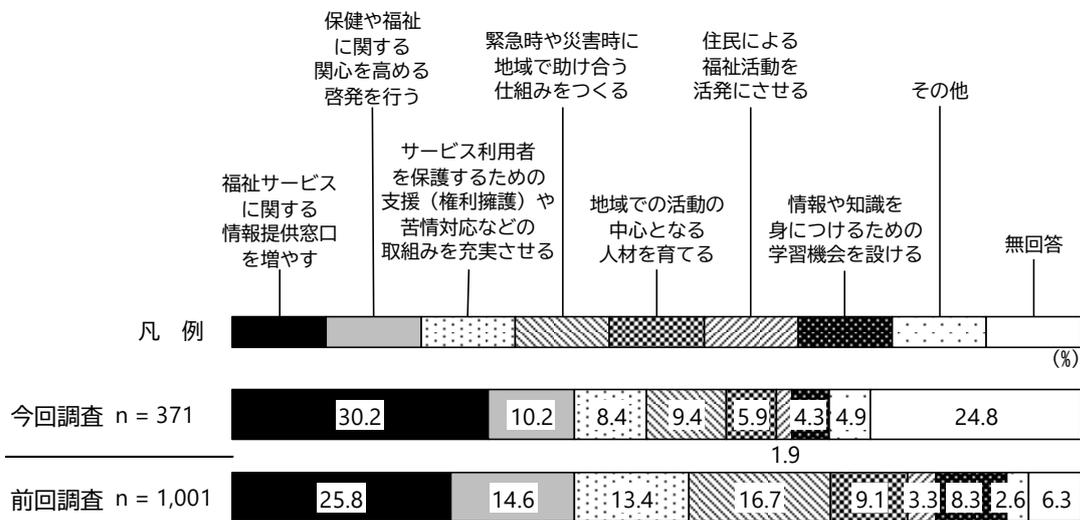
問 38 あなたは、日常生活における支援を必要としている人が、十分な福祉サービスを受けられていると思いますか。（○印は1つ）



4-3 十和田市の福祉サービスを充実させるために最も必要なこと

- ▶ 十和田市の福祉サービスを充実させるために最も必要なことについては、「福祉サービスに関する情報提供窓口を増やす」が30.2%と最も高く、次いで、「保健や福祉に関する関心を高める啓発を行う」（10.2%）、「緊急時や災害時に地域で助け合う仕組みをつくる」（9.4%）、「サービス利用者を保護するための支援（権利擁護）や苦情対応などの取組みを充実させる」（8.4%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「緊急時や災害時に地域で助け合う仕組みを作る」が7.3ポイント下降しており、やや変動がみられる。

問 39 あなたは、十和田市の福祉サービスを充実させるために最も必要なことは何だと思いますか。（○印は1つ）

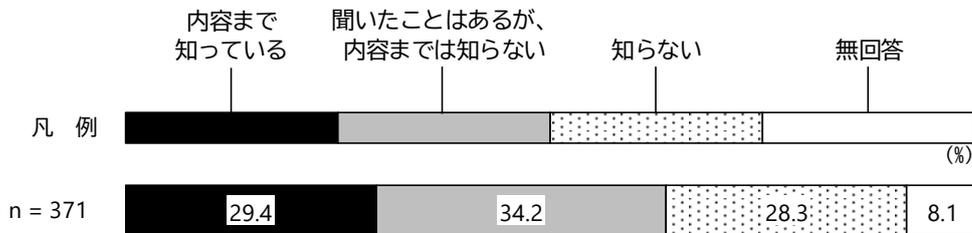


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

4-4 成年後見制度の認知度

- ▶ 成年後見制度の認知度については、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が34.2%と最も高く、次いで、「内容まで知っている」(29.4%)、「知らない」(28.3%)となっている。

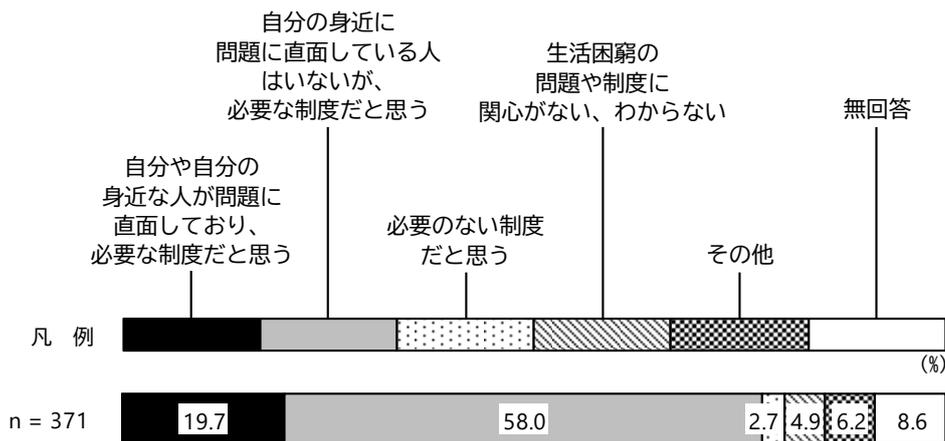
問 40 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（○印は1つ）



4-5 生活困窮の問題や支援制度についての考え

- ▶ 生活困窮の問題や支援制度についての考えについては、「自分の身近に問題に直面している人はいないが、必要な制度だと思う」が58.0%と最も高く、次いで、「自分や自分の身近な人が問題に直面しており、必要な制度だと思う」(19.7%)、「生活困窮の問題や制度に関心がない、わからない」(4.9%)、「必要のない制度だと思う」(2.7%)となっている。

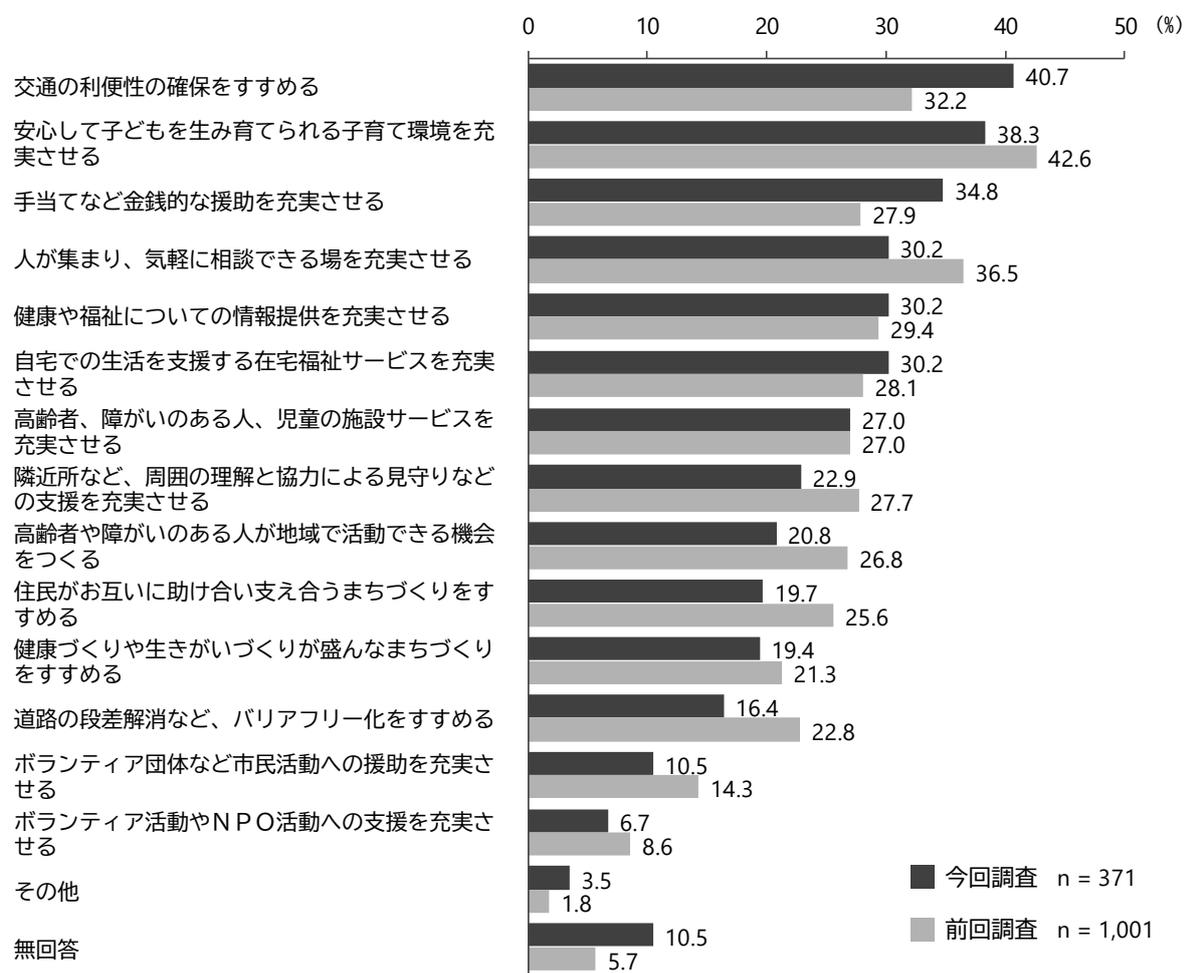
問 41 あなたは、生活困窮の問題や支援制度について、どう思われますか。（○印は1つ）



4-6 十和田市の福祉政策をより充実させるために重要な取り組み

- ▶ 十和田市の福祉政策をより充実させるために重要な取り組みについては、「交通の利便性の確保をすすめる」が40.7%と最も高く、次いで、「安心して子どもを産み育てられる子育て環境を充実させる」(38.3%)、「手当など金銭的な援助を充実させる」(34.8%)、「人が集まり、気軽に相談できる場を充実させる」(30.2%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「交通の利便性の確保をすすめる」が8.5ポイント上昇しており、やや変動がみられる。

問 42 十和田市の福祉政策をより充実させるために、あなたが重要と考える取り組みは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

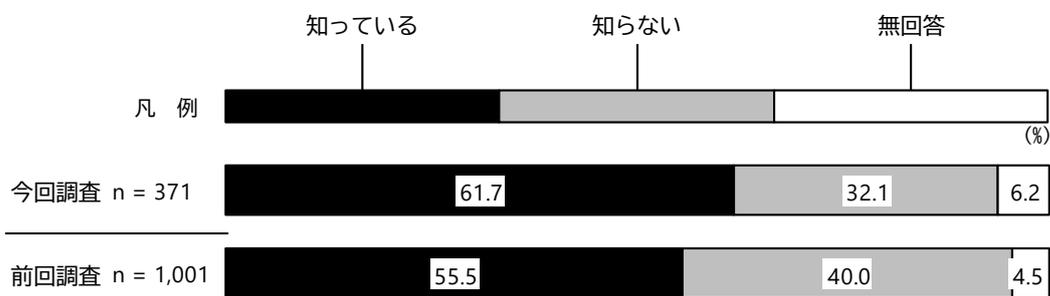


5 災害時の対応について

5-1 災害時の避難場所の認知度

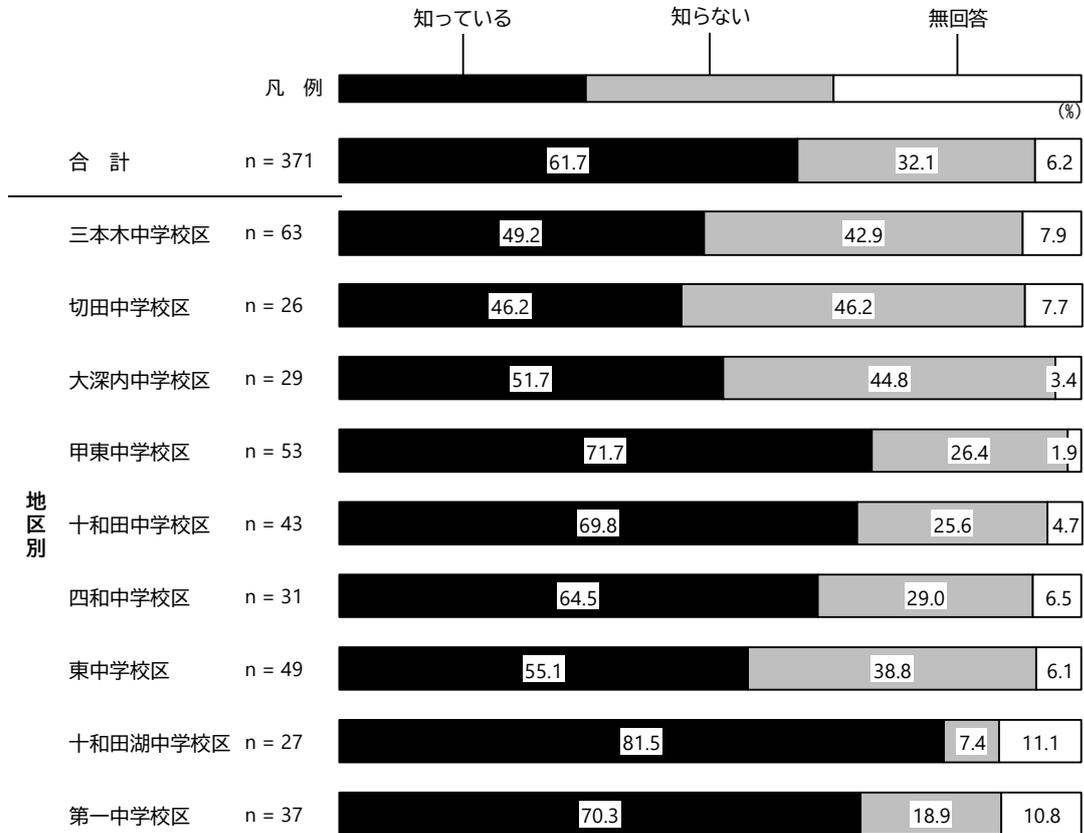
- ▶ 災害時の避難場所の認知度については、「知っている」が61.7%、「知らない」が32.1%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「知らない」が7.9ポイント下降しており、やや変動がみられる。

問 43 あなたは、地震などの災害が発生したときの避難場所を知っていますか。（○印は1つ）



【地区別／災害時の避難場所の認知度】

▶ 地区別に見ると、『十和田湖中学校区』では「知っている」が81.5%と、他の地区に比べてやや高くなっている。

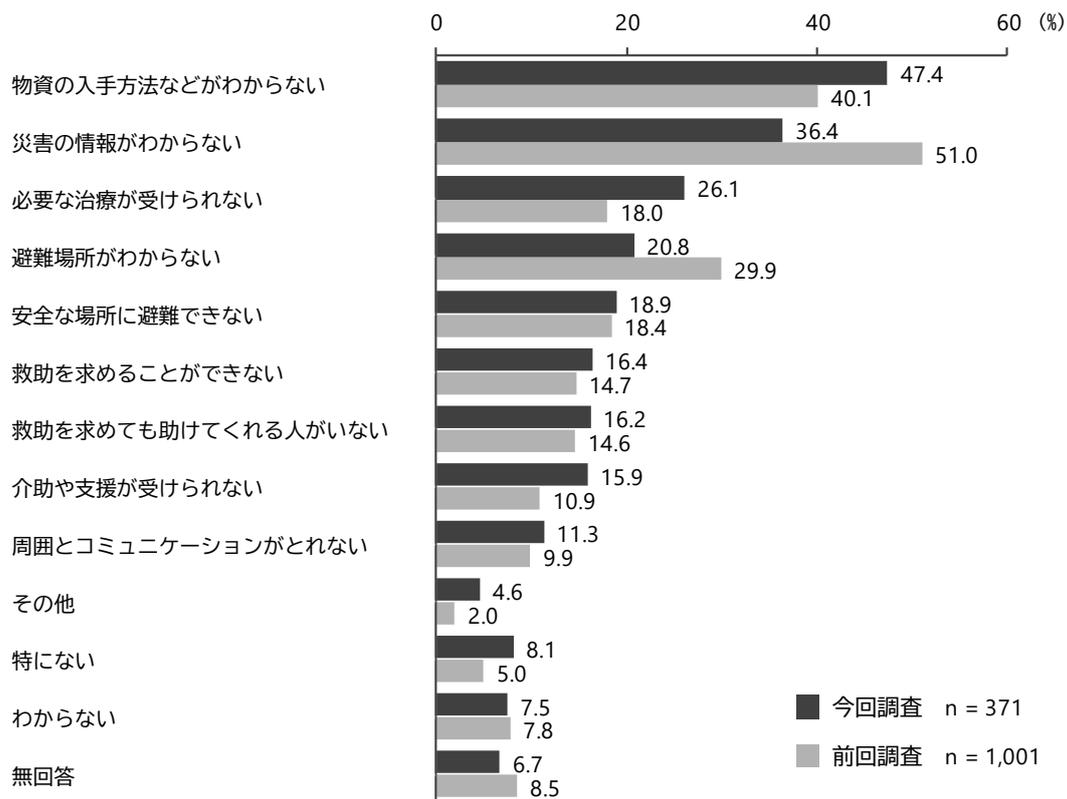


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

5-2 災害発生時に困ると思うこと

- ▶ 災害発生時に困ると思うことについては、「物資の入手方法などがわからない」が47.4%と最も高く、次いで、「災害の情報がわからない」（36.4%）、「必要な治療が受けられない」（26.1%）、「避難場所がわからない」（20.8%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「災害の情報がわからない」が14.6ポイント下降している。

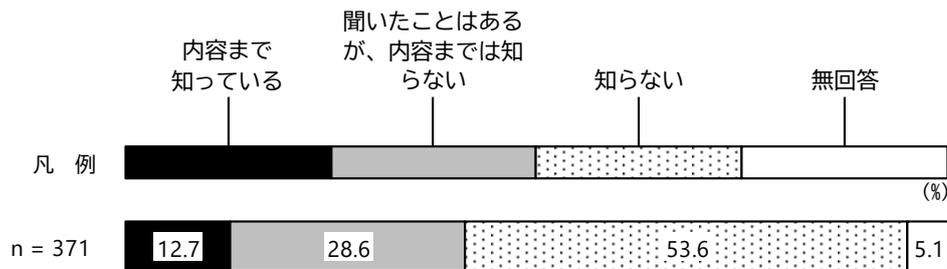
問 44 あなたは、地震などの災害が発生したときに、困ることはどのようなことだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



5-3 避難行動要支援者の認知度

- ▶ 避難行動要支援者の認知度については、「知らない」が53.6%と最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(28.6%)、「内容まで知っている」(12.7%)となっている。

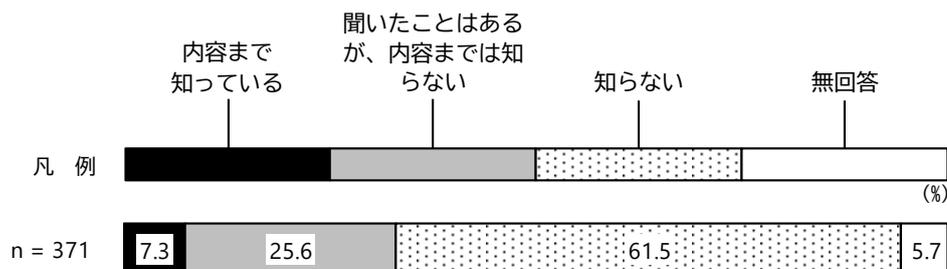
問 45 あなたは、避難行動要支援者について知っていますか。(○印は1つ)



5-4 個別避難計画の認知度

- ▶ 個別避難計画の認知度については、「知らない」が61.5%と最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(25.6%)、「内容まで知っている」(7.3%)となっている。

問 46 あなたは、個別避難計画について知っていますか。(○印は1つ)

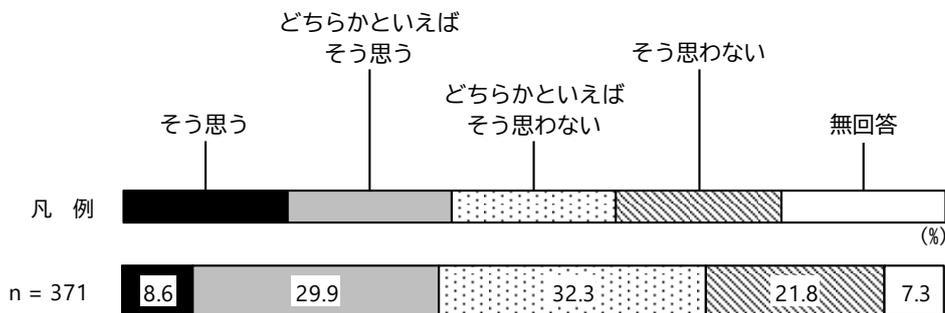


6 再犯防止について

6-1 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うか

- ▶ 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うかについては、「どちらかといえばそう思わない」が32.3%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」(29.9%)、「そう思わない」(21.8%)、「そう思う」(8.6%)となっている。なお、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を合わせた《そう思わない》は54.2%となっている。

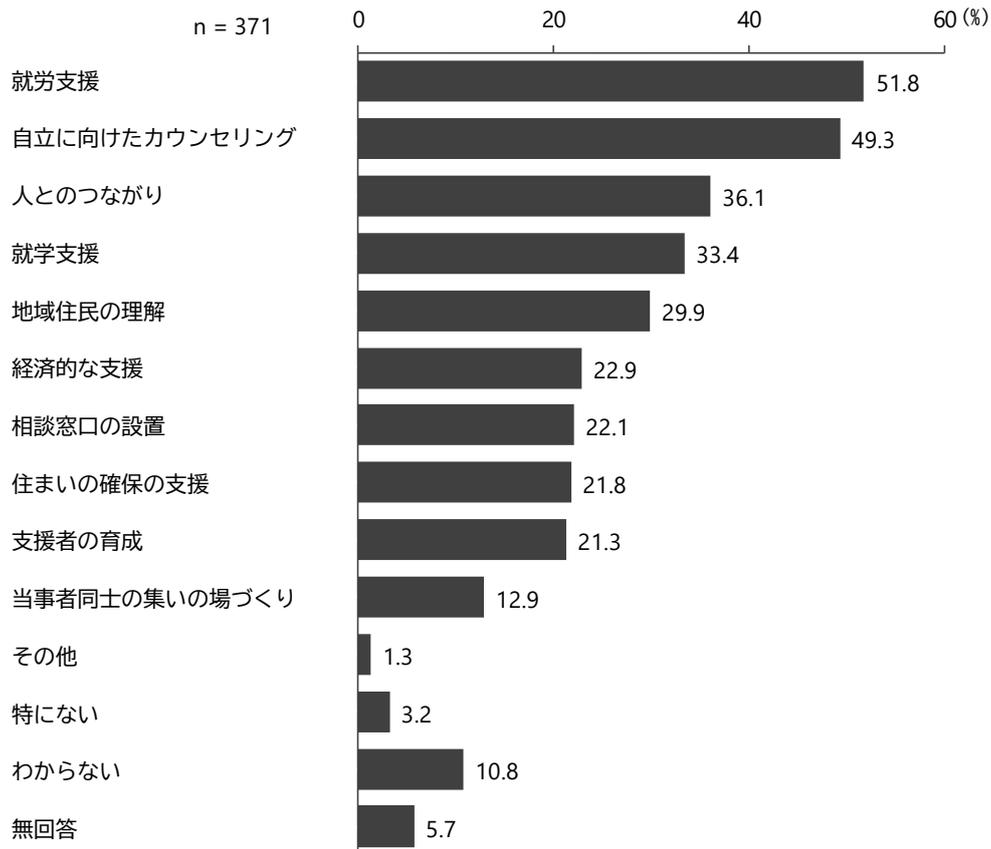
問 47 あなたは、非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。(○印は1つ)



6-2 非行や犯罪をした人の立ち直りに必要だと思う支援

- ▶ 非行や犯罪をした人の立ち直りに必要だと思う支援については、「就労支援」が51.8%と最も高く、次いで、「自立に向けたカウンセリング」(49.3%)、「人とのつながり」(36.1%)、「就学支援」(33.4%)となっている。

問 48 あなたは、非行や犯罪をした人の立ち直りのために、どのような支援が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

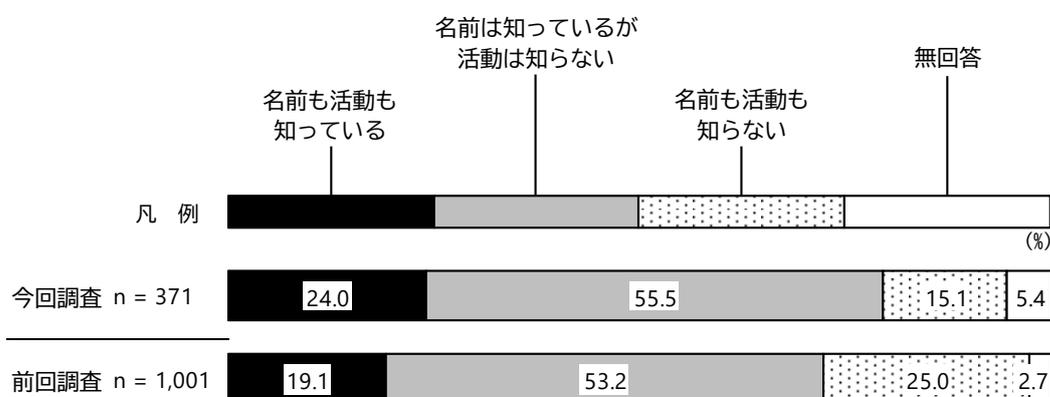


7 十和田市社会福祉協議会、民生委員・児童委員について

7-1 十和田市社会福祉協議会の認知度

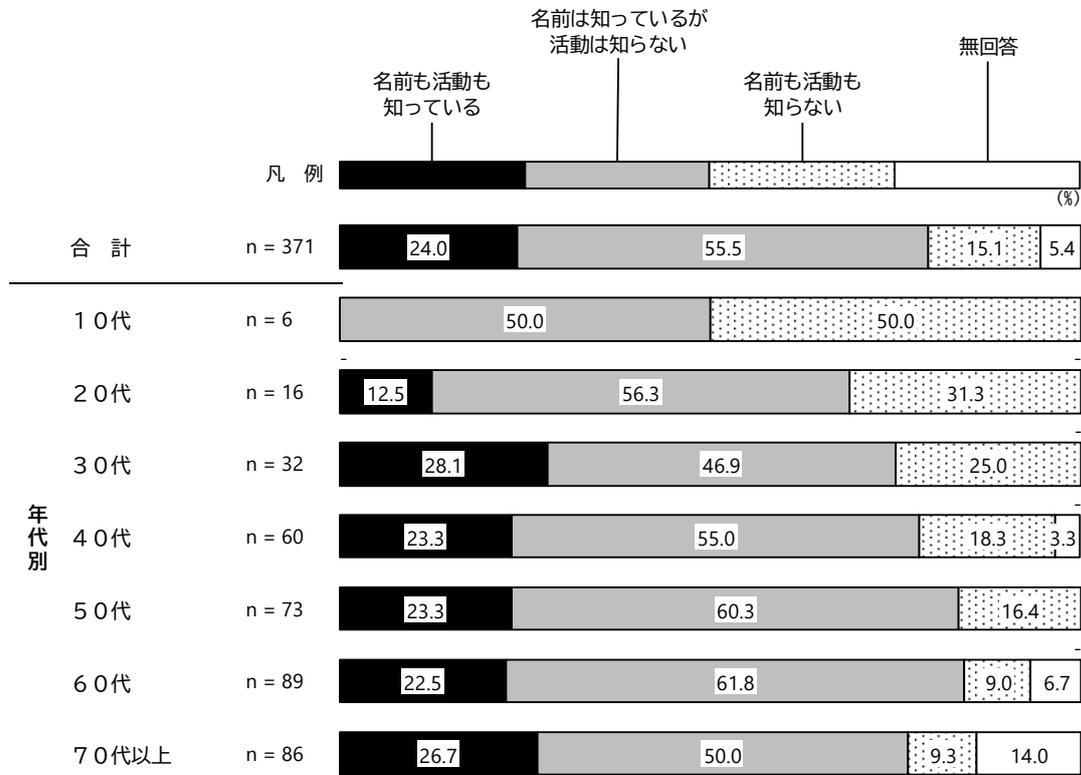
- ▶ 十和田市社会福祉協議会の認知度については、「名前は知っているが活動は知らない」が55.5%と最も高く、次いで、「名前も活動も知っている」(24.0%)、「名前も活動も知らない」(15.1%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「名前も活動も知らない」が9.9ポイント下降しており、やや変動がみられる。

問 49 あなたは、十和田市社会福祉協議会を知っていますか。（○印は1つ）



【年代別／十和田市社会福祉協議会の認知度】

▶ 年代別に見ると、「名前も活動も知っている」はいずれの年代も3割以下となっている。

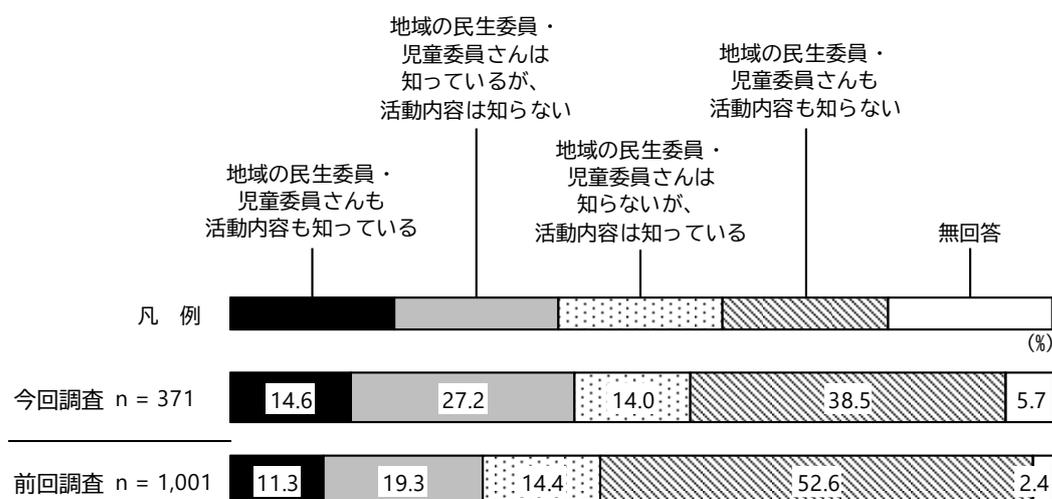


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

7-2 地域の民生委員・児童委員の認知度

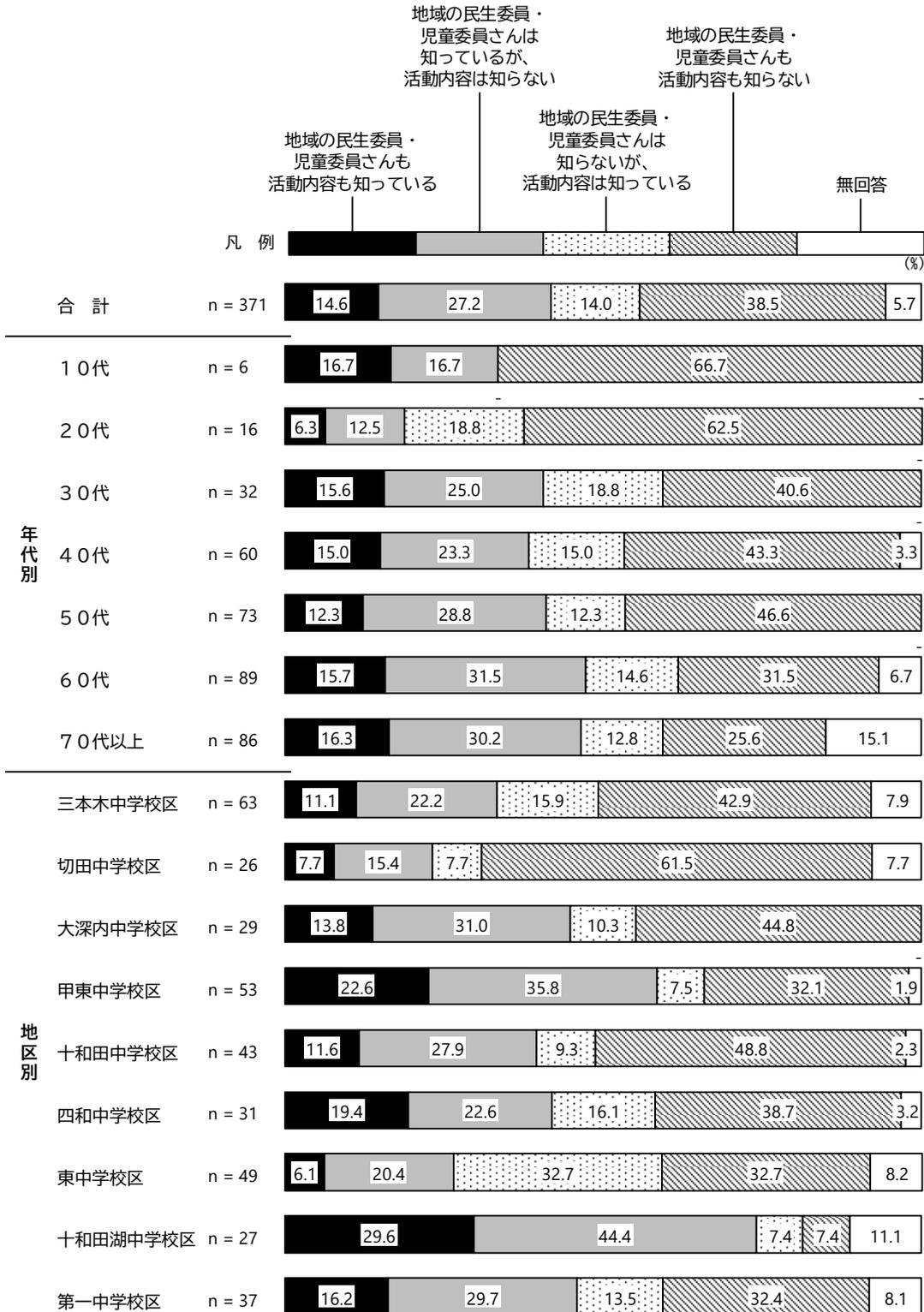
- ▶ 地域の民生委員・児童委員の認知度については、「地域の民生委員・児童委員さんも活動内容も知らない」が38.5%と最も高く、次いで、「地域の民生委員・児童委員さんは知っているが、活動内容は知らない」(27.2%)、「地域の民生委員・児童委員さんも活動内容も知っている」(14.6%)、「地域の民生委員・児童委員さんは知らないが、活動内容は知っている」(14.0%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「地域の民生委員・児童委員さんも活動内容も知らない」が14.1ポイント下降している。

問 50 あなたは、地域の民生委員・児童委員を知っていますか。（○印は1つ）



【年代別・地区別／地域の民生委員・児童委員の認知度】

- ▶ 年代別に見ると、「地域の民生委員・児童委員さんも活動内容も知らない」は10～20代で6割台、30～50代で4割台、60代以上で約3割となっている。
- ▶ 地区別に見ると、『切田中学校区』では「地域の民生委員・児童委員さんも活動内容も知らない」が61.5%と、他の地区に比べて高くなっている。

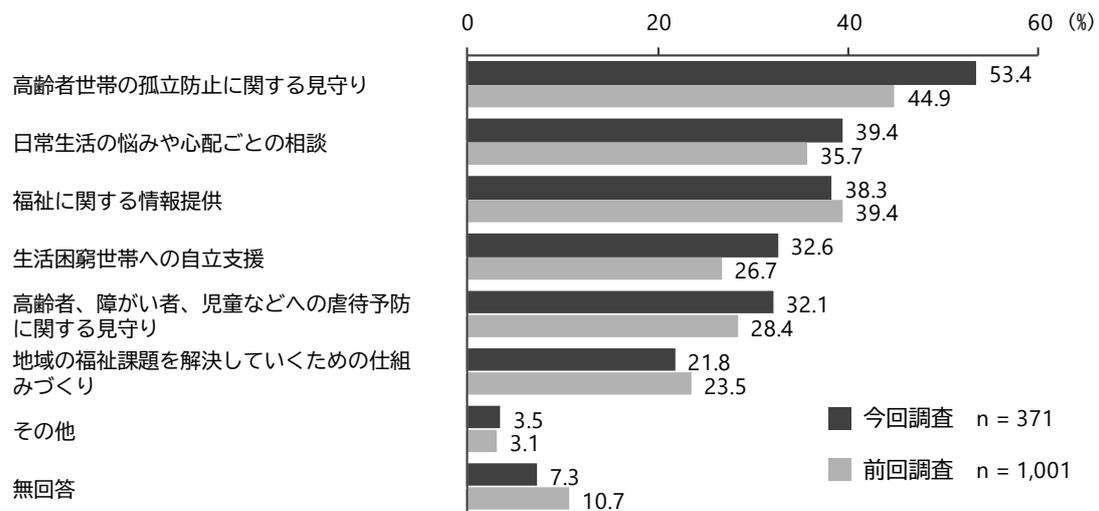


Ⅲ 調査結果の分析（市民）

7-3 民生委員・児童委員に期待すること

- ▶ 民生委員・児童委員に期待することについては、「高齢者世帯の孤立防止に関する見守り」が53.4%と最も高く、次いで、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」（39.4%）、「福祉に関する情報提供」（38.3%）、「生活困窮世帯への自立支援」（32.6%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「高齢者世帯の孤立防止に関する見守り」が8.5ポイント上昇しており、やや変動がみられる。

問 51 民生委員・児童委員に期待することはどんなことですか。（あてはまるものすべてに○）



7-4 安心して暮らせる地域づくりのための課題や困りごと

- ▶ 回答いただいた103件について、記述内容に応じて以下の項目に分類したところ、各項目の意見の合計件数は141件となりました。
- ▶ 『行政に対する意見、要望』が31件と最も多く、次いで『交通・買い物支援について』が21件、『子ども・子育ての支援について』が18件と続いています。

問 52 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを進めるために、課題や困りごとなどがありましたら、ご自由にお書きください。

	項目	件数
1	行政に対する意見、要望	31
2	交通・買い物支援について	21
3	子ども・子育ての支援について	18
4	暮らしの環境や不安等について	12
5	高齢者の支援について	9
6	若者の支援について	9
7	就労について	7
8	レジャー施設やショッピングモール、飲食店について	6
9	病院・医療について	6
10	地域や住民同士の交流について	6
11	情報発信・情報について	5
12	その他	5
13	特になし	6
	意見数計	141

※2つ以上の項目にまたがる意見はそれぞれの項目に分類した

【主な意見（抜粋）】

※各項目と関連性の高い意見を一部抜粋した

※読みやすさを考慮して一部、記述を省略または変更して掲載した

1 行政に対する意見、要望について

- ボランティア活動をもっとするべき。十和田市のLINEから募集したり、広告のチラシなどを配布したりしたらいいと思う。知らないだけで、参加してくれる人はたくさんいると思う（10代女性）
- 私は、ボランティアも出来なくなった老人ですけど今の世の中はいいと思うし、市役所の方々も一生懸命やってくれていると思います。困ったときに、どのような支援制度があるのか、一覧表でもあればと思います。（70代男性）

2 交通・買い物支援について

- 運転のあぶない高齢者が多いので子供を小学校等にこれから先通学させるのが怖い。近くの小学校まで2kmあるが歩かせられない。バスを出してほしい。（20代男性）
- 僻地のため、公共の交通機関が使いません。同じ地域の人たちでヒッチハイク的な事ができれば高齢者の病院通い等も、便利になると思います。乗せてほしい人と乗せてあげられる人をつなぐ制度を整備してほしいです。（40代男性）

Ⅲ 調査結果の分析（市民）

3 子ども・子育ての支援について

- 産科の減少（少子化の原因、市外で出産する場合の緊急時、何かあったらどうする）。室内で子供があそべる場所をつくった方がいい。有料でも人はくる（イオンを2階建てにするなどやろうと思えばできるのになぜしない）（小学生と乳幼児でわけないと危険。別フロアの方がいい）。（20代女性）
- 少子化で学校の合併や存続がどうなっていくのか。産科がないことは少子化への拍車がかかり、他市町村への移住につながり、十和田市の活気がなくなると思う。（50代男性）

4 暮らしの環境や不安等について

- 過疎化（高齢化）しているにも関わらず、昔ながらの集落の活動をしている。少しでも若い者達の意見も聞くような、伝えやすい環境が必要だと思います。私は、ひとり親で高校生の子供がいて、部活もしている。金銭的にもギリギリの生活状況です。草刈りや除雪を頼むにも結局、お金がかかる等、現在の集落から逃げたい気持ちにもなります。（50代女性）
- ソーラーパネルが乱立して、思い出の景色がなくなって悲しい。（20代男性）

5 高齢者の支援について

- 物価の値上げにともない施設等の利用金も値上げしている。生活保護者が増えていると思うが年金だけで入居できない…生活保護者が入居できない所もあります。民生委員の高齢化もどうかと思う。年代によっては活動できない方もみられます。地域包括支援センター、在宅介護支援センターの職員だけでは高齢者独居世帯、高齢者夫婦世帯をまわりきれない。対応が遅くなっている現実もあります。各地区に保健協力員のように、介護協力員を設置して、包括や在介と地域の把握も必要かと思う。（60代女性）

6 若者の支援について

- 老人が暮らしやすい社会を作っても、若い人がどんどん出ていだけなので、若者の暮らしやすい社会にしていくべき。（20代男性）

7 就労について

- 一人親家庭の働きやすい環境制度にしてほしい（土日休み、祝日休みなど）。給料、手当など少ない。（40代女性）

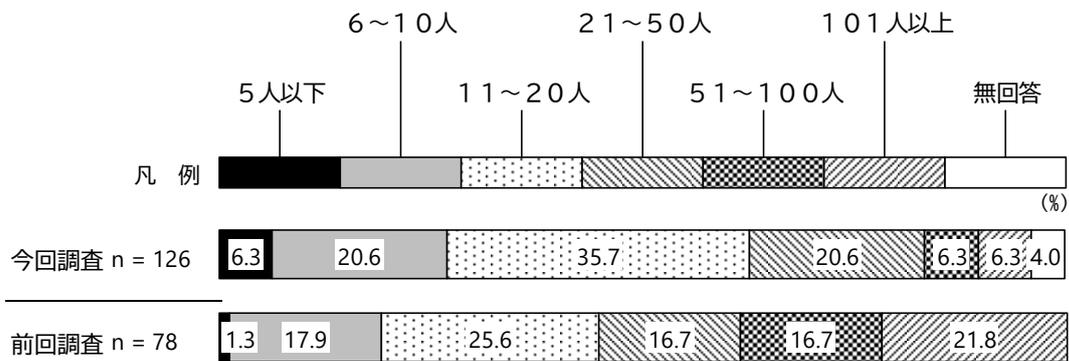
Ⅳ 調査結果の分析（団体）

1 団体の概要について

1-1 構成人数

- ▶ 構成人数については、「11～20人」が35.7%と最も高く、次いで、「6～10人」、「21～50人」（20.6%）、「5人以下」、「51～100人」、「101人以上」（6.3%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「11～20人」が10.1ポイント上昇している。一方、「101人以上」が15.5ポイント、「51～100人」が10.4ポイント下降している。

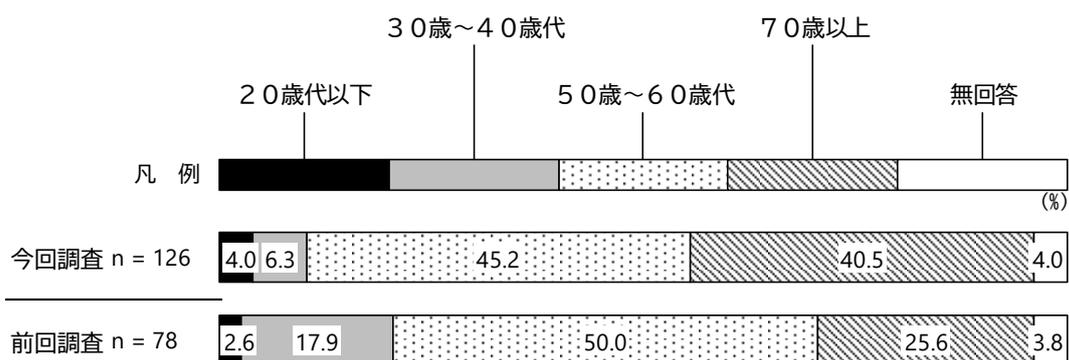
問3 貴団体の構成人数はどのくらいですか。（○印は1つ）



1-2 平均年齢

- ▶ 平均年齢については、「50歳～60歳代」が45.2%と最も高く、次いで、「70歳以上」（40.5%）、「30歳～40歳代」（6.3%）、「20歳代以下」（4.0%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「70歳以上」が14.9ポイント上昇している。一方、「30歳～40歳代」が11.6ポイント下降している。

問4 貴団体の構成員の平均年齢はどのくらいですか。（○印は1つ）

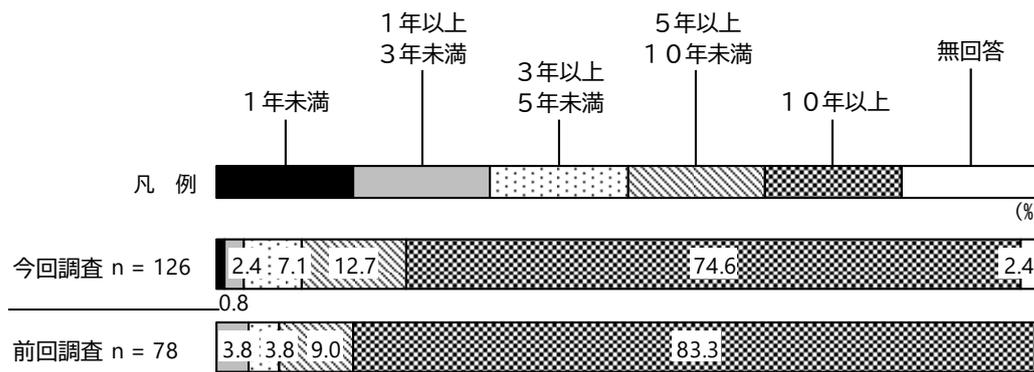


IV 調査結果の分析（団体）

1-3 活動年数

- ▶ 活動年数については、「10年以上」が74.6%と最も高く、次いで、「5年以上10年未満」(12.7%)、「3年以上5年未満」(7.1%)、「1年以上3年未満」(2.4%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「10年以上」が8.7ポイント下降しており、やや変動がみられる。

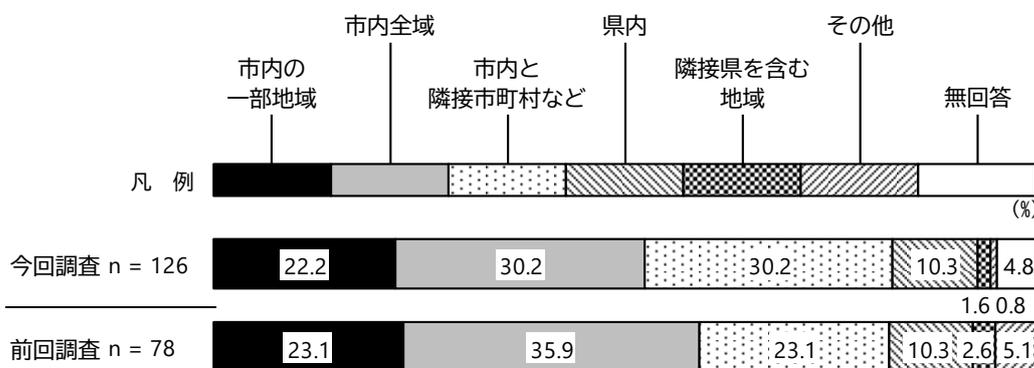
問5 貴団体の活動年数はどのくらいですか。（○印は1つ）



1-4 主な活動区域

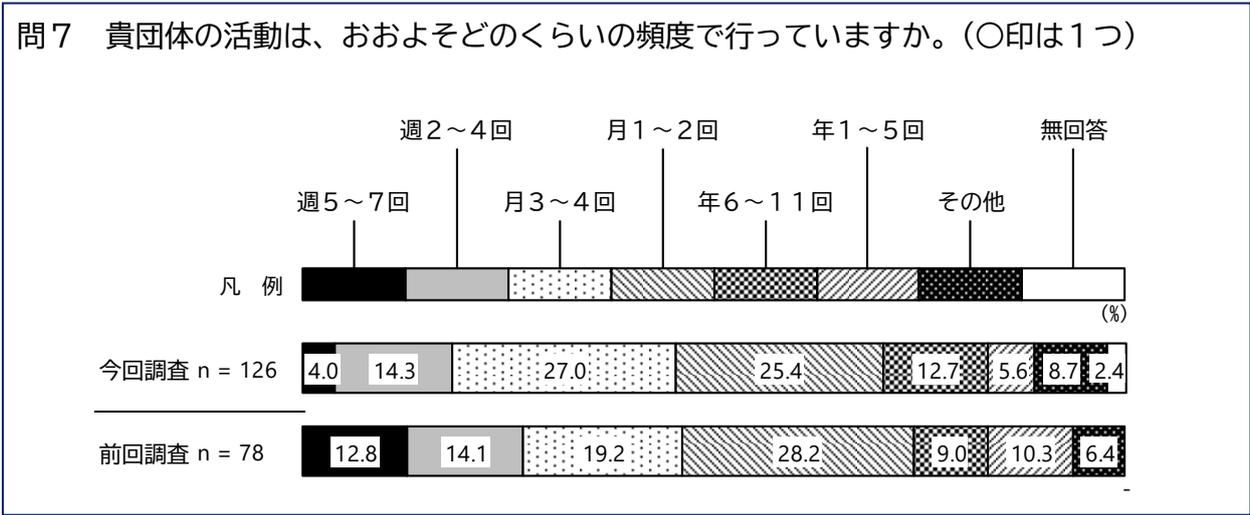
- ▶ 主な活動区域については、「市内全域」及び、「市内と隣接市町村など」が30.2%と最も高く、次いで、「市内の一部地域」(22.2%)、「県内」(10.3%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「市内と隣接市町村など」が7.1ポイント上昇しており、やや変動がみられる。

問6 貴団体の主な活動区域を教えてください。（○印は1つ）



1-5 活動の頻度

- ▶ 活動の頻度については、「月3～4回」が27.0%と最も高く、次いで、「月1～2回」（25.4%）、「週2～4回」（14.3%）、「年6～11回」（12.7%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「月3～4回」が7.8ポイント上昇している。一方、「週5～7回」が8.8ポイント下降しており、やや変動がみられる。

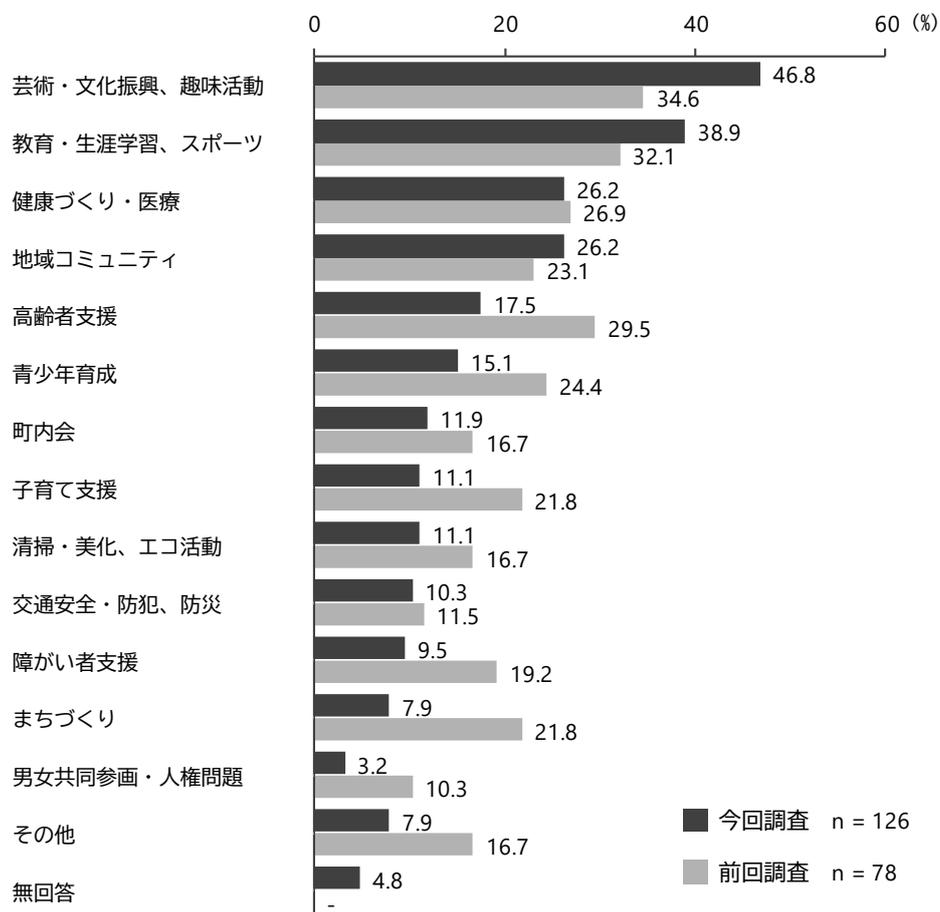


2 団体の活動等について

2-1 取り組んでいる地域活動の分野

- ▶ 取り組んでいる地域活動の分野については、「芸術・文化振興、趣味活動」が46.8%と最も高く、次いで、「教育・生涯学習、スポーツ」(38.9%)、「健康づくり・医療」、「地域コミュニティ」(26.2%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「芸術・文化振興、趣味活動」が12.2ポイント上昇している。一方、「まちづくり」が13.9ポイント、「高齢者支援」が12.0ポイント、「子育て支援」が10.7ポイント下降している。

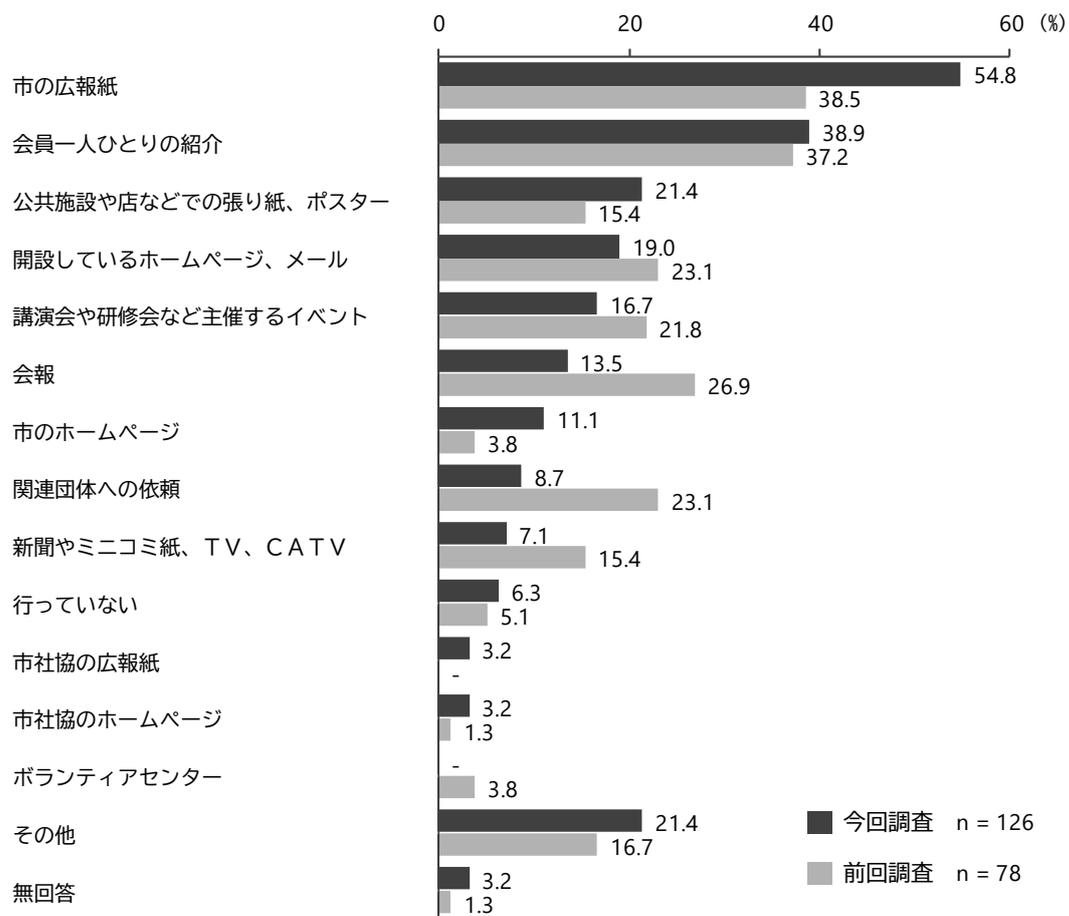
問8 貴団体が取り組んでいる地域活動等の分野を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



2-2 活動のPRや会員募集の方法

- ▶ 活動のPRや会員募集の方法については、「市の広報紙」が54.8%と最も高く、次いで、「会員一人ひとりの紹介」（38.9%）、「公共施設や店などでの張り紙、ポスター」（21.4%）、「開設しているホームページ、メール」（19.0%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「市の広報紙」が16.3ポイント上昇している。一方、「関連団体への依頼」が14.4ポイント、「会報」が13.4ポイント下降している。

問9 貴団体では、活動のPRや会員の募集などをどのような方法で行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

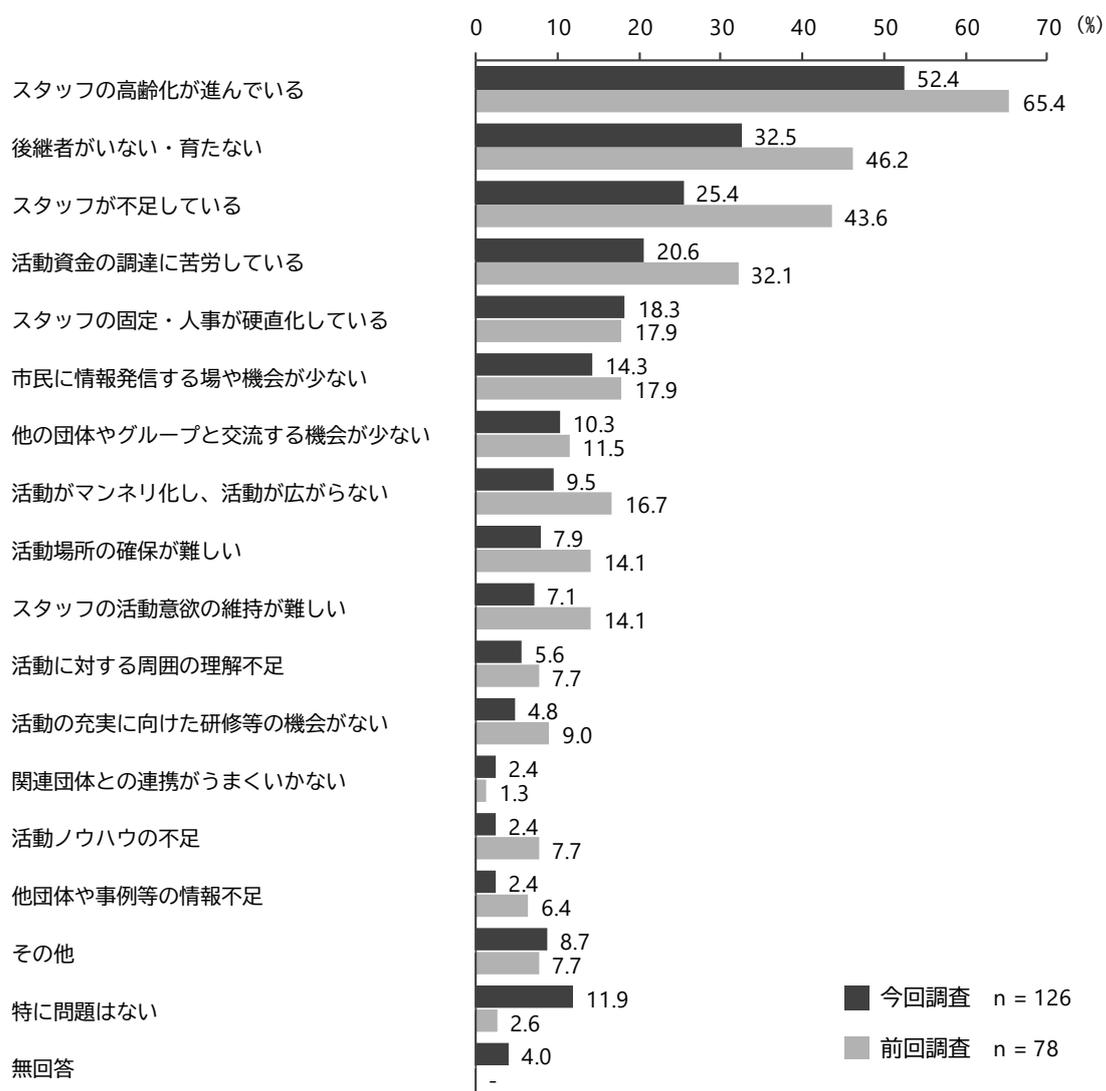


IV 調査結果の分析（団体）

2-3 活動を行ううえでの問題点・課題

- ▶ 活動を行ううえでの問題点・課題については、「スタッフの高齢化が進んでいる」が52.4%と最も高く、次いで、「後継者がいない・育たない」（32.5%）、「スタッフが不足している」（25.4%）、「活動資金の調達に苦労している」（20.6%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「スタッフが不足している」が18.2ポイント、「後継者がいない・育たない」が13.7ポイント、「スタッフの高齢化が進んでいる」が13.0ポイント、「活動資金の調達に苦労している」が11.5ポイント下降している。

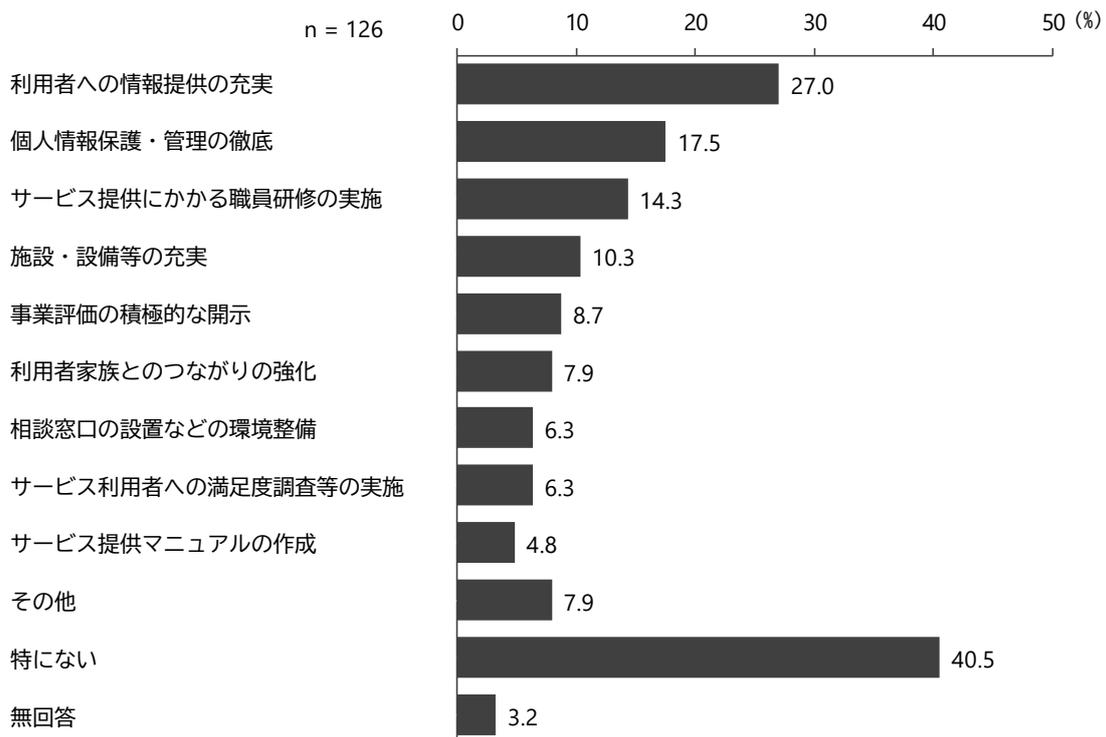
問 10 貴団体が活動を行ううえでの問題点・課題について教えてください。（あてはまるものすべてに○）



2-4 サービスの質の向上のための取り組み

- ▶ サービスの質の向上のための取り組みについては、「利用者への情報提供の充実」が27.0%と最も高く、次いで、「個人情報保護・管理の徹底」(17.5%)、「サービス提供にかかる職員研修の実施」(14.3%)、「施設・設備等の充実」(10.3%)となっている。なお、「特にない」が40.5%となっている。

問 11 貴団体では、サービスの質の向上のために、取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

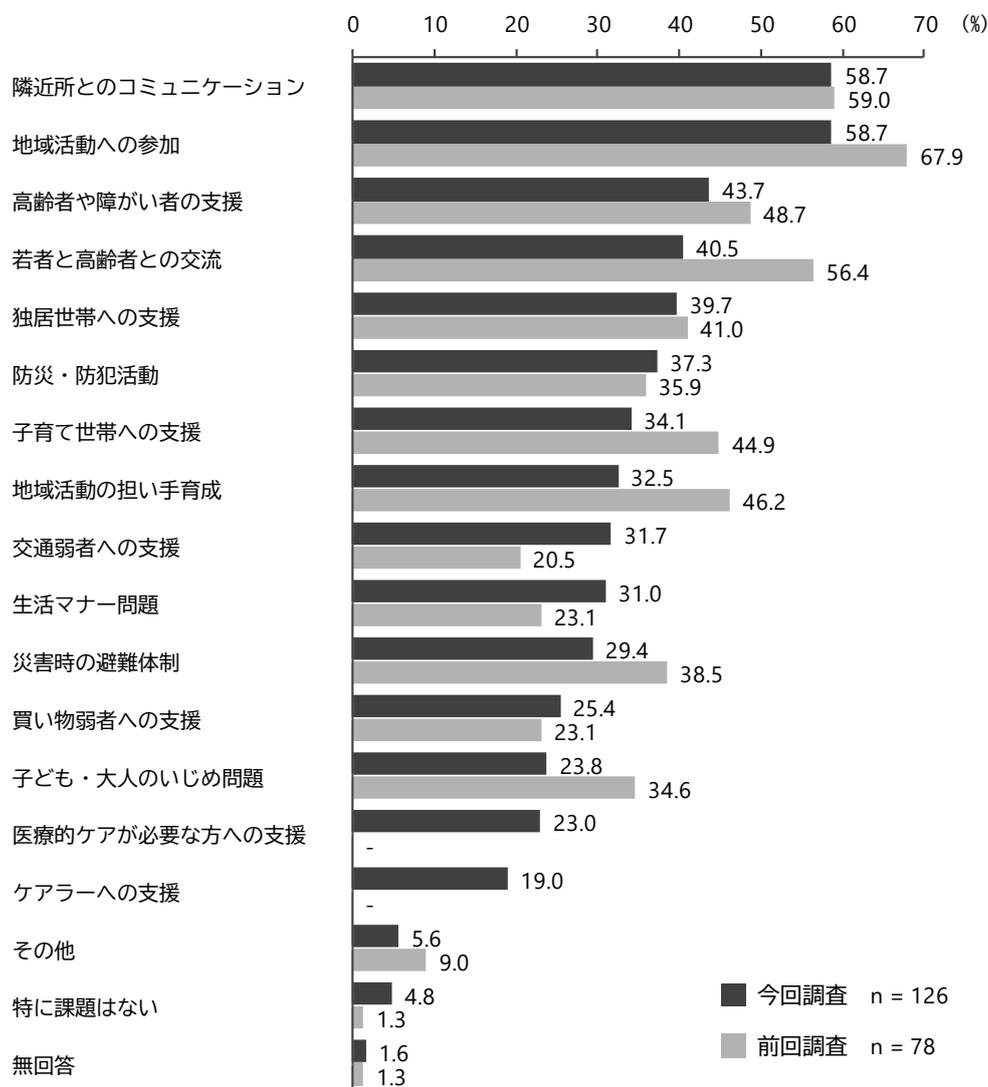


IV 調査結果の分析（団体）

2-5 地域のだれもが安心して生活するために取り組むべき課題

- ▶ 地域のだれもが安心して生活するために取り組むべき課題については、「隣近所とのコミュニケーション」、「地域活動への参加」が 58.7%と最も高く、次いで、「高齢者や障がい者の支援」（43.7%）、「若者と高齢者との交流」（40.5%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「交通弱者への支援」が 11.2 ポイント上昇している。一方、「若者と高齢者との交流」が 15.9 ポイント、「地域活動の担い手育成」が 13.7 ポイント、「子育て世帯への支援」、「子供・大人のいじめ問題」が 10.8 ポイント下降している。

問 12 今後、地域のだれもが安心して生活するために、取り組むべき課題は何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

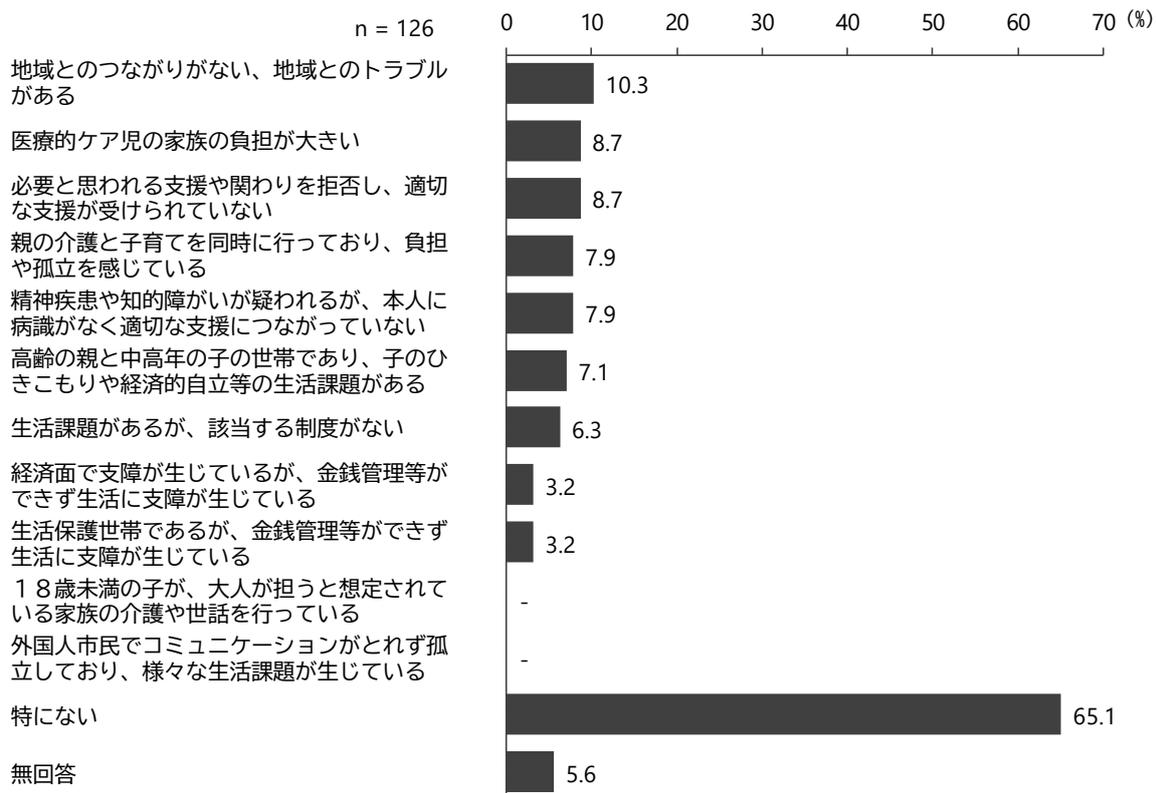


※「医療的ケアが必要な方への支援」、「ケアラーへの支援」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取

2-6 活動を通して見聞きしたことや対応したことがある事例

- ▶ 活動を通して見聞きしたことや対応したことがある事例については、「地域とのつながりが無い、地域とのトラブルがある」が10.3%と最も高く、次いで、「医療的ケア児の家族の負担が大きい」、「必要と思われる支援や関わりを拒否し、適切な支援が受けられていない」(8.7%)、「親の介護と子育てを同時に行っており、負担や孤立を感じている」(7.9%)となっている。なお、「特にない」が65.1%となっている。

問13 貴団体の活動を通して、見聞きしたことや対応したことがある事例はありますか。(あてはまるものすべてに○)

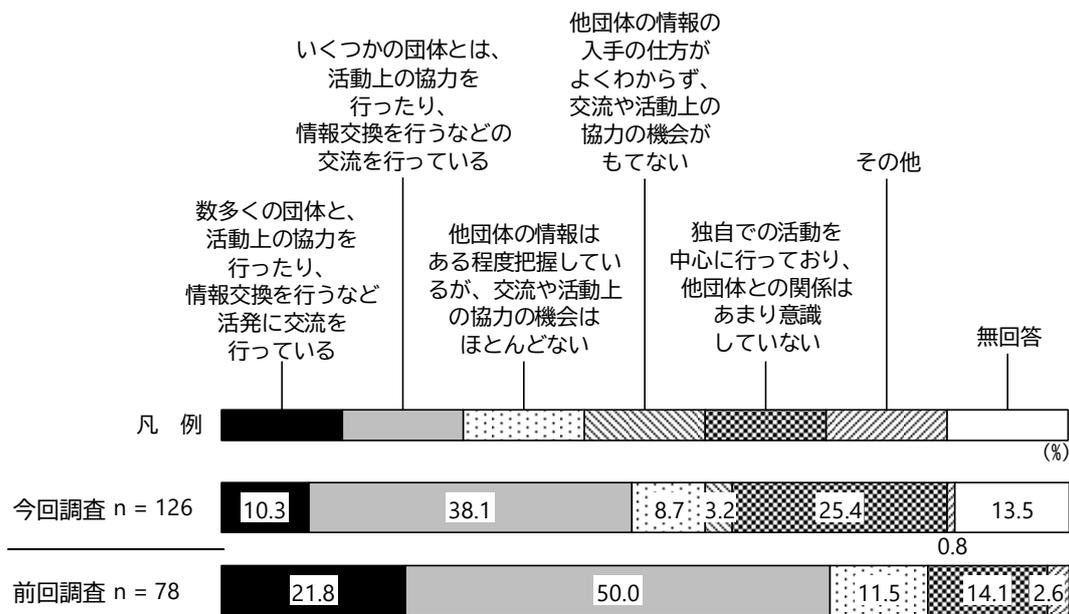


IV 調査結果の分析（団体）

2-7 他のグループや団体、公共機関などとの交流や協力の状況

- ▶ 他のグループや団体、公共機関などとの交流や協力の状況については、「いくつかの団体とは、活動上の協力を行ったり、情報交換を行うなどの交流を行っている」が38.1%と最も高く、次いで、「独自での活動を中心に行っており、他団体との関係はあまり意識していない」(25.4%)、「数多くの団体と、活動上の協力を行ったり、情報交換を行うなど活発に交流を行っている」(10.3%)、「他団体の情報はある程度把握しているが、交流や活動上の協力の機会はほとんどない」(8.7%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「独自での活動を中心に行っており、他団体との関係はあまり意識していない」が11.3ポイント上昇している。一方、「いくつかの団体とは、活動上の協力を行ったり、情報交換を行うなどの交流を行っている」が11.9ポイント下降している。

問14 貴団体では、他のグループや団体、公共機関などと交流や協力関係がありますか。（〇印は1つ）



2-8 交流・連携・協力の内容

- ▶ 他グループや団体、公共機関などと協力や交流をしている団体の方に、交流・連携・協力の内容をお聞きしました。回答いただいた 64 件について、記述内容に応じて以下の項目に分類したところ、各項目の意見の合計件数は 86 件となりました。
- ▶ 『イベント、行事での協力』が 31 件と最も多く、次いで『情報交換』が 14 件、『事業、活動の相互参加や協力』が 11 件と続いています。

問 15 【問 14 で、「数多くの団体と、活動上の協力を行ったり、情報交換を行うなど活発に交流を行っている」または「いくつかの団体とは、活動上の協力を行ったり、情報交換を行うなどの交流を行っている」とお答えになった団体の方にお聞きします】
どのような形で交流・連携・協力しているか教えてください。

	項目	件数
1	イベント、行事での協力	31
2	情報交換	14
3	事業、活動の相互参加や協力	11
4	連合会、協会等関係団体への参加	10
5	交流会・交流の機会	9
6	研修会の開催、参加	6
7	設備、資源の共有	3
8	その他	2
	意見数計	86

※2つ以上の項目にまたがる意見はそれぞれの項目に分類した

【主な意見（抜粋）】

※各項目と関連性の高い意見を一部抜粋した

※読みやすさを考慮して一部、記述を省略または変更して掲載した

1 イベント、行事での協力

- ろうあ協会、手話サークルと共に年に1回「みみの日」を開催。（青森県手話通訳問題研究会 十和田班）
- 地域の他のオーケストラ団体とは、お互いの演奏会でエキストラとして、交流・協力しあっている。（ジュニアオーケストラ十和田）
- イベントにて、出演依頼が来た際、自チームでは時間を余してしまう時は、他チームへ助けを求めて、その地域のイベントを盛り上げています。（馬花道）

2 情報交換

- 相談支援員等を通して、利用者の生活の充実をはかるよう情報交換や協力をしている。（特定非営利活動法人・雑木林）
- 年・数回の研修（県・団体）での情報交換会。（十和田点訳・朗読奉仕会）

IV 調査結果の分析（団体）

3 事業、活動の相互参加や協力

- 他の山岳団体と交流活動を行っている（共同山行など）。（十和田山岳会）
- お互いに活動日に参観し合っている。（わっこの会）

4 連合会、協会等関係団体への参加

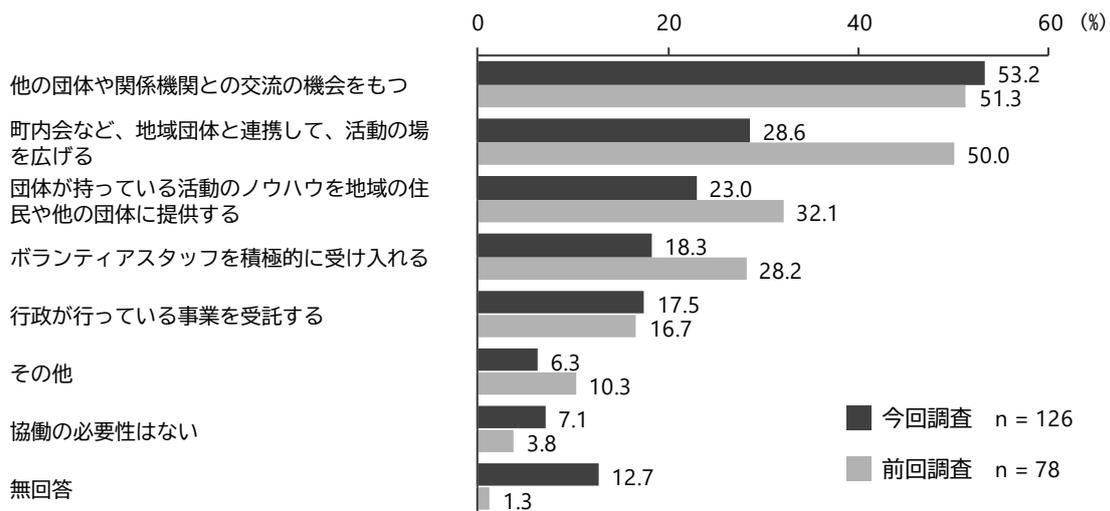
- 4団体で連合会を構成している。（十和田市中央商店街振興組合）
- 十和田市文化協会、十和田市民文化祭実行委員会へ加入し、各分野で活動されている方々との交流を持つことができます。（青山御流楽山会青森支部）

2-9 住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりのために必要な取り組み

- ▶ 住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりのために必要な取り組みについては、「他の団体や関係機関との交流の機会をもつ」が53.2%と最も高く、次いで、「町内会など、地域団体と連携して、活動の場を広げる」(28.6%)、「団体が持っている活動のノウハウを地域の住民や他の団体に提供する」(23.0%)、「ボランティアスタッフを積極的に受け入れる」(18.3%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「町内会など、地域団体と連携して、活動の場を広げる」が21.4ポイント下降している。

問16 【ふたたび、すべての団体の方にお聞きします】

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進めるために、様々な主体（住民－事業者・ボランティア・NPO団体－行政など）が協働していくことが求められていますが、貴団体の取り組みとして、今後どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

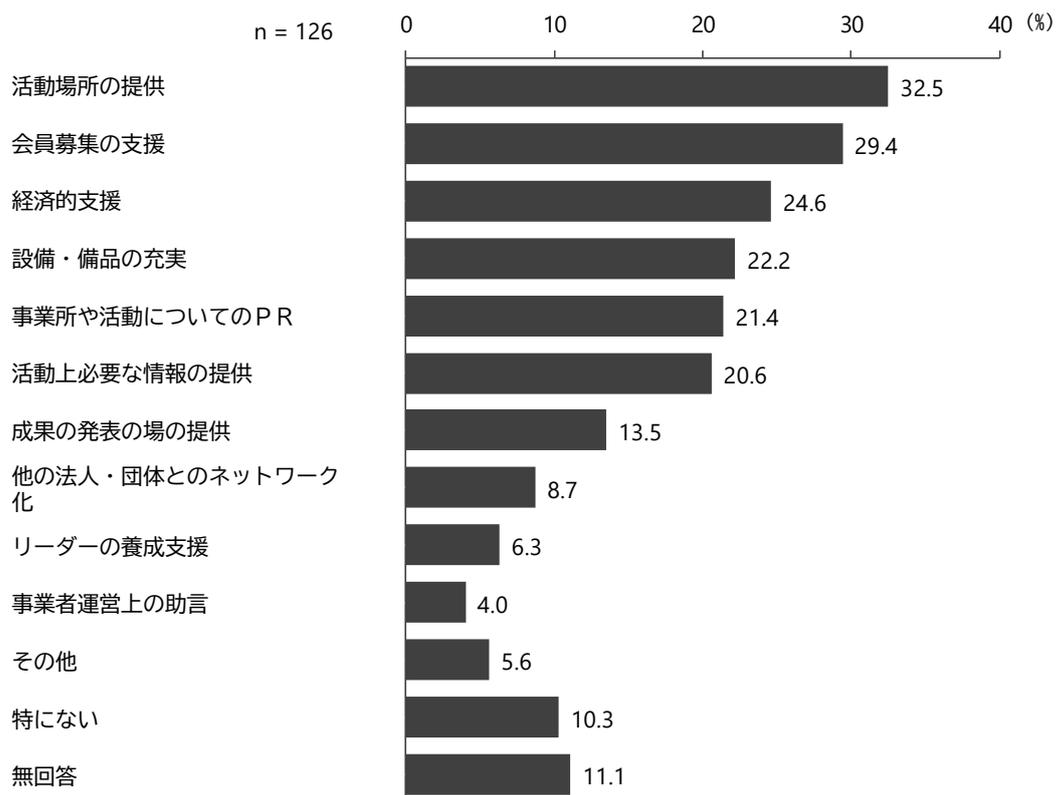


IV 調査結果の分析（団体）

2-10 活動していくうえで市に望むこと

- ▶ 活動していくうえで市に望むことについては、「活動場所の提供」が32.5%と最も高く、次いで、「会員募集の支援」(29.4%)、「経済的支援」(24.6%)、「設備・備品の充実」(22.2%)となっている。

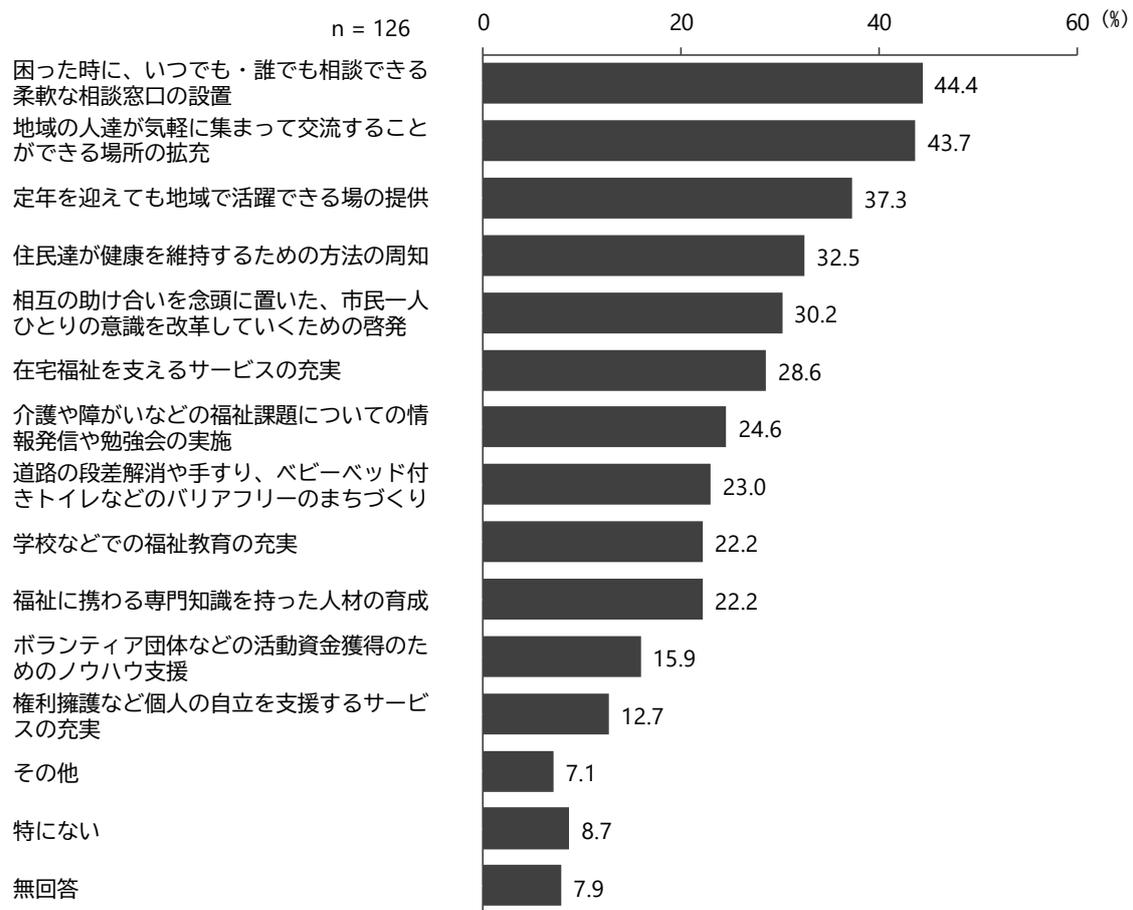
問 17 貴団体が活動をしていくうえで、市に望むことはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）



2-11 地域における住民の福祉活動推進について行政に期待すること

- ▶ 地域における住民の福祉活動推進について行政に期待することについては、「困った時に、いつでも・誰でも相談できる柔軟な相談窓口の設置」が 44.4%と最も高く、次いで、「地域の人達が気軽に集まって交流することができる場所の拡充」(43.7%)、「定年を迎えても地域で活躍できる場の提供」(37.3%)、「住民達が健康を維持するための方法の周知」(32.5%)となっている。

問 18 地域における住民の福祉活動推進について、行政に期待することは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



3 地域福祉の推進に関する意見など

3-1 地域福祉の推進に関する意見など

- ▶ 回答いただいた 47 件について、記述内容に応じて以下の項目に分類したところ、各項目の意見の合計件数は 57 件となりました。
- ▶ 『行政に対する意見、要望』が 13 件と最も多く、次いで『地域福祉全般について』、『高齢者の支援について』がともに 9 件と続いています。

問 19 地域福祉の推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。

	項目	件数
1	行政に対する意見、要望	13
2	地域福祉全般について	9
3	高齢者の支援について	9
4	団体の活動内容について	7
5	子ども・子育ての支援について	5
6	高齢化による活動会員の減少について	4
7	アンケートについて	2
8	その他	3
9	特に無し	5
	意見数計	57

※2つ以上の項目にまたがる意見はそれぞれの項目に分類した

【主な意見】

※各項目と関連性の高い意見を一部抜粋した

※読みやすさを考慮して一部、記述を省略または変更して掲載した

1 行政に対する意見、要望について

- この夏場、暑い為、ロビーはクーラーがほしい。要望は何回も出していますが、現在前へ進んでいません。広いロビーなので、設備に大分資金がかかるという理由です。私も、冷房でガンガン冷すのではなく、簡易的な、クーラー2基で充分です。暑さがやわらぐ程度でいいですので検討願いたい。サロン以外にも、中学生が多く、勉強の場としても利用しているので。（東地区コミュニティ推進協議会）
- 十和田フィルオーケストラ（ジュニアオーケストラ）などにも所属しています。以前は文化センターの一室に楽譜をおいてもらったりしていたのが、全くできなくなり、かなりの量の楽譜を個人宅に預けて、練習のたび持ち運んでいます。市の文化活動として、もう少し許容されたり補助されてもいいと思います。
ジュニアを経験して、大人になってフィルオケに戻ってきている若者がここ数年多くなっています。市内でオーケストラができる、それがあって若者がまた戻ってきたいと思える、素晴らしい活動だと思います。こういった活動を若者が支えている、といったことをもっと市長始め行政に知ってほしいです。
(さんぼみち)

2 地域福祉全般について

- 地域福祉を必要としている方々の把握。地域毎のコミュニティー及び市全体のコミュニティーの充実。地域毎に何でも気軽に話せる相談所を月1～2回程度設ける。地域の人は、地域で何かあったら対応出来る体制作り。（ゆるくてやさしいヨガ愛好会）
- サービスの拡充は聞こえがいいですが、無理です。現状維持だったり、機能をコンパクトにして本当に必要なサービスは何か、それを継続的に維持するためにはどうしたらいいかなど、その町、その地域に適した現実的な話し合いが必要だと思われます。（特定非営利活動法人 おいらせサポートハウスKの家）

3 高齢者の支援について

- 民生委員が何をして活動しているかよくわかりません。一人ぐらしで生活している方（高齢者）に対する民生委員の家庭訪問が必要だと思います（民生委員の研修の強化）。（東GGC）
- 独居老人であっても日中は食事や掃除等のサービスが受けられる様ですが、夜一人で過ごす老人の方が多く様々だと思いますので、夜の宿舎、又は夜宿泊してもらえる介護士さん等が必要な気がします。（ゆったり太極拳教室）

4 団体の活動内容について

- 本当に自由に記します。サークル活動での課題（1）メンバーの高齢化（2）メンバーが増えないというより、身体的理由により減少の一途。高齢になると、自主的活動に貢献するというのは、肉体的にけっこうきびしいことが多い。その側面から若い方々に助けていただけるとうれしいのですが…メンバーとしてサークルに入らなくてもよいと思うのです。お助けマンシステムみたいなものがあつたらなァ。（お抹茶クラブ）
- 市民ひとりひとりが、自分にできるちょっとしたことでも継続して取り組んでいけることは、大事なことなので、これからも団体の活動を続けていきます。（とわだわくわく子育て応援隊）

V 資料編

1 使用した調査票（市民）

第3期十和田市地域福祉計画策定のための アンケート調査

市民用

～ご協力のお願い～

市民の皆様には日頃から福祉行政にご支援・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

十和田市では、平成28年3月に第1期となる「十和田市地域福祉計画」を策定し、基本理念である「ともに支え合う 地域共生のまちづくり とわだ」をもとに、地域福祉の各種取り組みを進めてきました。

このアンケート調査は、第3期となる次期計画の策定にあたり、皆様の地域福祉に関するお考えや、福祉サービスの利用状況、地域活動への参加状況などの実態を把握し、今後の地域福祉の推進のための基礎資料として活用させていただくためのものです。

この調査は、市内にお住いの18歳以上の方から無作為に抽出した1,000名の方をお願いしております。調査は無記名であり、ご回答いただいた内容は統計的に処理します。プライバシーの保護に万全を期しておりますので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年9月 十和田市

ご回答にあたってのお願い

- 回答はすべて、封筒のあて名のご本人がお答えください。
- 回答は、設問ごとに決められた数だけ、あてはまる項目の番号に○印をつけてください。
- 回答していただく方が限られる設問もありますので、設問の指定に沿ってお答えください。特段指定がない設問については全員がお答えください。
- 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内になるべく具体的にご記入ください。
- 回答期限は **令和7年9月19日（金）** です。 ※当日消印有効

この調査に関するお問い合わせ先

十和田市健康福祉部 生活福祉課 福祉係

TEL：0176-51-6718 FAX：0176-22-7599

あなたご自身についてお聞きします。

問1 あなたの性別を教えてください。(○印は1つ)

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

問2 あなたの年齢は何歳ですか。(○印は1つ)

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1 10代 | 4 40代 | 7 70代以上 |
| 2 20代 | 5 50代 | |
| 3 30代 | 6 60代 | |

問3 あなたのご職業を教えてください。(○印は1つ)

- | | |
|----------------------|----------|
| 1 会社員・公務員・団体職員等 | 5 学生 |
| 2 自営業 | 6 家事専業 |
| 3 パート・アルバイト | 7 無職 |
| 4 自由業(開業医・弁護士・文筆家など) | 8 その他() |

問4 あなたの世帯構成を教えてください。(○印は1つ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1 単身(一人暮らし)世帯 | 4 親子孫3世代世帯 |
| 2 夫婦のみの世帯 | 5 その他() |
| 3 親子2世代世帯 | |

問5 あなたは、十和田市に住み始めて何年になりますか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|--------|
| 1 20年以上 | 3 5年以上10年未満 | 5 1年未満 |
| 2 10年以上20年未満 | 4 1年以上5年未満 | |

問6 あなたのお住まいの地区はどこですか。中学校区でお答えください。(○印は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1 三本木中学校区 | 4 甲東中学校区 | 7 東中学校区 |
| 2 切田中学校区 | 5 十和田中学校区 | 8 十和田湖中学校区 |
| 3 大深内中学校区 | 6 四和中学校区 | 9 第一中学校区 |

問7 あなたのお住まいの種類を教えてください。(○印は1つ)

- | | | |
|-----------|--------------|----------|
| 1 持ち家 | 3 市営・県営の賃貸住宅 | 5 福祉施設 |
| 2 民営の賃貸住宅 | 4 社宅・寮 | 6 その他() |

問8 現在、一緒に住んでいる方に、次のような方はいますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|-------------|
| 1 乳児（1歳未満） | 5 65歳以上の方 |
| 2 乳児を除く小学校入学前の幼児 | 6 介護を必要とする方 |
| 3 小学生 | 7 障がいのある方 |
| 4 中学生・高校生 | 8 いずれもない |

地域生活についてお聞きます。

問9 十和田市は暮らしやすいまちだと思いますか。（○印は1つ）

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 暮らしやすいと思う | 4 暮らしやすいとは思わない |
| 2 まあまあ暮らしやすいと思う | 5 わからない |
| 3 あまり暮らしやすいとは思わない | |

問10 あなたは現在、生きがい・やりがいがありますか。（○印は1つ）

- | | |
|--------|-------------|
| 1 ある | 3 どちらともいえない |
| 2 特にない | |

問11 あなたの生きがい・やりがいはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------|----------|
| 1 家族に関すること | 4 就労 |
| 2 趣味(文化・スポーツ)活動 | 5 その他() |
| 3 地域活動 | |

問12 生きがい・やりがいをもって暮らすためには何が必要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------|------------|
| 1 心身の健康 | 5 周囲の理解・協力 |
| 2 時間 | 6 行政の支援 |
| 3 経済的余裕 | 7 その他() |
| 4 活動場所 | |

問 21 この調査票を見る前から、共生社会という言葉を知っていましたか。(○印は1つ)

- | |
|-------------------------|
| 1 内容まで知っていた |
| 2 聞いたことはあるが、内容までは知らなかった |
| 3 知らなかった |

※共生社会とは：地域で暮らす様々な人の個性や価値観を認め合い、子どもから高齢者までの誰もがふれ合い、支え合う社会のこと

問 22 この調査票を見る前から、ヤングケアラーという言葉を知っていましたか。(○印は1つ)

- | |
|-------------------------|
| 1 内容まで知っていた |
| 2 聞いたことはあるが、内容までは知らなかった |
| 3 知らなかった |

※ヤングケアラーとは：本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと

問 23 あなたご自身は、現在ケアラーまたはヤングケアラーですか。または過去にそのような経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|-------|
| 1 ケアラーである(であった) | 3 いいえ |
| 2 ヤングケアラーである(であった) | |

※ケアラーとは：心や体に不調がある人の「介護」「看病」「療育」「世話」「気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者、友人・知人などを無償でケアする人のこと

問 24 あなたが、日常生活で不安に思っていることは、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 自分や家族の健康のこと | 9 職場での人間関係のこと |
| 2 自分や家族の老後のこと | 10 消費被害(詐欺)に関すること |
| 3 子どもの教育や将来のこと | 11 地域の治安に関すること |
| 4 乳幼児の育児に関すること | 12 地震や火事などの災害に関すること |
| 5 介護に関すること | 13 働くこと(就職・失業) |
| 6 収入など経済的なこと | 14 外出と移動に関すること |
| 7 地域での人間関係のこと | 15 その他() |
| 8 家族の人間関係のこと | 16 特にない |

問 29 住民同士の助け合いを地域で広げるために、市が力を入れるべきことは何だと考えますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 福祉活動の重要性の発信・地域共生に関する社会の理解促進 |
| 2 | 住民同士、住民と行政が地域福祉について話しあう機会の確保 |
| 3 | 誰でも気軽に集える「居場所」の確保 |
| 4 | 地域福祉やボランティアについての研修・講座の開催 |
| 5 | わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供 |
| 6 | 地域福祉活動団体の運営ノウハウ（資金調達等）の提供 |
| 7 | 地域福祉活動の相談や指導をするコーディネーターの派遣 |
| 8 | 地域福祉活動やボランティア等の拠点・窓口の整備 |
| 9 | 地域福祉活動に伴う費用助成の充実 |
| 10 | 町内会・自治会の加入促進 |
| 11 | 有志（周りの人、近所同士）で助けあう仕組みづくり |
| 12 | その他（ <input type="checkbox"/> ） |
| 13 | わからない |

問 30 あなたは、福祉サービスに関する情報を主にどこから入手していますか。
(あてはまるもの5つまでに○)

- | | | | |
|----|--------------------------------|----|---------------------------------|
| 1 | 家族、親戚 | 11 | 福祉関係団体 |
| 2 | 友人、知人 | 12 | 医療機関や福祉サービス事業所 |
| 3 | 隣近所 | 13 | 保育所、幼稚園、学校等 |
| 4 | 市役所（窓口、広報、ホームページ等） | 14 | 所属している団体やサークル等 |
| 5 | 十和田市社会福祉協議会
（窓口、広報、ホームページ等） | 15 | ボランティア・NPO |
| 6 | 町内会・自治会等
（回覧板・掲示板含む） | 16 | 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ |
| 7 | 民生委員・児童委員 | 17 | インターネットやSNS |
| 8 | 地域包括支援センターや
障がい者相談支援事業所 | 18 | その他（ <input type="checkbox"/> ） |
| 9 | 市生活困窮者自立相談支援センター | 19 | 福祉（サービス）に関する情報が
入ってこない |
| 10 | ケアマネジャーやホームヘルパー等 | | |

【ふたたび、全員にお聞きします】

問 36 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために、どのようなことが重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 地域における福祉活動の意義と重要性をもっと周知すること
- 2 地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備すること
- 3 地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行うこと
- 4 ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成すること
- 5 福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図ること
- 6 困っている人と、支援できる人との調整を図る人材を育成すること
- 7 困っている人や、助け合いの場・組織についての情報を得やすくすること
- 8 介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行うこと
- 9 学校教育や社会教育での福祉教育を充実させること
- 10 その他（）
- 11 特にない

問 41 あなたは、生活困窮の問題や支援制度について、どう思われますか。（○印は1つ）

- 1 自分や自分の身近な人が問題に直面しており、必要な制度だと思う
- 2 自分の身近に問題に直面している人はいないが、必要な制度だと思う
- 3 必要のない制度だと思う
- 4 生活困窮の問題や制度に関心がない、わからない
- 5 その他（ ）

問 42 十和田市の福祉政策をより充実させるために、あなたが重要と考える取り組みは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

- 1 隣近所など、周囲の理解と協力による見守りなどの支援を充実させる
- 2 ボランティア団体など市民活動への援助を充実させる
- 3 高齢者や障がいのある人が地域で活動できる機会をつくる
- 4 人が集まり、気軽に相談できる場を充実させる
- 5 健康や福祉についての情報提供を充実させる
- 6 住民がお互いに助け合い支え合うまちづくりをすすめる（住民同士や行政との協力等）
- 7 健康づくりや生きがいづくりが盛んなまちづくりをすすめる
- 8 自宅での生活を支援する在宅福祉サービスを充実させる
- 9 高齢者、障がいのある人、児童の施設サービスを充実させる
- 10 安心して子どもを生み育てられる子育て環境を充実させる
- 11 手当てなど金銭的な援助を充実させる
- 12 ボランティア活動やNPO活動への支援（参加促進・助成など）を充実させる
- 13 交通の利便性の確保をすすめる
- 14 道路の段差解消など、バリアフリー化をすすめる
- 15 その他（ ）

再犯防止についてお聞きします。

問 47 あなたは、非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない |

問 48 あなたは、非行や犯罪をした人の立ち直りのために、どのような支援が必要だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 人とのつながり | 8 住まいの確保の支援 |
| 2 当事者同士の集いの場づくり | 9 支援者の育成 |
| 3 自立に向けたカウンセリング | 10 地域住民の理解 |
| 4 相談窓口の設置 | 11 その他 () |
| 5 就労支援 | 12 特にない |
| 6 就学支援 | 13 わからない |
| 7 経済的な支援 | |

十和田市社会福祉協議会、民生委員・児童委員についてお聞きします。

問 49 あなたは、十和田市社会福祉協議会を知っていますか。(○印は1つ)

- | |
|--------------------|
| 1 名前も活動も知っている |
| 2 名前は知っているが活動は知らない |
| 3 名前も活動も知らない |

問 50 あなたは、地域の民生委員・児童委員を知っていますか。(○印は1つ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 地域の民生委員・児童委員さんも活動内容も知っている |
| 2 地域の民生委員・児童委員さんは知っているが、活動内容は知らない |
| 3 地域の民生委員・児童委員さんは知らないが、活動内容は知っている |
| 4 地域の民生委員・児童委員さんも活動内容も知らない |

2 使用した調査票（団体）

第3期十和田市地域福祉計画策定のための アンケート調査

団体用

～ご協力のお願い～

地域で活動している事業所や団体の皆様におかれましては、日頃から市政にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

十和田市では、平成28年3月に第1期として「十和田市地域福祉計画」を策定し、基本理念である「ともに支え合う 地域共生のまちづくり とわだ」をもとに、地域福祉の各種取り組みを進めてきました。

つきましては、第3期となる次期計画の策定にあたり、地域福祉に関する現在の状況やその他皆様のご意見等を広くお聞きし、今後の各種施策に反映させるため、アンケート調査を実施させていただきますと思います。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、計画策定にあたりましては、市内在住の18歳以上の方1,000名の方を対象とした市民向けの調査も併せて実施しております。

令和7年9月 十和田市

ご回答にあたってのお願い

- 回答は、設問ごとに決められた数だけ、あてはまる項目の番号に○印をつけてください。
- 回答していただく方が限られる設問もありますので、設問の指定に沿ってお答えください。
特段指定がない設問については全員がお答えください。
- 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内になるべく具体的にご記入ください。
- 回答期限は **令和7年9月19日（金）** です。 ※当日消印有効

この調査に関するお問い合わせ先

十和田市健康福祉部 生活福祉課 福祉係

TEL：0176-51-6718

FAX：0176-22-7599

貴団体の概要についておうかがいします

問1 貴団体の名称を教えてください。

名 称

問2 貴団体の連絡先を教えてください。

連 絡 先

問3 貴団体の構成人数はどのくらいですか。(○印は1つ)

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 5人以下 | 4 21～50人 |
| 2 6～10人 | 5 51～100人 |
| 3 11～20人 | 6 101人以上 → ()人 |

問4 貴団体の構成員の平均年齢はどのくらいですか。(○印は1つ)

- | | |
|------------|------------|
| 1 20歳代以下 | 3 50歳～60歳代 |
| 2 30歳～40歳代 | 4 70歳以上 |

問5 貴団体の活動年数はどのくらいですか。(○印は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|---------|
| 1 1年未満 | 3 3年以上5年未満 | 5 10年以上 |
| 2 1年以上3年未満 | 4 5年以上10年未満 | |

問6 貴団体の主な活動区域を教えてください。(○印は1つ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1 市内の一部地域 | 4 県内 |
| 2 市内全域 | 5 隣接県を含む地域 |
| 3 市内と隣接市町村など | 6 その他 () |

問7 貴団体の活動は、おおよそどのくらいの頻度で行っていますか。(○印は1つ)

- | | |
|---------|-----------|
| 1 週5～7回 | 5 年6～11回 |
| 2 週2～4回 | 6 年1～5回 |
| 3 月3～4回 | 7 その他 () |
| 4 月1～2回 | |

貴団体の活動等についておうかがいします

問8 貴団体が取り組んでいる地域活動等の分野を教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 町内会 | 8 交通安全・防犯、防災 |
| 2 高齢者支援 | 9 清掃・美化、エコ活動 |
| 3 障がい者支援 | 10 芸術・文化振興、趣味活動 |
| 4 子育て支援 | 11 男女共同参画・人権問題 |
| 5 健康づくり・医療 | 12 地域コミュニティ |
| 6 青少年育成 | 13 まちづくり |
| 7 教育・生涯学習、スポーツ | 14 その他 () |

問9 貴団体では、活動のPRや会員の募集などをどのような方法で行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 会報 | 8 市社協のホームページ |
| 2 会員一人ひとりの紹介 | 9 ボランティアセンター |
| 3 講演会や研修会など主催するイベント | 10 公共施設や店などでの張り紙、ポスター |
| 4 開設しているホームページ、メール | 11 新聞やミニコミ紙、TV、CATV |
| 5 市の広報紙 | 12 関連団体への依頼 |
| 6 市のホームページ | 13 その他 () |
| 7 市社協の広報紙 | 14 行っていない |

問10 貴団体が活動を行ううえでの問題点・課題について教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 活動場所の確保が難しい | 10 関連団体との連携がうまくいかない |
| 2 活動資金の調達に苦労している | 11 スタッフの活動意欲の維持が難しい |
| 3 スタッフが不足している | 12 活動ノウハウの不足 |
| 4 スタッフの高齢化が進んでいる | 13 他団体や事例等の情報不足 |
| 5 後継者がいない・育たない | 14 他の団体やグループと交流する機会が少ない |
| 6 スタッフの固定・人事が硬直化している | 15 活動の充実に向けた研修等の機会がない |
| 7 活動がマンネリ化し、活動が広がらない | 16 その他 () |
| 8 活動に対する周囲の理解不足 | 17 特に問題はない |
| 9 市民に情報発信する場や機会が少ない | |

問 11 貴団体では、サービスの質の向上のために、取り組んでいることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 サービス提供にかかる職員研修の実施 | 7 事業評価の積極的な開示 |
| 2 相談窓口の設置などの環境整備 | 8 施設・設備等の充実 |
| 3 サービス提供マニュアルの作成 | 9 利用者家族とのつながりの強化 |
| 4 サービス利用者への満足度調査等の実施 | 10 その他 () |
| 5 利用者への情報提供の充実 | 11 特にない |
| 6 個人情報保護・管理の徹底 | |

問 12 今後、地域のだれもが安心して生活するために、取り組むべき課題は何だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|----------------------------|
| 1 隣近所とのコミュニケーション (あいさつなど) |
| 2 地域活動への参加 (町内会・祭りなど) |
| 3 防災・防犯活動 (地域の見守り・パトロールなど) |
| 4 若者と高齢者との交流 (交流行事の企画など) |
| 5 地域活動の担い手育成 (町内会役員など) |
| 6 高齢者や障がい者の支援 (日常の見守りなど) |
| 7 子育て世帯への支援 (見守り・相談など) |
| 8 ケアラーへの支援 (啓発・相談など) |
| 9 医療的ケアが必要な方への支援 (啓発・相談など) |
| 10 独居世帯への支援 (見守り・家事手伝いなど) |
| 11 交通弱者への支援 (外出時の付き添いなど) |
| 12 買い物弱者への支援 (買い物代行など) |
| 13 子ども・大人のいじめ問題 (啓発・相談など) |
| 14 生活マナー問題 (ごみ出し・ペットなど) |
| 15 災害時の避難体制 (要援護者への支援など) |
| 16 その他 () |
| 17 特に課題はない |

問 13 貴団体の活動を通して、見聞きしたことや対応したことがある事例はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢の親と中高年の子の世帯であり、子のひきこもりや経済的自立等の生活課題がある(8050問題)
- 2 親の介護と子育てを同時に行っており、負担や孤立を感じている(ダブルケア)
- 3 18歳未満の子が、大人が担うと想定されている家族の介護や世話をしている(ヤングケアラー)
- 4 医療的ケア児の家族の負担が大きい
- 5 必要と思われる支援や関わりを拒否し、適切な支援が受けられていない
- 6 精神疾患や知的障がい疑われるが、本人に病識がなく適切な支援につながらっていない
- 7 地域とのつながりがなく、地域とのトラブルがある(迷惑行為、ごみ屋敷等)
- 8 経済面で支障が生じているが(収入があるが、金銭管理ができていない等)、生活保護等の公的な制度に該当しない
- 9 生活保護世帯であるが、金銭管理等ができず生活に支障が生じている
- 10 外国人市民でコミュニケーションがとれず孤立しており(意思疎通に難がある、文化の違い等がある)、様々な生活課題が生じている
- 11 生活課題があるが、該当する制度がない(基準に満たない、年齢要件にあてはまらない、在留資格が要件にあてはまらない等)
- 12 特になし

問 14 貴団体では、他のグループや団体、公共機関などと交流や協力関係がありますか。

(○印は1つ)

- | | | | |
|---|--|---|---------|
| 1 | 数多くの団体と、活動上の協力を行ったり、情報交換を行うなど活発に交流を行っている | } | →問 15 △ |
| 2 | いくつかの団体とは、活動上の協力を行ったり、情報交換を行うなどの交流を行っている | | |
| 3 | 他団体の情報はある程度把握しているが、交流や活動上の協力の機会はほとんどない | } | →問 16 △ |
| 4 | 他団体の情報の入手の仕方がよくわからず、交流や活動上の協力の機会がもてない | | |
| 5 | 独自での活動を中心に行っており、他団体との関係はあまり意識していない | | |
| 6 | その他() | | |

【問 14 で、「1」または「2」とお答えになった団体の方にお聞きます】

問 15 どのような形で交流・連携・協力しているか教えてください。

【ふたたび、すべての団体の方にお聞きます】

問 16 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進めるために、様々な主体（住民－事業者・ボランティア・NPO団体－行政など）が協働していくことが求められています。貴団体の取り組みとして、今後どのようなことが必要だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|---------------------------------|--|--|
| 1 | 町内会など、地域団体と連携して、活動の場を広げる | | |
| 2 | 団体が持っている活動のノウハウを地域の住民や他の団体に提供する | | |
| 3 | 行政が行っている事業を受託する | | |
| 4 | 他の団体や関係機関との交流の機会をもつ | | |
| 5 | ボランティアスタッフを積極的に受け入れる | | |
| 6 | その他() | | |
| 7 | 協働の必要性はない | | |

問 17 貴団体が活動をしていくうえで、市に望むことはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 事業所や活動についてのPR | 7 他の法人・団体とのネットワーク化 |
| 2 活動上必要な情報の提供 | 8 事業者運営上の助言 |
| 3 活動場所の提供 | 9 設備・備品の充実 |
| 4 会員募集の支援 | 10 成果の発表の場の提供 |
| 5 リーダーの養成支援 | 11 その他 () |
| 6 経済的支援 | 12 特にない |

問 18 地域における住民の福祉活動推進について、行政に期待することは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1 学校などでの福祉教育の充実 |
| 2 介護や障がいなどの福祉課題についての情報発信や勉強会の実施 |
| 3 住民達が健康を維持するための方法の周知 |
| 4 地域の人達が気軽に集まって交流することができる場所の拡充 |
| 5 定年を迎えても地域で活躍できる場の提供 |
| 6 在宅福祉を支えるサービスの充実 |
| 7 道路の段差解消や手すり、ベビーベッド付きトイレなどのバリアフリーのまちづくり |
| 8 相互の助け合いを念頭に置いた、市民一人ひとりの意識を改革していくための啓発 |
| 9 ボランティア団体などの活動資金獲得のためのノウハウ支援(クラウドファンディング等) |
| 10 困った時に、いつでも・誰でも相談できる柔軟な相談窓口の設置 |
| 11 権利擁護など個人の自立を支援するサービスの充実 |
| 12 福祉に携わる専門知識を持った人材の育成 |
| 13 その他 () |
| 14 特にない |

十和田市 地域福祉計画策定調査

－調査結果報告書－

発行年月：令和8年3月

発行：十和田市 健康福祉部 生活福祉課

〒034-8615 青森県十和田市西十二番町6-1

電話 0176-51-6718 FAX 0176-22-7599

調査委託：株式会社サーベイリサーチセンター